

眼の開いた盲目は試に困りものである。眼が開いて居るから、御前は盲目だと云つても仲々素直に聞かないし、眼前に實物を見せても見えない位だから、將來のことなどは、てんで解からないで無茶苦茶を云ふ。

日本の農業に機械など使へるものかと云ふ連中が此類で、何所までも高天ヶ原農業の讚美者である。先年三月四日クリッヂ大統領就任式の時に、數千哩を隔つるワシントンからサンフランシスコに十分間で寫眞が電送された世の中だ。ラデオが發達して東京の放途がアメリカに聞えるではないか、早い話が日露戦争の旅順口攻撃に、例の飛行機が二三臺あれば十數万の生靈と一年の日子を要する様なことはなかつたに違ひないが、當時に今日の飛行機の發達を夢想したものが何人あつたらうか。愚者はエマーソンではないが。過去と現在に執着して將來を見るの明がない。十年を出ずして我國の農村にもトラクターや刈取機の實用に供される時機が来るに違ひない。

さすれば我國の米作も優に十人以下に節減することが出来る。尙ほ此機械化の外に畜力利用の餘地も澤山ある。畜力の利用は勞力問題と共に肥料問題として生産費の大なる節約となる。唯此農業機械化の前提としては耕地整理の斷行と土地交換法の實施、耕作道路の改善と共同耕作の實施

が必要である。耕地整理を斷行して、一枚の耕地を少くも二段歩以上にし、畔道を低く細くして機械の通過に便にし、機械の往復回數を減ずるために形狀は出来る限り長方形にし。最も肝要のことは乾田にするにある。其他米作に限らず我國の農業に於て耕地整理の急務なことは云ふ迄もないが、一番の捷徑は用悪水路の幹線を作ること、此さへ出来れば他の整理は自ら進捗するから、用悪幹線水路は宜しく國營又は縣營となすべきである。既に政府でも此を實施して居るが餘りに小規模であるから、更に大に如斯有益の事業は國費を投じて大擴張する必要がある。

土地交換法の實施 次に我國で最も必要なのは土地交換法の實施である。ヨーロッパでは既にチェツク共和國ハンガリー和蘭等で盛に行はれてゐる。即ち土地交換法を設けて、耕地整理をしなくも、耕地を一箇所に集めることが必要な場合には、強制的に耕地の交換が出来る様にせねばならぬ。此は今日の我農村で耕作上、運搬上最も肝腎のことで、我國の農家の耕地の様に十町離れて一段歩、三町行つて五畝歩と云ふ具合に、僅か一二町歩の土地が七八ヶ所にも分かれて居る國はヨーロッパでは想像できない。所で、英國、丁抹は勿論各國に於て舊來の部落主義を捨て、農家を中心として周圍に耕地を集合させて居る。

歐米の農村を旅行して當初最も不思議に思はれたのは、我國の如く農家が部落的に集合しないで所謂野中の一軒家が多く、近隣の交際其他万事不都合だらふと日本流に考ふるものがあるけれども、これは歐州各國が實驗上から改良した經濟的經營法の結果であつて、理想的農家としては自分の家屋の周圍に耕地を集めるのが一番よい。この點に就て、中央ヨーロッパや白耳義、和蘭の農村に入ると幅員の極めて狭く、然も數町又は十數町に亘る狭長の耕地があることで、殊にハングリー平原に多い。これは相續のため段々に幅を分割譲與したもので、今日はその弊に堪えないで、耕作上非常に不經濟だから土地交換法により同一の價值ある耕地は強制的に交換させて居る。

今此土地交換法についてチエツクの狀況を述べると、耕地が斯様に狭長となつた原因は主として相續のためであつて、穀物の收穫時期に農村を旅行する時は成熟期の異なるために萬頃の沃野が或は未だ青く、或は黄に、無數の縞が織りなされてゐるのを見る有様で、耕作上の不便なるは勿論、此が境界に溝を作る習慣があるから、土地利用上は勿論病菌の巢窟となり、收穫の蒙る損害も少くない。且又境界等について所有者の紛議が絶へないで、此等永年の弊害からしてムラビア州地方

には十九世紀の中頃、既に此土地交換が自治的に行はれて、其成績が良好であつたから遂に一八八三年土地交換法の制定を見、一八九〇年から實行された。

施行の方法は一町村毎に計畫を樹て、計畫圖面を作つて揭示し、利害關係者初め町村民の觀覽に供する。若し異議のある時は申立をすることが出来る。其内容は單に土地の交換を行つて、可成一農家毎に耕地を集めるばかりでなく、共有地を分割したり、森林地帯を開墾したり、耕地を擴張利用するので、此を施行する場合は少くとも町村農民の二分の一、若くは總耕地の三分の一を所有する農民の同意を條件とする。排水灌漑を必要とする場合は此も強制することが出来る。森林の開拓には同じく二分の一以上の所有者の同意が必要で、此が施行の時には勿論必要な道路、橋梁及水利の設備をもせねばならぬ。

交換すべき土地は舊土地と同様の廣さ、地味及同種類の耕作に適するものたることで、面積に於ては五分の一、價格に於ては普通四十分の一以下、特別の場合には二十分の一以下の輕差を許可する。土地は成るべく大面積に、道路農舍等に便利に、要するに舊土地に比して新土地は經營上好都合でなければならぬ。此等の經費は一ヘクター約三百乃至六百クラウンを要し、國家と當該

農民兩者の負擔である。斯様な方法で耕地は約二十五パーセントも増加したし、上述した一切の紛擾や不利は除却され、器械の使用も便利となり。時間及勞力の經濟が仲々大變である。

大戦前五十六ヶ町村交換を了へたし、大戦の爲め一時中止しなければならなかつたが、戦后又着々と實行され、モラビア州に於て百三十ヶ町村、一万六千九百六十七農家について、七万四千二十九ヘクターを整理し、シレヂア州に於て六ヶ町村三百十四農家について二千五百七十九ヘクターを整理し、共有地の分割整理はモラビア州の二十五ヶ町村に亘つて、千五百五十七ヘクターを千七百三十七人に分與し、シレヂア州に於ては二百六十九ヶ町村に亘つて一万一千八百三十六ヘクターを二千八百九十六人に分與した。

我國も速に此土地交換法を作つて耕地を出来るだけ住宅の近くか、或は一ヶ所に集め得れば、恐らく一町歩の土地は二町歩位の能率を上げることが出来る。又機械農具を使ふ上には是非共必要である。

共同耕作の實行 尙農業が機械化され、ば現在の様な一町や二町の小規模の農業經營法では、機械も買へないし使用上にも不經濟であるから、後に述べる伊太利の實例の様に一町村或は一部

落毎に此を産業組合による共同經營とし、少くとも先づ比較的實行し易い米作から共同經營にし、色々の經驗を積んでから畑作をも同様にやればよい。此實施案に就ては後述する。

要するに我國の農業は技術的、經營的方面から觀察すれば生産費半減をモットーとする農業の機械化及共同經營に進まねばならぬ。唯此には死ぬか生きるかの苦しい目にあはねばなく、改良し悪いものである。

農業の電化 農業の機械化を述べる場合に特に研究を要するのは農業の電化である。我國では愛知、岐阜、佐賀、新潟等の各府縣に於て、既に試験の時代を過ぎて實行の時代に入り、主として灌漑、排水、稲摺、精米、豆粕削り等の作業に利用されて、灌漑排水の面積は三万五千町歩に及んで居る。愛知縣では東邦電力會社の好意により、大正十二年以來縣内四箇所に電化農場を設け産業組合により經營してゐる。其成績も良好であり、漸次各地に普及の状態である。其重なる作業は稲摺、精米、豆粕削り、繩ない等で、稲摺は一俵十錢乃至十四錢、精米は一俵十八錢乃至二十錢、豆粕削りは一枚三錢宛を組合員から徴收する。

農業電化に當つて注意すべき點は第一に低廉なる電氣の供給であつて畢竟生産費節減が主眼だ

虞ある機械農業の採用は思はざるの甚しいものであると、第二は失業問題の見地から反対するものであつて、機械の使用により労力の節約は喜ぶべきことであるが、此がために農村に多数の失業者を生じ、今や失業問題は我國に於ても由々しい社會問題であるから、農業の機械化により急激に然も多数の失業者を生ずることは國策として得たるものでない。即ち失業者問題の對策を講じないで農業の機械化を實行するは甚だ危険であると。

第一説の食糧政策上よりの反対は數年前責任ある農務省當局より聞いた所であつて、農界の熾烈なる慾求と當局の頭腦と、如何に懸隔あるかに驚き入つた次第である。假に論者の生産減説を是認するとしても、職業の通則として人は自己を犠牲に供して長く職業を営みうるものでないから、農民は經濟を無視して農業をなすものでない。如何に食糧自給が必要だと云つても斷じて收支相償はざる米作をなすものはない。寧ろ今日の如き人力本位の米作を経續すれば、米價に比べて生産費が多くなる結果必ずや收穫を減ずるであらふし、寧ろ食糧政策の見地から云へば、食糧自給策の第一義は實に米價を相當に向上せしむるにある。若し米作にして生産費に比し相當有利であれば、其利益に正比例して收穫の増加するのは火を見るよりも明かである。收穫の増加しない則

由は、食糧政策の危機は寧ろ今日の儘の騰貴其他に基く生産費の向上にある。従つて食糧政策上から見るも機械化は實に焦眉の急務である。更に又我國に於ける農業の機械化は必ずしも生産を減ずるものでない。亞米利加濠洲の如き大農法は收穫を減ずるけれども、此は粗放の農業が經濟上有利であるからで、機械化は必然的に粗放農業を伴ふものでは決してない。現に自分が丁抹に於ける麥の收穫率を聞いた際、丁抹の農家にありて農業を研究せる四名の同胞は悉く我國麥作の收穫よりも多いと云つたのに驚いた次第で、仔細に耕作肥料——綠肥、厩肥が多量であるから地力が非常に肥えてゐる——等の實際を聞いて其當然なるを知つた。然も其丁抹が左表に示す如く麥作につきて歐洲中、中位以下の國なるを見る時は農業の機械化が決して必然的に收穫を減ずるものでない事を知るに足りよう。

收穫調(一エーカー當)一九二四年英國政府調査

佛國	一八七八—一八八一年	一八・三	小麥	一八・五	大麥	一九・〇	燕麥	八・五	裸麥	二・六	馬鈴薯
	一九一一—一九一三年	一〇・五	小麥	一一・二	大麥	一〇・六	燕麥	七・七	裸麥	三・五	馬鈴薯
			噸								

獨逸	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年
白耳義	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年
和蘭	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年
丁抹	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年
英國	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年

Op. は百十二封度我が十三貫五百四十七匁で一エーカーは四段二十四歩余

殊に我國の如く、小面積で集約農業に慣れた農民は、たとへ機械化となつても、依然として集約的にやるし、粗放とか集約とかは要するに耕地面積と農業人口との關係によるのである。我國に於ても愛知縣に於ける民間の二ヶ所の機械農場の成績によると、寧ろ約一割の收穫を増加せる有様である。歐洲にあつては寧ろ小農に收穫を減ずるとの議論があり、東歐並に中歐の土地改革の結果は現に收穫減を來した有様で、目下大農、中農、小農の經濟比較論は最是重大なる問題となつて居る。自分の面會した獨逸のゼーリング教授、チエツクのブルドリツク教授丁抹のラルセ

ン教授等は熱心なる此問題の研究者である。

更に第二説の失業反對論は理論上から見る時は有力なる反對論の様であるが、此又畢竟數學的議論又は聊か机上の空論たるの譏を免れない。自分は數年來此種の議論を學者、政治家等から屢々ば聽いたが、所謂抽象の議論であつて、單に論理の形式から云ふと、勞力節約の結果は農村に失業者を瀕出すると云ふのは正しい様であるけれども、下の理由により反對論は決して實際論ではないと思ふ。

第一我國の農村は寧ろ現在に於て勞力の不足を感じつゝある。農村に於ける勞力の不足は獨り我國に止まらず全く世界的であつて、英佛は勿論丁抹、獨逸、白耳義、和蘭等に於ても同様である。佛國の如きは伊太利、西班牙等から一年百五十万の國外農業勞働者を移入して居る。丁抹、獨逸も同様である。そして英國を始め各國に於て都市には——英國は常時百十六万以上——多數の失業者があるが農村は前述の如く、勞力の不足に苦み、然も此等失業者は勞賃の懸隔が甚しいから——英國は都市勞働者一週三磅以上であるが農村は漸く最低賃銀一磅半の法律が通過した有様である——決して歸農しない。我國に於ても近時農村勞力の不足は著しい現象であつて、爲めに

農業賃銀を各國に比較する時は其他の物價に比べて寧ろ稍々善い狀況なのは、一面勞力の缺乏の甚しいことを知るに足りよう。而して我國の農村勞力缺乏の主因は我國の農業が穀作養蠶本位であつて、家畜を伴はない單一農業であつて、所謂工業的農業たらざるが爲めである。即ち夏季と收穫時季とは想像も及ばない程忙しいが冬季は又比較し得ない程閑散である。故に繁忙期には勞力の大缺乏を告げ、閑散期には職業なきに苦む有様で、之を調節するには家畜の飼養を盛んにする外方法がない。殊に歐洲には大陸のことゝて所謂季節移民が多く、繁閑の調節が比較的よいが、此點から見て我國は農業經營の改善は最も必要なると同時に勞力の缺乏を痛感しつゝある今日、農村に於ける失業の聲は全く想像であつて實際でないことを知るに足りよう。

第二に我が國の農村及農業の振興を圖るには今後益々多大の勞力を要する事である。

前述した如く、我國の農業は殆んど原始的單一農業であつて生産、販賣、購買等一切の農業組織が不完全であるから、農業の利益が薄く従つて農村の疲弊を來たすものであるから、農村振興策の第一義にしては農業經營を改め普通農業に家畜農業を伴はせ、産業組合、農會等の組織を改善して生産を増加すると共に中間商人を省いて農民自ら生産、販賣、購買の衝に當る様にせねばな

らぬ。従つて今後此等諸施設の實行に伴つて丁抹の様に工業的農業となり、生産は勿論加工販賣等を一切農民がやることゝなれば、勞力の需要は益々増加するに違ひない。丁抹の實況を見れば明瞭である。尙又電車の通過、自動車の發達は決して都市勞働者の職を奪はないで、却つて増加した如く、我國の農村が將來農業の機械化を來し、前述した様に各種の組織が發達したならば、あらゆる産業の進歩上實驗した如く、豫想し得ざる幾多の職業は自然に生れて來て、殊に此等機械化其他により農業の繁榮を來すならば、不景氣の襲來と異り、職業の増加は自然の勢である。即ち農業の機械化により我國の農村は必ず職業が殖へて彼の發動機の轟々たる響と共に眠れる農村は醒めるし、伊太利の共同耕作組合の經驗でも工業的農業の結果勞力は三倍に増加した。

第三に農村機械化は漸進的である。我國の耕地は區劃地勢乾濕其他の理由によつて、機械の利益を知つて遺憾乍ら使用し得ない所が少くない。又我國民性として機械の知識が少く、且つ農民は頗る保守的であるから、之れが普及は容易の業でない。従つて相當の時日を要する。吾々は所謂失業問題を生ずる程迅速に機械化の普及を欲するけれども、事實は決して如斯順調急速に進まない。だから實際は決して論者の云ふが如き失業問題を生じない。

第四に我國の農民の生活にも今少しく餘裕を與へたい。

獨り農民に止まらず前述した様に、我國民の生活は歐米の文明國民に比し、生活の餘裕が殆んどなく、日々營々として眞に人生苦役の觀がある。歐米人の人生觀は樂まんが爲めに働くにあり、従つて生活の樂みが豊富である。我國民の人生觀は人生働かんがために生れた様のもので、快樂は寧ろ罪惡と云ふ誤つた考が昔からある。加ふるに又實際上經濟力が乏しくて時間の餘裕が少いから萬事に餘裕がない。文明は一面より見ると餘裕の産物である。餘裕のない所に進歩がない。大國民として世界の競争場裡に輸贏を決するには今少し餘裕があり、遠大の計畫を以て總計算に於て勝利を得る様心懸けねばならぬ。此點から見る時に農村に於ても文明利器の應用に依つて經濟力を養ふと共に労働時間を短縮し、生活に餘裕を作る様にせねばならぬ。若し農業の機械化により農村の勞力に餘裕が出来たならば文化の向上のために利用すべきである。

第五に我國の耕地面積の現状から見て現在の如く農民が國民の五割二分七厘を占むることが果して慶すべきことであるかどうか、前述した様に耕地が全面積の僅に一割五分七厘であり、農家一戸當り一町歩と云ふ世界無比の極小農國に於て將來益々農民が増加することは危険なる社會問

題が出来るから、寧ろ將來は出来るならば農業人口を減少すべきである。農業の機械化に依つて勞力が些少でも餘る様になれば、寧ろ他の商工業方面に農村人口を移すのは賢明の策である。

何れにしても農業機械化反對論は前述の如く杞憂と云つて差支ない。否益々農業を機械化することが我國の國策として大に必要である。

肥料費の半減 肥料費の半減策としては

- 一、地質の調査即ち施肥法の改善
- 二、肥料講入方法の改善並共同配合
- 三、自給肥料の製造

の三方法を實施すれば半減策の如きは易々たるものである。

我國の現在農家の施肥法は恰度醫者に診察をして貰はないで、素人が勝手に得體えんたいの知れない賣藥を飲むと同様で、尙ほ賣藥も近頃の進歩した賣藥でなく、盲人が内容も知らないではめられて買ふのと同じである。第一肝腎な地質の調査も知らないで、然も單一肥料を何年でも施す結果、いくら藥や滋養物でも、過度になれば却つて病氣を起す如く、折角の肥料がききめが少い。先づ此耕

地の地質調査を充分にして其性分地質に應じた肥料をする。これには産業組合や農會で大規模に肥料の原料を購入して、自ら共同配合をする。即ち此等の團體が自ら醫者たり、藥劑師になつて土地に應じた肥料をすれば、品物も確かだし地質にも適ふし第一に經費が非常に安い。

次に金肥萬能の農業は經濟上は勿論、地力の維持上非常に不利で従つて生産物の量と質とに影響するから、先づ綠肥を出来るだけ多く栽培し、第二に家畜を飼養して厩肥を多量に製造する、丁抹の農家を訪ねた時、金肥は一町歩に約十八圓で他は總て自給肥料であつた。然も地力の肥える主たる原因は此自給肥料の力である。如斯方法によれば肥料費の半減も左程困難でない。唯農民の努力と勤勉とが肥料費半減にも先決問題である。今日の如く樂をして金儲けをしようとする忌むべき農民心理では到底駄目である。

負擔の半減 土地に對する負擔も亦半減の方針で進まねばならぬ。此點も既に朝野の議論となつて居るから些程難事ではない。

前述の如く、我國農業の負擔は世界一に重いから、殊に地租が累進税でない結果、大地主に軽く小地主に重く、不公平極まる現況であるから、地租に關しては改正を加ふる必要がある。地租は

比例税なのに、大地主に軽いとは一見不思議だけれど、我國農村の租税の體形は、殆んど地租を中心として、彼の戸數割の如きも形を變へて土地に課するものに外ならない。従つて戸數割は所得の割合よりも其名の如く、自然戸數に分配されて實際の負擔は小農に重く、反當り大地主は八圓以下なるに、小農は十二圓以上の奇現象を呈してゐる。これ故先づ負擔の均衡を計る方法としては

第一、地租を全廢して所得税とすること

第二、地租の全廢が不可能ならば、少くとも自作農に限り一町歩以下の租税を全免する

我國の地租は収益の有無に係はらず土地に負擔するのだから、豐年の際には苦痛を感じないけれども、平年作以下なるときには大變負擔に苦むことになる。凡そ課税は其の額の多寡は固より納税者の利害に關係あるけれども、その時機を選むことが肝要で均しく一圓の負擔でも豐作の時と又凶作のときはその擔税力に影響をすることが大變違ふ。現行の地租の如きものは租税の原則に反するから之を全廢し、所得税とし、収益の多寡に應じて賦課するのを公平とする。若し地租の全廢が直に實行せられない場合には少くとも自作農に限り三町歩以下の所有者に對しては小農保護の爲めに一町歩迄免税すべきである。尙ほ地租全體に對しては出來得る限り輕減を行ふ必要

がある。前述した如く國稅地租の負擔だけならば些程農民の苦痛ではないけれども、府縣稅、町村稅、協議費其他一切に亘る負擔は農村では、土地を標準として課せらるゝから頗る苦痛で、事實は時に收益以上の負擔を餘儀なくせらるゝことがある。

元來土地は稅源として發見し易いのと、古來租稅と云へば地租と云ふ風に傳統的に重課して來たから、他の租稅に比べて我國では收益の少いの拘はらず頗る重い。

第三に負擔の公平を期するために地價の大修正を至急行ふ必要がある。此地租の基本になる地價制定が維新創早の際急いでやつたゝめと、藩閥の勢力關係から不公平にきめたのと、更に年月の経過のために實際の地價と非常なる相違を來して、租稅の上に大なる不公平を來して居る。

一體租稅の原則としては、負擔の公平と云ふことが最も肝要で租稅の重輕に拘はらず、負擔が公平でないとな稅者に不平を懷かせて怨嗟の聲が高くなる。態令重稅でも公平であれば或程度まで納稅者は我慢する。現行地價の亂脈は實に言語道斷でこの改正は焦眉の急務である。

善道は善政 農村の道路が悪いことは前述した。殊に耕作道路の如きは狭くて到底機械農具の運搬は出來ない。我國の政治で最も必要なことはこの道路の改良と上下水其他の衛生設備である。

が、特に道路の悪いために蒙る國民の損害は非常のものである。先づ道路を直に歐米の様にコンクリートに出來なくも、幅員を廣くし路面を固めて交通運搬に便利にすることが何よりの急務である。善道は善政なりと云ふが、歐米を視察して最も痛切に感ずることは道路の善いことである。農村でも道路さへよくなれば生産物の運搬は固より、日常の耕作の上にどの位費用を省けるか知れない。

其他生産費の節約としては資金の點もあるが、これは後に説く。主として産業組合の活動に俟つて現在の高利を低利に借換ふるのは困難なことでない。

要するに前述した方法による時は生産費の半減は決して至難でない。以上は主として米作に就て述べたが、農業の機械化は米作のみならず、畑作にも尙更容易に應用出來るのである。生産費半減は畢竟今日は農民の自覺と努力さへあればもう問題でない。

第七章 大農か小農か

一九八

第一節 世界の論戦

自作農政策の根本問題 大農經營が經濟的であるか、小農經營が經濟的であるかは自作農政策の根本問題で、ヨーロッパに於て自作農政策に反對して居る大地主、貴族等は勿論、資本階級の連中の最も有力なる反對理由は此點で、彼等の説によるとヨーロッパでは自作農創設の結果、小農經營となつたため大農當時に比較し著しく收穫を減じ、結局國家生産上からは勿論、個人經濟の上にも決して有利でないと言ふにある。

又實際ヨーロッパの各國が自作農政策を一齊に採用し、殊に中歐、東歐等の急激なる土地改革の結果多くの國に於て生産を減じたのは確で、チェツクの如きは六割になつたと傳へられて居る。若し果して彼等反對者の云ふが如く、自作農政策の結果は自然従來の大農經營は減じて小農經營が増加するから、小農經營にして收穫を減じ、尙ほ經濟上不利でありとすれば、此は自作農政策の

根本に關する大問題である。ヨーロッパ各國の學者政治家が躍起となつて研究して居るのも尤もである。

所が日本はこれと正反對で、小農經營より漸次機械農業の大農經營に——尤も日本の大農經營と云つても精々二十町歩か三十町歩でヨーロッパの小農から中農の下部と云ふ所である——と云つても、大農は寧ろ生産を減ずるから、機械農業は國家の食糧政策から見て反對であると云ふ移る結果、大農は寧ろ生産を減ずるから、機械農業は國家の食糧政策から見て反對であると云ふ様。東西議論の異なる、誠に面白いではないか。

政治上、社會上から考へて自作農即ち小農が國家に最も必要なことは議論の餘地がない。唯問題は經濟上の議論であるが、これも果して論者の云ふ如く小農は經濟上に不利益であらうか。

ヨーロッパでは大農が利益か ヨーロッパで小農の現在振はない理由は左の通りである。

- (1) ヨーロッパでは分益小作や農業労働者は農業經營の經驗がないこと
- (2) 小農に適當の農具が大農に比較して世の中に行はれてゐないこと。これはヨーロッパは元來大農經營が専ら行はれてゐたから、大農には精巧の機械農具があるが小農にはない
- (3) 小農には家畜農具の購入等の資金や、其他農業經營に必要な資金が充分でないこと

一九九

此等の理由に依つて、ヨーロッパでは丁抹を除く外、小農の成績は自作農政策實施當座はどうも面白くないから、前述の様な反對論を生ずるに至つた。即ち大農經營で精巧な機械農具を使つてやつた方が收穫も多いし、生産費も少くて利益であると云ふのである。然し此反對論も當座のことで、漸次小農經營の經驗をつむにつれ經濟上も大農より寧ろよい成績を擧げつゝある。其詳細は後に述べる。

日本では小農が利益か 日本では大農と云へば一概にアメリカやオーストラリヤの様に粗放的のものと大飲み込みに收穫の少ないものと考へて居るから、大農は直に不經濟と速斷する。然し大農は粗放的にやる方がアメリカやオーストラリヤでは土地が廣いために利益だからやるので、日本の様に耕地面積の狭い國の大農經濟は必ずしも粗放的と限らない。我國の様に人口が多く農業勞力の相當ある國では、たとへ大農式にやつても集約的にいくらでも出来るので、現に愛知縣の二ヶ所の機械農場の米作の成績は附近の小農經營より一割位收穫が多かつたのである。多い理由は第一に種子の選擇が充分にやれるし、第二に肥料も地質調査をして共同配合を行ふ。除草も正條植だから手が届くし、脱穀、糶摺、乾燥等も機械力でやる。主任が學理經驗共に相當の人間だから附近の傳統的にやつて居る農家より收穫の多いのは當然である。

ヨーロッパに於ける大農小農の比較研究 大農、中農、小農の經濟的の比較研究は二個の點からせねばならぬ。

- (1) 同一面積に對する收穫の比較
- (2) 投下した資本に比べて純收益の多寡

これに關して多年研究した丁抹のラルセン教授の調査によると、一ヘクター當りの經濟調査は左の如くである。

(I) 地方別	農業資本		總收入		總支出		利益歩合		純收入	
	クローン	クローン	クローン	クローン	クローン	クローン	%	クローン	クローン	
A 地方	二九九五	一〇七〇	七六四	八・四	二五三					
B "	三六六七	一一六三	八五一	八・五	三一二					
C "	三〇七〇	九七五	七四二	七・六	一三三					
D "	二九六六	八六五	六七八	六・三	一八七					
E "	二六四四	九七五	七七九	七・四	一九六					

F // 110621 706 576 63 130

(II) 面積別

ヘクター

10以下	3376	1300	1095	6.1	205
10-20	2827	952	773	7.7	219
20-30	2950	941	717	7.6	224
30-50	2822	866	648	7.7	218
50-100	2610	773	577	7.5	196
100以上	2488	765	573	7.7	192
平均	2849	920	705	7.5	215

備考 一九一七年から二二年に至る五ヶ年間の成績

次に一九二二年度の成績を見ると

利益歩合

10ヘクター以下	7.4%
20-20	8.5

20-30	8.4
30-50	8.4
50-100	8.3
100以上	6.9

小農の政治上、社會上の利益は言を俟たない事として、一ヘクター當りの總収入は一〇ヘクター以下に於て最大なる事は注意を要するし、大農に於て最も小さい。一〇ヘクター以下と一〇〇ヘクター以上の總収入を比較すると後者は前者の約五割九分に過ぎない。即ち生産の絶對量は小農が最大だから、食糧政策上は勿論有利である。此は小、中農は集約的で、殊に牧畜農の利益が割合に大きいのに原因する。然し乍ら一ヘクター當りの投下資本や總支出は一〇〇ヘクター以上に最も小であつて従つて利益割合は一〇ヘクター以下より多い。尤も一九二二年の成績は反對である。此點は歐洲各國の當局者や學者、實際家間に頗る議論の存する所で、チエツク國の農科大學長土地改革の權威者であるブルトリック教授の調査によると乳肉、雞卵等の牧畜農業や園藝、果樹等の農業にあつては、小農の生産が多いけれども穀作、砂糖大根等については大農の生産が多

い。右調査の成績の一部は下の様である。

大農、小農生産比較(一ヘクター當り)

面積ヘクター	牛乳	肉	鶏卵
二—五以下	六一 <small>クローン</small>	四四・二 <small>クローン</small>	一九・七 <small>クローン</small>
一〇〇以上	五二	四・二	〇・二

而して小農の利益を考へる上に丁抹其他歐洲農業國中には、穀物等は新大陸の廉價なものを輸入し、牧畜農や園藝、果樹等の生産品を輸出する方が經濟上有利であることは注目すべき點である。而して此等の計算の中には經營費や經營者たる小農家族の勞賃が算入して居る事を思ふと、小農はたとへ純利がなくとも、善く此等の費用の中から生活し得られるし、従つて多數の人口が小農政策によつて生活し得る。況んや前記の如く相當の利益あるに於ては大農に比し遙に利益である。尙ほ大農の不利益は産業組合の利用が少いのと高い勞賃を支拂はなければならぬのに依る。

要するに大農と小農と何れが經濟上より見て農業經營上利益かと云へば、前述の通り絶對的の收穫量から云へば小農が勿論有利で、且つ此等に從事する小農自身及家族の勞賃收入などを考へ

ると、土地に依つて生活する國民の數は小農の方が遙に多いからこの點は問題がない。唯相對的に投下資本と収益との比較をすると大農が利益の場合もあるから、一國の農業政策としては小農のみではいけないので、大農も或程度まで存在させ兩方の並存が理想である。自作農政策の一枚看板で大農の存在を咀ふ必要は毛頭なく、自作農政策は大地主制度とは容れないが何も大農經營を容れないのではない。

ヨーロッパに於ては此の大農、小農に就ての争があるから次に詳しく述べる共同耕作が伊太利始め諸國に起つて、これは小農と大農との兩者の利益を併せ有するものである。

第二節 伊太利の共同耕作

農業經營の革命 個人主義榮華の夢はあらゆる社會に於て行詰まつた。農業界に於ても同様個人經營が能率上一番有利だと許された鉄則も、脆くも破れかけて今や世界の最も進んだ、又農民の慾求に添ふ經營法は共同耕作組合となつて現はれた。共同耕作組合は眞に農業經營の革命である。其所に地主も小作農も乃至は農業勞働者もなく、彼等は全く組合員てふ平等の立場に立つて、

利害共通なる共存共榮の理想に近づいたのである。地主、小作、農業労働者の争ひも共同耕作組合に依つて其相手方が亡くなる。然も昔よくあつた様なサボル意味の共同耕作と違つて、七轉八倒の末、彼等が生くる道としての共同耕作は、仕事の分量も殖へれば能率も上る。より多くの人間が生活出来る様に經濟的經營の實を擧げてきた。

伊太利に於ける共同耕作組合は世界の先達であり、最も進歩したものであるから其代表とし次に紹介しよう。

農業無産階級の生くる道 伊太利に於ける農業の特色は、農業無産階級の聯合による共同耕作組合である。農業無産階級の共同耕作組合は近時各國に於ける新しい企てとして行はれて、特に土地改革の結果小農に大農の利益を併有せしめるが爲に、チエック共和國を始め各國に奨励せられつゝあるけれども、遠く伊太利の成績に及ばない。伊太利はこの點に於て世界獨特の地歩を占めて居る。而して特に注意すべきは此等の發達は全く自治的であつて國家に負ふ所は少く、唯最近一九一七年及一九一八年に至つて、國有地、公有地の小作に對しても此等の組合の設立を認めただのみである。而もその條件期間が短く、小作料を前拂せしむる如きものであつたが最近漸く改正した。

共同耕作組合の起因 伊太利は小作人殊に農業労働者が多く、面積狭小で人口が多い結果、移民國として有名で、同時に佛國等に對して多數の労働者を季節的に移出しつゝある。十九世紀の末葉大地主對小作殊に農業労働者の關係は大に悪化して、就中農業の最も盛な北方ロンバルディ地方に於ては農業労働者は同盟を作つて之に對抗した。農業労働者は同地方のみでも千二百三十五の同盟を作つて會員は無慮二十二萬七千七百九十一人を有した。彼等は同盟罷業をして、雇傭に應じないで、大地主は又器械を使用して一方同盟に組しない日傭人を使用した結果、茲に失業問題を生じて形勢は爲に大に悪化した。而して日傭労働者は農業に興味を有しないし、生産に利害關係がないから、その監督は容易でないばかりでなく、従つて生産量も次第に減じ大地主も困惑した。所謂窮迫は解決を生ずるものであり、必要は發明の母である。他國の範たるべき價值ある施設は悉く死活の問題から出發する。是より先づ地主と労働者との間に、生産の結果に依りパーチザンダと稱して利益分配方法による農業經營をしたものがあつたし、又労働者の産業組合で公共事業を請負つたものがあつた。此等二者の成績は相合して一九〇二年に茲に産業組合による共同耕作組合を生むに至つた。

共同耕作組合の目的 伊太利に於ける共同耕作組合の根本的目的は、労働者として他人に使用せられるよりも、獨立して自己の計算の下に自由なる農業を営まうとするのにある。而して直接の動機は失業の防止と伊太利農業に弊害の多い中間者を排斥せんとするにある。伊太利には労働者が多く殊に季節労働の結果、自然失業者を生じ安く、賃銀の昂上待遇の改善等は思ひもよらない。これは彼等の最も苦痛とした所である。又一方に於て労働者が小作者となる場合及大農場に雇はるゝ場合に伊太利では、中間者が彼等と大地主との間に介在して不當なる利益を壟斷するの弊があつた。この中間者に二種ある。一は大農場を借受けて自ら管理人となつて多數の労働者を使つて耕作する場合と、是等の農場を分割して他人に小作させる場合とある。何れにしてもこれが爲に小作人や労働者は頗る不利の立場に置かれた。是等の二つの目的を達する爲に共同耕作組合は各所に設立されたのである。

共同耕作組合の種類 共同耕作組合に三種類がある。

(1) 小作農同盟組合

これは主として中間者を排斥する目的で設立されて、一つの組合を作り、組合は組合員の爲に土地

と資金調達との世話をし、組合員は恰度分益小作農の様に獨立して自分の家屋、農舎、家畜等を持つて是等の土地を耕作し、家畜、農具、肥料等は組合と半分宛負擔する。而して組合には支配人があつて組合員の農業經營の指導をする。この分益的の關係に依つて兩者の間は大變密接である。

(2) 分益的バイセリンク、ハット、ソサイエティ共同組合

これは第一及第三の中間組織のもので組合自ら土地を借入れて、組合員の勞力に應じて之を分配する。唯第一種の組合と異つてゐるのは前者は家屋、農具、家畜等を占有する獨立的のものだけけれども、この組合員は土地を區分して耕作するのみで、村落から通ひ、獨立的の小作人でない。而して組合は可成耕地を一ヶ所に集めて耕作する。この組合も亦分益農で組合自ら組合員の農業の經營監督の任にあたると共に肥料、種子等を供給して農具、器械等は共同使用である。

(3) 共同耕作ユニクリン、ソサイエティ組合

是は共同耕作の最も代表的デイビカルのもので、組合が借入れた土地を分割することなく、組合員共同で耕作する農業經營である。即ち組合員は全然組合の計算と責任の下に耕作するもので分益農でない。勞力を供給するものは組合員だから、組合員は一方に於て資本家、企業家であると共に一方に於

て労働者である。この組合は主として失業を防止する爲に生れたものである。

イ、仕事の内容

耕作物の内容其他の經營法は組合本部で實行委員の相談により決定され、農場を數區に分つて各區には主腦者たる區長を置いて、組合の方針により區に属してゐる組合員と一所に耕作に従事する。各區間の連絡や組合の有機的活動としては組合の支配人が其の衝に當る。而して最も大切である勞力の分配方法としては、各區長が自分の區内の耕作について需給の案を立て、之を本部の承認を得る。若し各區に亘つて勞力の需給過不足がある時は本部に於て調節する。組合員は同時に、或は順番に、家族の數に應じて労働する。若し不足する時は組合員外の労働者を雇ふ代りに、組合の勞力が餘る時は、例外として他の組合の労働に従事してもよい。この組合の目的は失業の防止にあるから、農業經營としては單一の穀作農業ばかりでなく、野菜園藝、家畜の飼養、加工殊に伊太利では葡萄の栽培を盛に行つて居る。

ロ、賃銀の支拂

組合員の労働に對しては労働日數、或は仕事の出來高に依つて賃銀を支拂ふ。賃銀は普通の賃銀

を支拂ふが多くは全額を支拂はない。其の内幾分を保留して組合損失の場合に備へる。

組合の組織 組合の組織は普通の産業組合と同じく有限責任で、理事、監事及組合と組合員との紛議を裁決する爲仲裁委員会がある。組合の持分は組合によつて違つて居るが一個乃至十個で、拂込方法は一時的か週又は月に分割し、約二圓から最高二十圓位である。組合員は規定上制限なく労働者若くは小作小農(一年六ヶ月位他人の爲めに労働する者)は入會する事が出来るが、事業上農場の大小に依つて制限がある。これは勞力の供給と失業とに大關係があるからである。入會金は五十錢乃至一圓で、組合員は組合に對して不都合の行爲ある時は除名され、除名者退會の際には持分は年度終りに無利子で拂戻される。利益配當の方法は利益の二〇乃至三〇%は積立金に、又同額を儉約貯金に、二〇乃至三〇%を持分に比例して配當する。残りは組合に對してした仕事に應じて組合員及稀には組合員外の労働者にも分配される。然し大體の傾向は持分に對してよりも、組合の性質として仕事に比例して支拂はれることが多くなつた。損失補填法は事業の性質として最も困難の問題で争の原因となり、創立の際には免れ難いことだから、種々研究の結果現今は長期に亘つて組合員に割當てるか、平素勞銀の五—一〇%を留保して損失に備へる組合がある。

個人經營との比較 今統計によつて見ると。

I 二十七ヘクターの農場の比較(萬國農事協會雜誌)

數	量	組合經營	二五・三	一八四・二〇	一四・四一	二七四・六二	三〇・五	七・五	—	—
クイントル	個人	〃	六〇・〇〇	六〇・〇〇	四・〇〇	一一〇・〇〇	三・八〇	—	—	二・六〇

II 四十五ヘクター農場の比較

數	量	組合經營	二五・三	二八・四	二六・七	三三・六	五三・三	三三・六	九・七〇	三〇・〇〇	一七・二〇	六・二
クイントル	個人	〃	六・〇〇	九〇・〇〇	四二・〇〇	三・五〇	一・六〇	二二・〇〇	—	一〇一・〇〇	—	—

備考 一クイントルは百十二封度、我十三貫四百四十匁、一リラは現在約十錢、戦前は三十九錢位であつた。

組合經營は此の外家畜の収入が約三万八千三百三十七リラと他の収益三千九百八十三リラあつて總計兩農場の収益は實に十萬九千九百五十九リラに達してゐる。

而して農業に従事する人員を見ると、二十七ヘクターの農場では個人經營の際には二家族四人で經營し、組合經營では常時四家族八人、他に二人の常農夫を雇ひ、且つ九人の女子勞働者と年

千二百日の男子勞働者を使用した。四十五ヘクターの農場では個人經營の際には三家族五名の農夫と僅かなる日傭夫を使ひ、組合經營では六家族常時居つて仕事をする外、多數の勞働者を使用し特に夏期から秋季に多い。

要するに前表に見る様に、個人經營に比較して遂に收穫は激増し、殊に葡萄、牛乳、馬鈴薯、秣等の如き手數のかゝるものは共同經營となつてからの増額は三倍以上に上つて居る。即ち共同經營になつてから一層集約的となり、作物の種類を増加したのである。収入の増加と共に組合員の勞力の需要は増した、従つて失業者を減少し、更に中間者の暴利を防いだ効は多大である。伊太利に於ける過去二十年余の經驗は共同經營が支配人に其人を得、組合員の結束が鞏固であるならば個人經營に比べて、同一面積から其生産量を二倍若くは三倍に増加し、仕事の分量は約六〇%以上増加したから、結果失業防止にも大に成功した。要するに組合員が自分の仕事として精勵すると、従來に比べて大に集約的に耕作せる爲であつて、同一面積から多量の生産を得、個人經濟は勿論國家經濟上より言つても、共同耕作は有利である。共同耕作は個人經營に比べて收穫を減する憂があるとの議論は歐洲を始め我國にも尠くないけれども、伊太利の成績は全く反對である。これ

は伊太利の共同耕作は農業プロレタリアートの死活問題から起つたものだから、その決心、訓練、尋常一様のものでない。各方面の壓迫や經濟界の不況、殊に新しい試みであつて經驗のない爲めに苦しい年月を経て自治的に發達したもので、他國の制度を模倣したものと異つて所謂創造の苦しみを嘗めたからである。斯様な空氣の裡に發達したる伊太利の共同耕作事業についても、當初は組合の訓練が足りないで、就中何所も同様「自分の仕事が最上だ」と自負する利己主義者が多く、即ち共同心缺乏の爲めに、創業時代には言葉に盡くせない色々の苦心を嘗めた、とロデオエミリヤ共同耕作組合聯合會の支配人であるウキトランヂエリー教授は語つた。

聯合會の活動 この共同耕作組合は今や伊太利の各地に普及して、特にシシリヤ地方と北部伊太利地方に多く是等は地方地方で聯合會を作り、この聯合會は資金の融通、家畜、農具、飼料、肥料の共同購入、生産物の加工販賣及各組合の爲めに、最も困難で又極めて必要なる會計帳簿の整理や、技術員の巡回指導等各方面に亘つて大に活動し、伊太利の共同耕作組合が今日の基礎を築いたのは此に負ふ所多大である。共同耕作研究の權威者で同時に熱心なる擁護者である現農務部長(伊太利はムツソリニーの行政改革の結果、各種産業及労働方面を合して帝國經濟省と言ひ農務部長

は即ち農務大臣である)ブリッチー教授が「伊太利農業プロレタリアートの結束から出來た共同耕作の今日の成功は聯合會の活動なくして考へ得ない所だ。」と云はれたのは名言である。

共同耕作組合の長所 農業労働者は共同耕作に依つて

- 1 農業經營の實際を納得し、農業經營及生産に關する精確なる智識が得られる
- 2 又農業労働者に各自の責任觀念を強くした
- 3 思想と行動との自由を得たる事
- 4 中間者を除いて色々の利益を得たること
- 5 失業を防いで職業を得たこと
- 6 個人經營に比べて絶對的にも相對的にも生産額を増加したること
- 7 農業争議を減じたこと
- 8 家族の労働を利用し得たこと

これは組合の長所であつて、家族の労働は組合に對して弾力性を與へ、勞力調節の便があるばかりでなく、組合員の収入を増加した。要するに此場合注意すべきことは、ヨーロッパに於ける社會運

動は、單に筋肉労働者のみの結合でなく、彼の英國労働黨がオックスフォードやケンブリッジの大學教授始め、各方面の智識労働者の協同があり、其他貴族、大地主等階級の別なく、主義の同じな各方面の識者が参加するために大きくなつたと同じ様に、伊太利の共同耕作組合も勿論大多數は農業プロレタリアートだけれど、大學教授其他の智識階級がこれに加はつてゐる。伊太利社會黨の歴史はヨーロッパにあつて最も古く、錚々たる人物が多いから此等の同志の授助を受け、其上農業労働者も我國に比べて、遙に民度が進み自覺して居るから、その事業の大規模で整然たる有様は、北部伊太利ポー河附近の五、六の共同耕作組合を視察して、土地を持たない微々たる農業者も機を得て自覺奮闘するときには、能く斯様な大事業が出来ると云ふ生きた證據を見て愉快に堪えなかつた。サンタビトリアの共同耕作組合の如きは大規模の農業經營をして居るばかりでなく、歐洲大戰の結果組合員中に尠なからざる孤兒が出来たから、これを引取つて組合事業の一部として孤兒院を設立して居るのは、眞の同情と相互の扶助の爲に起つた組合精神の發露あらはれであることを思つて、彼等の事業は決して單なる經濟的の營利觀念からでなく、人間の胸の奥に潜んでゐる何物か」と「共同耕作は個人耕作に劣ると云ふ」過去の議論の誤を正し、以て今日の成績を築き上げたも

のでなくて何であらう。同組合長でロジオエミリア聯合會長であるコレネフ氏の如きは共同耕作について右の様な信念を持つて居る立派な大きい人物であつて、丁抹小農農學校長たるランゲ氏と共に、自分が海外視察中面會した農業プロレタリアート界の大立物と云つてよい。自分を迎へて喜んで終日案内を爲した際の話の一節に「自分は亞米利加、亞弗利加其他海外に約二十六年漂浪したが、悲惨なる生活に苦しんでゐる農民の大多數の幸福の爲めに創設された此共同耕作組合の仕事に於て、始めて自分の終生の目的が見付かつた様な心地がした」と。言葉は簡單であるが意味は誠に深遠である。氏の主宰してゐるロヂオエミリア聯合會の如き、その規模が實に大きく、約四百萬圓の資金を使つて、六十馬力以上の數臺のトラクター始め多數の貨物用其他の自動車を持つて居り、葡萄酒の醸造、農産物の販賣、畜産品の加工等到底我農民の想像し得ない程の仕掛である。實に共同耕作組合の王國と云つてよい。要するに此等の事業は政治上、社會上、喜ぶべきことであるばかりでなく、單に農業經濟上から言つても小農と大農との利益を併せた制度で利益の多いことは言ふを俟たない。

共同耕作組合經營上の注意 この事業は農業經營上新しい試みであるから、その經營に當つて

は慎重なる研究をせねばならぬ。伊太利の経験によると

1 資金を得ることが最も困難で、農業労働者にとりては莫大の資金であるから、此點は最も苦痛である。この資金の道が具はらないと失敗する。伊太利に於ては前述の共同耕作組合聯合會、信用組合聯合會、及び組合員の貯蓄に依つて資金を調達する。創設後年月を経過したものは自分の訪問したサンタビトリアの組合の如きは資金に困難を感じない。この點につき一九二二年十一月伊太利に於ける政變に伴つて、ムツソリニー内閣は共同耕作に對し、成立當初は餘り好意をもたなかつた。其理由は元來伊太利に於ける産業組合はその發達の始めから社會黨との關係が深く、従つて國粹黨の反感を買つて自然共同耕作組合の如きも、左傾的分子としてムツソリニー内閣の喜ばない所であつた。然しながらその後次第に運動の眞精神も諒解され、一九二四年初期の頃から共同耕作組合も、低利資金の融通について政府の援助を受ける様になり、且つ又ムツソリニーの性格としては共同耕作事業にも此頃は大に賛成して來た。

2 成るべく配當を制限して、積立金をつくり金の充實を圖ると共に損失に備へ、同時に資力の結合によつて組合員の結束の基礎とすること

3 組合には支配人に適任者を得ること。組合成功の大半はこの人選にある。支配人の人選は最も大切な事で眞に組合成功の鍵と云つてよい。即ち農業の智識と經驗が有り、同時に經營の働きのある献身的の人物が必要である。多數組合員の結合であつて利害關係が又複雑だから、之を巧く引きまはして組合事業の能率を擧げるには、是非共中心人物たる支配人の力に俟たなければならぬ。船頭が多くて船山に上るのは共同事業の通弊である。

4 持分は相當大きくすること。餘り小さい時は資金の調達に困難を感じる人が多い。又同時に設立後の入會者に對しても餘り入會金の安いのは考へものである。

5 組合員の意を迎へるために第一、第二種の組合員にあつては小作料を安くするは考へものである。

6 組合と組合員との意志の疎通を圖ること。組合員にその仕事の内容を知らさせ、組合は自分達の事業であることを充分諒解させること。

7 仕事をする人と會計をする人とを別の人にする事

8 牧畜、葡萄、トマト栽培等所謂工業的農業を營むこと。普通農事のみでは勞力や資金の利用

上不利である。

二一〇

共同耕作組合の成績 大戦前、大戦中は次第に経験を積んで殊に農産物の価格が高かつたため、大變良い成績を挙げたが、ムツソリニー内閣となつて前述した様な理由により、奨励保護は愚か、當始壓迫を加へられたため、非常なる困難に陥つたが、二三年前よりは漸次諒解し今日は又々援助を受ける様になつた。是等事業の成績は概して良好で、當始伊太利の一部に過ぎなかつたものが、今や全伊太利に及んで着々成績を示して殊に當始設立されたものは、二十年餘の歴史を持つて居り基礎も鞏固になり、純益の如きも個人農に優つて、其規模から云つても自分の視察したロデオエミリア附近の五、六の組合の如きは整然たるもので、皆數百町歩を耕して居つた。中には失敗の結果解散したり、又成績の振はないものもあるけれども、今日では是等組合の多數は試験的時代を過ぎて、堅實の基礎が出来た。最も公平と思はるゝ全伊太利信用組合聯合會幹事の談によると、共同耕作の成績は良好と云つてよい。大戦前に設立されたものは大體成功し、已に基礎が整つて將來相當の發達を見るところだが、大戦中若くは大戦後農産物の好景氣時代に設立されたものは、小作料其の他物價の最も高い時代であつて是等を基礎として創設せられたものだから、

其後不景氣のために經營が困難となり半數位失敗し、今日まで殘留したものは苦しい時代を経たから將來は有望であらう。

要するに自分の視察したロデオエミリア附近の七個の共同耕作組合の實況によると、過去二十年の惡戰苦闘により確固たる基礎は既に築きあげられて、今や着々順潮に發達して居る。中農以下殊に農業プロレタリアートの利益を擁護する爲めに、此共同耕作組合は最も偉大なる成績を上げて居り、更に將來進むべき世界に於ける農業經營の大方針を示して居ると云つてよい。固より農業經營の全部を共同組合たらしむることは不可能であるけれども、現代の個人經營萬能の弊は既に隨所にはあらはれて、經濟的には勿論、階級闘争の上から見ても、組合組織による農業經營は此等の最も有効なる對症療法と斷言して差支ない。殊に我國の如き農業爭議の多い、又極小農の大多數を占めて居る國としては共同耕作組合はより以上必要である。

我國に於ける共同耕作の現情 大正七、八年以來の農業爭議の結果、共同耕作組合は一時に爭議の多い愛知、岐阜を始め各府縣に出來たが、此は我國に於ける共同耕作組合の泥繩時代とも云ふべきもので、殆んど其結果は失敗に終つた。此等の組合は蜂の巢をつゞく様に一齊に起つた小作争

二一一

議に狼狽した地主は、詮方なしに腹いせも手傳つてそれなら自作してやらうと思つたが、さりとて各自自作するだけの技倆も用意も無かつたので、窳餘の策として同舟の地主が集まつて始めたのが此の共同耕作組合、固より計算も計畫もない、所謂盗人を見て繩をなふの類であつた。従つて經營萬端不經濟的のもので、加ふるに意地も手傳つて出来た仕事であるから、小作人等に弱腰を笑はれてはとの感情もあつて、自動車で苗代を運んだり羽織の着流しで地主が畔道を飛び歩いたり、労働者のストライキを食つて他府縣から汽車で人夫を運んで宿泊料迄取られたり、一時に澤山の人夫が集まつて仕事を始めるが午后の二時頃に仕事が終わつて遊んで居ると云ふ具合。地主が集まる毎に飲み食ひの費用ばかりかさんで、相談は寧ろ船頭が多く船が山に上るの有様。肝腎の中心人物がない烏合の寄合。農具は大きな機械農具まであれもこれも、ブローカーの話聞いてさては一向不案内の連中どん／＼、金に構はず買込む。農會其他の建物はまだしも會社か何かのつもりで事務室も出来ると云ふ具合だから他は推して知るべしで、收穫後の計算はとれる筈はなく、反當り十圓以上の損失。如斯して第一期時代の共同耕作は、小作人の嘲笑と地主側の絶望に第三者の非難との裡に悲惨なる瓦解をした。然しこの第一期時代も失敗は失敗したに相違ないが、地主の

拂つた犠牲は決して冗ではないばかりか、我國の共同耕作組合の歴史の上に大なる教訓を與へたことは確かで、第二期時代が相當算盤の取れる様になつたのは、全くこの地主連の尊い犠牲の賜であつて彼等の努力も大に買つてやらねばならぬ。

第二期は共同耕作の試験時代乃至は自覺時代と云つてよい。伊豫の余土村に起つた共同耕作組合や愛知縣に出来た安城及起町の機械農場の如きその代表的のものである。此等のもものは第一期時代の失敗の經驗に依つて慎重に經營したのと、殊に後の二つは縣の非常な肝入りもあり、中心人物として立派な人間を得たから、相當の成績を挙げ、勞力の節約としては從來の反當二二三、四人が十四人位となり、收穫も附近の個人經營と比べて一割位を増加し、今や四ヶ年の經驗と成績から見て共同耕作は經濟上有利であるとの結論を得たから、愛知縣などは既に共同耕作組合が縣下に三十餘を數ふるに至つた。此等は何れも地主小作の共同耕作で、其最も注目すべきことには從來の個人經營で相當の成績を挙げた農民が、より以上の利益を上げたいために共同耕作を始めたと云ふので、第一期時代やよく世間にある時代の變化につれて、もう個人經營の農業はやり切れないから止むを得ずやると云ふ共同耕作でない。一歩進んだ農民の自覺に依る奮闘の事業である。

代表的とも云ふべき安城町の双葉利用組合の如き地主と小作との共同の組合で、地主も小作も一方自家で相當の農業を営み、更に他方土地を提供して共同耕作をやり、當初十二町歩であつたのが、今は二十町歩餘りになり益々組合員も増加し、提供面積も増加して來たのは其成績が良好であることを示すものである。

第三期は普及時代で今や我國も漸く其時代に入りつゝあるので、農業の最も進歩して居る地方にぼつ／＼出來て來たのである。

この共同耕作に伴ふ必然的問題として農業の機械化があるが、これには前述した通り我國の農業に適當した機械、農具の發明が必要で、先づ耕耘機、除草器、刈取器等を研究して一日も早く實用に供する様にするのが焦眉の急務であると共に、共同耕作組合としては伊太利や日本の苦しい経験もある通り、中心人物たる支配人の選擇が肝要、此人選は組合の要と云ふべきである。而して更に共同耕作としては収入の増加を計る上に、經營の内容を複雑にし家畜の飼養や生産物の加工等を研究して勞力の調節と資金の運轉利用が大切である。

第八章 蠶絲業の改革

第一節 改革の具體案

日本に於ける農村及農業經濟で最も重大の位置を占むるものは米と蠶絲である。而して國際的に見て日本の經濟のバランスを辛うじてにさへ取り得るものは實に生絲の生産である。故に國內的に見ても國際的に見ても、我國の經濟上最も重大な關係を持つものは蠶絲業と斷言して差支ない。試に我國の對外貿易から八億乃至十億の生絲並生絲加工品を除いて見給へ。何所に輸出入のバランスがあるか。更に世界一耕地狭少なる日本の農村から最も收約的農業であり、小面積から比較的多額の収入を擧げらる養蠶を除いて見給へ。これに代りうる産業が何所にある。國策上より見れば我國の産業として、蠶絲程重要にして然も普通性を帯びたる産業は日本にないではないか。釘は必ずしも扇の要に打たれない。政治は常に寧ろ末節を走る。一國の經濟を左右する否日本の經濟の生命を握つて居る蠶絲業程重要な産業に對して、日本ほど冷淡たる政府が世界の何處に

あらうか。論者或は言はう。農林省に蠶絲局あり、各府縣に蠶絲技師あり、絲價補償法あり、乾繭倉庫法あり、蠶絲業試験場あり、蠶絲學校あり、政府並各府縣は銳意蠶絲業の改善に努力しつつあるではないかと。言や善し。敢て問ふ叙上の施設たる勿論無きに優ること幾倍たることは萬々認むるが、此等の施設中果して蠶絲業の根本政策に觸れ眞に蠶絲業者主として養蠶家の利益を確保し、更に進んで蠶絲業の國際的地歩を確立するに足る、眞に所謂國策と見るべきが一つでもあらうか。成程破れ布呂敷や破れ家を修繕する程度の補修施設は澤山ある。既に破れ布呂敷であり、破れ家である。下手の大工や女中の夜なべ仕事には事を欠くまいが、鐵筋コンクリートのビルデングの時代である。繭の仲買人や營業製絲家や問屋や乃至は輸出商の傀儡たる帝國蠶絲會の御機嫌許りとらないで、情實や因縁の古き破れ家を叩き壊はして眞に養蠶製絲家と云ふ大衆の上に立つ、少し位の地震や示威運動でビクともしない鐵筋コンクリートのビルディングを建築するのが急務である。

霧の如き抽象論はやめにして具體案に入る。蠶絲業の改革案は左の通り。

一、生産費の節減

1 養蠶方面、桑葉及勞力の節約として、蠶兒をして、給桑を全部食はしむる方法を研究する事、従つて給桑回数を生減し、將來の勞働問題として養蠶に最も禁物たる夜業を廢し、勞力の大節約をなす事、尙養鶏に於ける産卵能率品評會や養豚に於けるコントロール組合の如き研究により、桑を食ふ事最も少くして絲量多く解除良好に、デニール整ひ光澤よき蠶兒を發見する事

2 製絲方面、現在の一工女一釜と云ふ如き原始的高天ヶ原工業に一大革命を加へ、一人の管理者も要せざる水力發電所程ならずとも、一人にて容易に十釜以上を繰絲しうる機械を發明する事

二、製絲及輸出の主體

1 製絲の主體は營業製絲及組合製絲の二方面とし相競争せしめ、全國蠶繭を三分し營業製絲家が三分ノ二、組合製絲が三分ノ一を占むること

2 輸出の主體は現在の問屋及輸出商を轉業せしめ、營業製絲は個々又は共同的販賣組合を作り、組合製絲も全國大聯合會を組織し、アメリカ又はヨーロッパに出張所を設け直接輸出を

なすこと

二二八

三、營業製絲家の大合同

營業製絲家は個人たると會社たるとを問はず、少くも一万釜以上を單位とし、現在の紡績會社程度の數に減少すること

四、組合製絲の大聯合

各府縣に郡或は町村を單位とし組合製絲を組織せしめ、一郡又は一府縣を單位として聯合會を組織し、更に全國を一團とする大聯合會を組織せしめ、生絲の販賣輸出は大聯合會に一任すること。原則として養蠶家は自己の收購の二分ノ一を組合に提供し二分ノ一を賣却すること

五、國家の施設 其主なるもの

- 1 優良蠶種、飼育術及製絲の根本的研究
- 2 輸出生絲の検査、即ち絲格の國檢
- 3 低利資金の融通

六、生絲のヨーロッパ進出

七、結論 として現在の絲價を半減し進んで人造絹絲は勿論綿絲と價格の競争をなすこと

第二節 生産費の節減

誤れる絲價調節 蠶絲調査會や其他の團體の主唱する所謂絲價調節は不幸にして絲價調節の根本義に觸れてゐない。彼等の大聲疾呼する絲價調節は如何にして千三百圓の生絲をして千五百圓にし二千圓にし、あはよくば好景氣の時代の三千圓にせんかと云ふ絲價調節即ち絲價釣上論で絲價下落の際に起る週期的常套聲明に過ぎない。

我等の主唱する絲價調節は出来るだけ蠶絲業の生産費を節約し、而して絲價を出來得るだけ安くして、尙さらに正當の利潤を擧げようと工夫することである。即ち我等の理想は千三百圓の生絲を六百五十圓にし、更に進んでは人絹は勿論綿絲とさへ品質を考慮したる價格の競争を試みんとするものである。一方に代用品たる人絹があり、而して特に輸出品である以上論者の如く價格を釣上げれば益々賣れなくなり、人絹の壓迫は熾烈となり、因果相俟つて却つて價格の低落を來すは火を見るよりも明で、或は特種の人爲的作用により一時價格の釣上が出来るかも知れないが、

二二九

斯かる人爲的釣上策は決して永續しない。絲價調節の根本義は技術の應用と經營の合理化により出来る限り生産費を節減し、出来る丈安く、而して品質のよい生絲を市場に賣出すことである。

此意味から方今蠶絲界の急務は實に生産費の節約にある。即ち一方に於て人絹の壓迫を免れ、他方にアメリカのみを得意とせずヨーロッパ數億の民衆にアメリカ人より低い彼等の生活程度に相應する生絲を供給するには是非共安く、而して品質のよい生絲を生産せねばならぬ。

生産費節約には前述せる如く養蠶及製絲の二方面がある。養蠶方面としては先づ桑葉の改良即ち肥料の改善、主として有畜農業の獎勵による自給肥料を使用し、以て桑葉の改良や桑樹の改良等を行はしむるにあるが、主として桑葉の節約が急務で折角の給桑を枯らすことなく全部蠶兒をして食せしむる方法の研究を必要とする。現情では桑葉の二分ノ一乃至三分ノ二位しか蠶兒は食せないさうであるから、これを全部食せしむるならば、一方には桑葉の非常な節約となり、他方には給桑回数の減少となつて養蠶に最も必要な勞力の大節約となり、殊に農民の健康に非常に有害なる夜業を廢止し、將來の勞働問題の解決上にも一舉兩得である。自分には勿論技術者でないから此方法の名案はないが兎に角適當の裝置により電力でも應用し、春蠶の際には適當の温度と

湿度とを與へ、夏秋蠶の際には温度の遞減と湿度とを工夫して桑葉の枯死を防ぐにあると思ふ。若し此方法にして發見出来るならば給桑回数は半減若くは三分ノ一減となり、勞力の節約と同時に生産費の節約は勿論、同一の桑園と勞力とにより生産額は倍加若くは三分ノ一増となる。

この方法にして成功するならば更に進んで蠶兒の掃立回数の増加が可能となる。現在の通例は春蠶、夏蠶、秋蠶、晚秋蠶の四回であるが、普通は夏蠶をやめて三回である。養鶏が過去に於て牝雞の直接孵化であつたが、今日はアメリカは勿論日本でも電熱により、立體孵卵器の使用で一回に七万羽を孵化することが出来る。蠶も同様で桑葉だけに節約出来るならば現在の如く一時に多量に掃立てないで回数を増加し、無理な利那的の勞働を敢てしなくも普通の工業の如く週期的に屢々掃立てることが出来る。従つて養蠶家は經濟となつて十疊の部屋で二百貫説が必ずしも空想でなくなるに違ひない。

如斯して産繭額の増加とならば、需要に比して供給過多が生ずるだらふと云ふのは次に起る必然の問題である。この問題の解答は簡單で曰く絲價の遞減此れである。安く而して効用だにあらば生絲の需要はまだ多々益々辨ずるのである。人絹の靴下ワイシャツ乃至は着物よりも單に天

然絹絲たると云ふだけで人は珍重する。木綿が衛生的に最もよいと云ふから木綿が一番流行ると云ふのは人間の嗜好と欲望と優越感とを無視した議論で、論より證據木綿の靴下やワイシャツ着物より絹製の靴下やワイシャツや着物が價格の非常に高い今日でも頗る熱望されるではないか。生絲が嫌いなのではない、好きでたまらないけれど價格が高いために思ふ存分に買ふことが出来ないのである。嫌いを買ふことと買へないと云ふ二つの事柄の間には太平洋程のギャップがある。要するに價格さへ安ければ生絲の需要は未だく、非常のものと云つてよい。問題は價格の點で需要は價格に反比例するまでである。

生産費節約の第二段は製絲方面である。我等は曩に現在の製絲工業の狀況を高天ヶ原工業と呼んたが、恐らく今日世界に十億圓以上の産額を有する大工業中に、日本の現在の製絲工業の如き原始的のものは絶対に發見することが出来ないに違ひない。これを鐵工業に見よ、製紙工業に見よ、更に最も類似した織緯工業たる紡績工業乃至人絹工業に見よ、如何に其幼稚なることの甚しき、而して此の高天ヶ原工業の平均一釜の製絲工程を見ると驚くべし。一柵乃至一柵半で二柵に達しない現況である。然るに徳島縣の筒井製絲は平均一釜十三柵を産し五柵を製絲するのは普通

の製絲家でも左程の難事でないのである。従つて全國平均を一釜五釜とするならば、現在の釜數は少くも三分の一に減じ、工場の大整理をなすことが誠に易々たるものである。

然も今日の工場は一釜一人の工女を要し、これを十釜一人にすることは決して空想でないから技術上の研究が今少し實際的になるならば、製絲百斤四百圓を要する生産費を三分の一減は愚か五分の一減にする時代は必ず遠からざる將來に來るに違ひない。現に最近湯淺工學士十年間苦心の結果發明された自動製絲機に依れば、十四中のデニールで一日一臺四百五十匁、廿一中で一日一臺七百五十匁と云ふ、現在の製絲能力の約四五倍の生産力を有し、然も工女一人にて一臺半乃至二臺二十四口を受持つて繰絲出來るさうである。従つて工費の如きも從來の三分の一乃至五分の一で然も良品を生産しうるので、殊に最も難物視せらるゝ生絲のセリブレン問題が容易に解決され、平調無節の絲が生産出來る。これは單に發明の序口で世界一原始的工業である、生絲工業の改善は驚くべきものがあるに違ひない。

要するに製絲工業が今日の如く原始的たる主たる理由は、勞賃の高いイギリスやアメリカに發達しなかつたため、若しイギリス、アメリカに發達したならば非常なる進歩が加へられたに違

ひない。労賃の安い然も餘つて居る所に機械の發明はないと云ふのは酷評かもしれないが、頗る遅いことだけは確實である。

第三節 養蠶家の生くる道

一、組合製絲の利益と經營法

養蠶家の悲劇 養蠶家の汗水垂らして生産した繭の販賣の拙劣さ加減は、遺憾なく我國の農家の算盤に迂なることを示すと同時に、高天ヶ原農業の生きた標本である。

五月初め伊豆地方の所謂走り繭が出る頃はきまつて繭の値段は上る。これは製絲家が原料繭を買ふに必要な策戦で、養蠶家に生産した繭を一日も早く一時に賣らせ様とする誘ひの手である。養蠶家は新聞の報ずるこの繭相場を見てもう寝ても起きても居られない。一日も早く、繭絲市場に繭を出して久し振りで紙幣の束を握りたい。一貫目十三圓！さうすれば溜まつてゐる無盡金も、肥料代も高利の時借りも乃至は小供の夏仕度もと云ふ具合に胸算用をしながら、寝る目も寝ないで一生懸命繭にして出来るが早いか繭絲市場に運ぶ。

夏の日暑い。瓦も焼ける様だ。其中を半里一里の道を眞に文字通り汗を流して運んで来れば繭絲市場は蒸し返へされる様な人の集まり。今日こそは愈々金にしてと思つて市場の敷居をまたぐとこれはそも如何に、「買止め」と筆太に店先に貼はりつけてある數枚のピラは！

餘りの事に一時に落膽した正直な農民達は、今一度擔つて歸る元氣は勿論なければ家内や小供、近所の手前どうしても金にして歸らねばならぬ。元氣もぬけて恐る／＼市場の仲買連中に聞くと、もう、全國で澤山仕入が出来たによつて、今朝信州の本店から買止めの電報が入りました。いや、や、誠に御氣の毒様で、とすましたもの。頼りの綱は無慘や切れたが其所は歸るに歸られぬ意地。詮方なしに是非買つて下さらんかと頼めば、足もとを見てとつた仕事にかけては手に負へぬ連中。わざと涙ぼく、それは誠に御氣の毒、もう餘る程買ひすぎていらないのであるが折角の御頼み故あなた方もさぞ此の暑いのに御持ち歸へりは御困まりでせうと情をかけて、値段次第でと、云ふ腹を口には云はないがたつぷり顔に見せて一貫目十一圓ならば御願ひませうと出る。今朝迄十圓以上の繭をみす／＼一圓安に賣るのは如何にも残念至極であるが、蛇ににらまれた蛙としては如何の術もなく泣く／＼紙幣を懐にして歸ると云ふもの。家を出た今朝の元氣は何所へやら、

全く意氣銷沈で市場を出たが、待てよこの儘で家に歸れば家内始め雇人にまで氣拙い思をさせる。こんな時には表面を張るに限ると、浅い智恵を出して脊負た籠の中に酒の一升と煮魚を五十錢、外に子供達へはミルクキャラメル一個宛と奮發して村に入つてからは特に威勢よく、出遇つた村人に今日はいくらで賣れたと聞かれた時は勿論、聞かれぬ時でさへも故に大變巧く賣れて家の繭はよいものだから、一貫目十二圓二十錢だと淋しい懷をしつかと押へつつ吹き飛ばす。家に歸つて其日は勿論土産話や功名話で元氣だが、日を経つに従つて當初の元氣は全く何所へやら、勘定あつて錢足らずの苦悶で青息吐息、繭で賣るより方法のない地方の養蠶家の悲劇は將にこの通り。

組合製絲は世界の驚異 然らばこの年々繰り返さるゝ悲劇より脱出の道はないかと云ふに、あるともく。然しそれは近頃政府の力氣味だした營業製絲本位の乾繭倉庫でも何でもなく、遠く明治十年時代群馬縣の養蠶家に依つて始められた、農家自身の手により製絲加工する組合製絲と云ふ立派の自助機關がある。この組合製絲は前述した通り世界で最も進歩した農業の經營方法である。工業的農業の代表的なもの、世界の文明國に紹介して耻しくない。日本の農民もこれ丈の進歩したものが出来るかと威張れるのみか、フランスや伊太利の様な養蠶國にも未だ企てゝ而して實

行し得ざる組合製絲だけは、眞に日本の農村の有する世界的の驚異のものと云つてよい。これがヨーロッパの眞似をしたものでなく、我國の農民自身の發明になり、産業組合法の輸入された明治三十何年より二十年も前に出来たものとは何と痛快なことではないか。ヨーロッパの外産業組合の立派な組織はないと一から十まで翻譯的頭腦の所有者たる農林省邊りの御役人は如何で御さる。

組合製絲の利益 組合製絲は養蠶家が自ら共同的に加工製絲して賣る仕組で、繭として原料品で賣らないで中間の商人や製絲家の不當利得を排斥して、養蠶の利益を全部農民が收める方法である。これこそ前に述べた立派な工業的農業で、養蠶家が自覺すれば當然組合製絲を作るべきであるがまだ多くの養蠶家は盲目滅法だから、實の山に入りながら、手に握つて居る金銀財寶を捨て、歸る様なものである。

先づ組合製絲の經營法を説く前に其利益を擧げて見ると

1 桑園の眞の改良は組合製絲でなければ出来ない

養蠶の根本は桑園である。近頃飼育上や絲質の上から桑園の改良の急務を叫ばれるが、今日の様に繭で賣買して自分で製絲しないでは、水桑でも食はせて繭量を多くすれば得策と心得て、到底桑園

の改良をして根本的に繭の改善を計る様な遠い考は出て来ない。一旦賣つて仕舞へば後は野となれ山となれだから、製絲家も同様に所謂ハメルことのみで熱中する。然し若し組合製絲になつて自分の繭を自分で製絲する様になると、絲量が多く絲質がよくなれば結局自己の利益だから、自然桑園の改良も一生懸命になり、自分の家は町寧に住むが借家は荒らすと同じ人情である。

2 蠶種の改良統一及飼育技術の進歩が出来る

組合製絲で共同的に製絲すれば繭の種類が成るべく同一でないと、製絲上不利だから自然改良もすれば統一も出来る。飼育技術の進歩するのは組合製絲になれば共同的に等級を定められて、品評會も同様に御互人間は競争心があるから又利益でもあるから、繭で賣る場合より一生懸命になるのは當然である。

3 農家經濟として非常に利益である

生繭賣買の惨目みじめのことは能く御承知。折角汗水流して獲た長い月日の骨折を一日で失すも同様に繭を賣る時は勿論、蠶を飼ふ中からの心配と骨折は大變である。元來農民と云ふものは賣つたり買つたりすることは一番下手であるから、斯様のことは産業組合を利用して共同的にやるに限る。

さすれば共同の力で商人が頭を下げてくるから、云はゞ商人に賣つてやり又商人から買つてやると云ふ態度になる。然し若し個人〜で賣つたり買つたりすると、商人に買つて貰ひ又賣つて貰ふことになつて到底勝目はない。殊に生繭の如き時間を争ふものは尙更である。次に農家として繭で一時に賣ると自然収入が一度に入れば腹が大きくなり濫費に流れ易い。養蠶の如き仕事は生産費が一年を通じて澤山にかゝるに拘はらず、繭を賣つた時は皆儲かつた様な氣になつて、收支の計算が解らないから得て贅澤に流れ易い。養蠶亡國論はこの點からで、段々甚しいのは來年の收支を目當てに借金生活をやる。これを組合製絲にやれば一年中平均して生絲として賣るから、賣る方法にしても平均して安全であり、収入が一時でないから使ひ方も氣をつける。且又加工製絲して賣るから利益も繭で賣るより大きいから、農家の個人經濟として大なる利益である。

4 所謂乾繭倉庫は組合製絲よりも養蠶家にしては不利益である

政府は乾繭倉庫事業を大變手前味噌を並らべて居るが、組合製絲より遙に養蠶家に不利である。其理由は元來繭は乾燥すると生繭より安く買はれるもので、製絲家には片倉は片倉、今は今と各獨特の乾燥法があつて、乾燥は製絲技術中の秘傳だから又製絲の時期によつて乾燥の程度は自然異

るべきであるから、製絲家としては乾燥した繭を買ふことを喜ばない。故に安く買ふ。併し何故製絲家がそんな乾繭倉庫を政府に迫まつて莫大の補助をさせるかと云ふに、これは要するに繭の出廻り時期に莫大の資金を要し、然も一年の所要繭を出廻り時期の僅かの中に買ふ結果、相場の危険が多くなるから、製絲家の立場としては養蠶家の負擔で保管してくれる乾繭倉庫は全く便利で、入用の時買つてくれればよいのである。製絲技術上の損失は繭を安く買へば済むことだから、製絲家の腹は少しも痛まない故に、乾繭倉庫は主として製絲家本位と云つてよい。

勿論養蠶家としても生繭の一時の賣買より退却陣地となるから、利益の點もあるが然し組合製絲を設けて製絲すれば此れに越したことはない。要するに乾繭倉庫は中途半破の仕事にすぎない。殊に政府の方針の如く大都市にのみ設置を許すものとするならば、益々養蠶家の利益より製絲家本位と云はねばならぬ。然るに此の乾繭倉庫に四割の補助があるのに之れ以上の仕事をする組合製絲に一毛の國庫から補助がないのは全く言語道斷の沙汰と云つてよい。

5 國家經濟として大なる利益である

生繭で賣れば自然粗末になり、製絲家の利益づくから折角の繭も十分に製絲しないから、又養

蠶家も個人主義一天張りになるから、國家の全體としての利益は大に減することは當然だし、前述した様に桑園の改良、飼育技術の進歩等即養蠶全體の進歩發達は期し得られないのである。

6 農村の健全なる發達を圖る上

唯に經濟上の利益ばかりでなく、隣保共存の上から團結的精神の涵養上得る所は實に大である。團結の最も強い要素は矢張り經濟的結合に基礎を置く、人間は矢張り結局利害の打算が一番早いから經濟的に結合するのが一番強い。一言にして云ふと養蠶地方の農村ではこの組合製絲さへうまく行けば農村の振興も立所に出来る。全く扇の要である。

利益の説明は此位にして今度は經營法を述べると

二、組合製絲の經營法

1 設備

設備は倉庫乾燥場、製絲工場、女工の寄宿舎、事務室等で、倉庫と乾燥場は火災の心配出来る丈少い様にする事、乾燥は製絲技術上最も肝要の事だから充分善い經濟的のものを買ふ。工場寄宿舎事務室の建築は實質主義で虚榮を張ることは嚴禁する。事務室など始めから立派に建てた

組合に成功したものはない。元來設備や形式に虚榮を張るのは内容がないから、せめて外形丈でも嚇かさうとする淺墓のやり方で、設備や形式が立派に出来ても五十馬力の機關で百馬力の機械は運轉出来ぬから骨が折れて、結局重い荷を負つて坂路を上る様なもので失敗するに定まつて居る。よく新設の組合で他の先進地方を視察して一番善い設備を金を澤山かけてやつたはよいが、資金が足りないし、經營の頭がまだ幼稚だから機械は具はつて車は動かぬ譬へ。凡そ物は其發達に順序があつてローマは一日には出来ない。だから眞に物の發達した地方に行くと設備や建物は寧ろ粗末のものが多く、段々につき足した様な具合、古いのと新しいのとゴチャである。即ち物の發達した順序がよく解かる。有名な諏訪の岡谷の工場を見てさぞかし其意外に驚くに違ひないし、然も立派に後から出来た各府縣の新しい工場は倒れて、片倉や今の古ぼけた工場の益々隆々たるのは何を物語るか。自分はロンドンのタイムス新聞の工場を見て矢張り同様の感を懷いた。この點は新に工場を經營する人々の大に心すべき點である。

2 經營方法

組合製絲にも現在色々の方法があり、實は先に始めたもの程現在其經營方法が後れて居る傾が

ある。即ち坐繰製絲から器械製絲になつた上州南三社のやり方が一番後れて、ずつと後から出来た龍水社、伊那社普及社等が比較的進んで經濟的にやつて居る。上州南三社の多くは坐繰時代と同じく依然たる持寄製絲で、各養蠶家が各自乾燥するか或は共同乾燥しても自分の家に保管した繭を、持寄つて各自製絲するのである。斯かる方法は時代後れの甚だしい遣り方で、組合製絲としてはどうしても組合員の繭を收購したら直に組合で受付け、ロびきと云つて其中一、二升抜き取つて肉眼及絲質絲量検査をして、其繭に等級を付した上は共同に乾燥して倉庫に混合保管をする。而して製絲の場合には組合の繭として、絲況に應じて繭の等級種類によつて加工する、例へば聯合會の龍水社から所屬組合に對し、絲價の狀況により七月一日から十五日迄は白繭の一等繭を繰く様に通知し、八月一日から十日迄は黄繭の一等繭を繰く様に通知する。さうすると聯合會に絲も揃つて販賣上も非常に利益である。各所屬組合まじりに繰くと絲も揃はないし、従つて荷が出来ないから問屋に賣ることが出来ないで絲は出来て金はとれず、爲めに賣却の時機も失して大變損失をするし、組合員に精算も自然遅れる。よく日本の農家に多い悪い癖である自分の繭が一番よいなど云ふ間違つた考は打破らねばいかぬ。工女は成るべく組合員の子女がよいが家庭から通勤さ

せないで寄宿舎に收容する。通勤させると緊張しないで能率が上らない。而して工女の数は百釜なら少くも一割の豫備工女を置いて終始釜の空かぬ工夫をやり、豫備工女が居ると工場が一般に緊張して能率も上れば仕事の出来もよい。組合製絲としては経済的にやる事がどうも個人製絲に劣り勝だから、此の工女の能率増進、引いて製絲經濟の改善に就ては、石炭の購入やたき方から荷造り迄大に研究せねばならぬ、製絲經濟の上らぬのが組合製絲の一番の弱點である。

工女を寄宿舎に收容するに就て風紀上反對される組合員もあるが、却つて農村で朝早く夜遅く通勤するために危険も起り易い位である。此の點から云ふと自分は組合製絲を農工補習學校として、寄宿舎なり組合敷地内に住宅を建て、小學校教員の優秀な夫婦者に住んで貰ひ、夜間寄宿舎の暖い所で裁縫讀書等を教授して貰ひ、晝間の作業は工業の實地授業とし、小學校卒業後四箇年位の簡程にしたら、工女生活の大缺陷である補習教育も出来、賃銀も得られて工女としては一舉兩得である。元來組合製絲の如く自己の繭を自己の子女が繰くのを工女と云ふのは失當で、寧ろ農工補習學校の生徒と云ふのが適當であり、農工補習學校の卒業生と云へば御嫁にやるにも好都合、而して町村では補習學校の費用を組合で負擔するから大變助かるし、教員も住宅なり組合

からの手當も學校より多くとれるから喜ぶに違ひない。誠に一舉兩得の施設である。

3 生絲販賣方法

生絲の販賣方法は成行賣を嚴守する。先賣りは組合製絲の一番の禁物で、若し絲價の變動を心配して先賣りなどすれば組合破滅の基で決してやつてはならぬ。元來組合製絲の繭には値段がないのが特長で、たとへ四千圓で先賣しても四千五百圓になれば組合員の騒動になるし、組合製絲の繭は營業製絲でないから、成行で賣つた時の値段が値段で、決して原料を提供した時の價格が繭の價格でない。又長い間の經驗から見ると、相場に動かされて心配して色々に賣るよりも、成行相場で賣る方が十年平均すれば一番利益の方法で、色々に頭を使ふ人間が結局相場の大波には勝てないで、少し儲けて大きく損をするにきまつてゐる。營業製絲なら十一圓で買つた繭を工賃利子を除いて十二圓で仕切れれば先賣しても構はぬが、組合製絲の繭は値がないからさうは行かぬ。成行賣が大賢は大愚に似たりで最上の方法、然し成行賣の豫約は先賣と違つて又最も安全な賣り方で、例へば新絲の出廻り時期に、十一月渡しエキストラ格の價格で何千斤賣ると約束すること、組合も安心であるし、買ひ手も織物工場の工程の關係上安心であるが、信用あり實力ある組

合でなければ約束通りの品が期限内に出来ぬ場合があるから成行賣の豫約は容易に成立さぬ。

三、組合製絲の經營上最も注意すべき點

組合製絲の經營上注意すべき點に就ては前に色々説いたが尙ほ要點を述べると

1 釜數と供繭量の比例すること

組合製絲の經營の健全なりや否やを知るべき最も確かな目安は、組合の釜數と組合員の組合に提供する繭の數量と比例するか否やを知ること、組合員の供繭量が組合の釜數より少々餘分で、繭として時期を見て少し賣る位が經營上最も安全である。釜數に比べて繭が少いと釜を休むことは工女の足止め上、工女の争奪が相當に烈しいから組合として苦しいことであり、又製絲經濟から見ても不利益であり、釜の空いて居ることは他の工女の能率上にも大に關係する、尙ほ又組合の理事者が組合員や他の組合に對しても面目ないから、やゝもすると其切なさに繭を買ふことになり易い、若し組合が繭を買ふと既に此れは組合製絲でなく營業製絲であり、組合法に大に反するばかりでなく、元來組合製絲は多數養蠶家の團體で商賣人たらざる點が寧ろ長所で強味であるのに、繭を買ふ時は自然損益の問題となり、儲かつた時は理事者が組合員にも鼻が高く又組合員も黙ま

つて居るが、一旦損失をした場合には共同團體の常として大騒ぎ、理事者は非難攻撃を浴びて苦しい立場になり、結局組合製絲として最も大切な組合員間に動搖を來し、繭を組合に出し澁る様になり、原因結果相互に作用して遂に解散の憂目を見るに至る。繭を買つて製絲すると自然理事者は思惑を試むることとなり組合の經營が得て投機的となり易く、組合製絲の經營の根本方針たる眞面目を缺く様になる。これは組合製絲經營の深憂で、從來各府縣の組合製絲の失敗したのも原因の多くは繭の不足より繭を購入したためである。組合製絲としては斷じて繭を購入してはならない。

組合の釜數を定むる場合に必要のことは、先づ区域内の生産繭を定めて一町村ならば其町村内の生産繭の二分ノ一を標準として當初は釜數を定め、若し數ヶ町村或は郡區域ならば三分ノ一或は五分ノ一、十分ノ一と區域の廣い程内輪に釜數を定める必要があり、町村單位の組合で町村全部の生産繭を標準として失敗した組合は却々多い。これは繭や生絲の相場につれて繭の出し方も非常に影響されるから、内輪に見積つて置き、組合員の訓練が出来るにつれ、漸進的に擴張し三分ノ二位迄にすることが肝要、三分ノ二以上に擴張することは禁物で、少し釜數の不足する位が組合の經營としては堅實で、理事者の立場も樂である。繭を餘り勧誘して集めると理事者引いて

組合の立場は苦しくなる。十四デニール中心なら一釜當り二百五十貫乃至三百貫、二十一デニール中心なら四百貫位を標準とする。固より土地の状況により繭の質により、或は作柄によつて多少の相違はあらう。

2 組合製絲は委託主義が本則で、買取主義は組合主義に反する

前述の繭の購入と異つて組合員の供繭を奨励し容易にさせるために、組合員の繭を組合に提供させる時に時價で組合が買取する所がある。これは組合の經營上或一種の便法としてやつて居るが、組合經營の本則から云へば間違つた方法で、組合製絲は委託主義が當然で、先にも述べた通り組合製絲の繭には値段がないのだから、提供した時に市價で仕切るなどは組合を營利事業と同視する考で、組合製絲の根本精神たる互助主義共存主義に背き、組合の經營を危険ならしむるものである。組合としては當然組合員の委託を受け、決算は年度末精算後なすべきもので、唯組合員の提供した時に其繭を擔保として相當の融通をするのは組合員の經濟を救ふ上によいことである。

3 貸付は繭量の八割以内たること

この資金の融通が多いと相場に變動が多いものだから、貸越しとなり經營上損失を來すことゝ

なる。殊に組合の理事者自身がややもすると多額に金を借りたり、又情實に流れ易い所から組合員に八割以上の融通をすることがあるが、これは組合規約として嚴重に取締るべきである。

此貸付に對して利子を取るが、よく組合員中には繭を出したに拘はらず利子を取るなどは不都合だと云ふ者もあるが、これは云ふ人が無理で出した繭は費用を掛けた上に、まだ生絲として賣れない中は賣上代の配當のないのは當然で、供繭と同時に又其後に金を借りるのは繭を擔保とした借金であるから利子を拂ふのは當然である。此利子は普通の信用組合の利子と同様にするのが組合の經營上よいことで、安きに失すると不必要なのに貸出が多くなり従つて組合の資金に困難を感じるから注意を要する。

4 組合員の生産繭は全額提供を本則とする

組合製絲經營の要點は前述せる通り、供繭を多くし相場を見て善い時に餘る繭は賣る位にするのが一番賢い方法であるから、組合員は自分の生産繭を全部組合に提供し、理想としては屑繭迄組合に出して組合の手により競賣するのが利益である。若し釜數が供繭高に比べて少い場合に繭を全額出し、個人賣りをやめて組合が共同的に時機を見て賣る方が結局利益である。組合員が自

分の生産繭を出す量の多い程組合は健全である。組合に加入しながら繭の安い時には組合に出し、繭の景氣の善い時には賣る様な不信實な組合員がよくあるが、これは本人としては一見利口のやり口であるが相場の高低はなか／＼素人に解るものでないから、十年平均して見ると、目をつぶつて組合に出す人がつまり勝利を得るのは面白い過去の實驗である。組合を利用して繭賣りをする様な組合員はやはり獅子心中の蟲で、組合破壊の不良分子、十年平均の考で組合員は相互に組合を保護する考がなくてはならぬ。先走る小才子は一寸利口の様に見ゆるが結局身を亡ぼす馬鹿者で、コセ／＼する人間に大金を儲けた者はない。

5 工女を優遇すること

日本人の悪い癖は少く金を出して多く働かせようとするにあるが、工女は組合の仕事の生命であから、先づ食物は出来るだけ滋養物をとらせ喜んで仕事をさせるに限る。殊に組合製絲は工女も組合員の子女で一心同體だから、營業製絲によくある肺病患者の巢窟にしては農村の滅亡である。組合製絲は製絲をして利益を得ると共に、子女の教育保健にも大に注意せねばならぬ。夫れには寄宿舍の食事や生活を衛生的にし、特に浴場の設備は清潔にして一日の勞苦を忘れて愉快な

る氣持になる様にする。化粧室なども女子だから心地よく設備してやる。組合員の子女を働かせることは、營業製絲の及ぶべからざる組合製絲の偉大なる長所である。

6 組合製絲は信用組合を兼營すること

組合は創設時代は勿論設備費や運轉資金に農村としては比較的大金を要するから、此等の資金は是非共組合事業の本則として、組合員の出資によるのが健全な經營法であるが、實際としては此れ又至難のことであるから、信用組合を兼營し一方繭を擔保として八分金等の貸付をすると同時に組合員の預金を預つて組合の資金に利用する。始めは組合員は是非共入要の如何に拘はらず安心のために金を借りたがるのだが、愈々組合事業が確實のものと思へば八分金の借り出しもしないし、又借りても直に預けるし、配當金の預金も多額に上るものである。養蠶家に最も必要な組合員の貯蓄心涵養の上にも信用組合は是非共必要である。而して後述する組合の聯合會が出来たら、信用組合の聯合會も兼ね、御互に利用する。

7 工女は組合員の子女を中堅とし、教養待遇共に共存共榮主義によること

組合製絲の長所の一は工女工男が比較的安く且又組合員の子女が多いから、共存共榮の考から

仕事に親切味が多い點である。組合員の子女は自己の繭を製絲するのだから云はゞ自分の仕事で他人の仕事をするのでないから、普通の雇傭關係と違つて自由獨立共存共榮の思想であるのは當然である。従つて工場及寄宿舎内の衛生は勿論食物などは充分滋養分を與へて工女の肥へるのは畢竟組合の利益であり、又組合の榮ゆるのは工女、工男の利益であることを充分に知らしむべきである。故に普通の製絲工場と違つて彼等の健康、娛樂其他萬般に亘つて營利主義一方でなく、工女、事務員の教育や將來に就ても大に考へねばならぬ。信州の個人製絲の最大缺點は工女の肺病患者の多くなるにあり、長野縣及工女供給地の近縣が將來悲觀さるゝのもこの點である。年若き攻子女を町村の工場で働かせるのは一家のためであるのみならず町村永遠の賢明の策である。

8 製絲技術及工場經濟の研究を充分にすること

組合製絲の弱味の一は製絲技術及工場經濟の研究が營業製絲に對して後れて居る點であるが、自分の仕事としての觀念が勢ひ同事業だから弱い故、この點は止むを得ない所でもあるが、理事者はよく此等に意を注いで一釜當りの能率及製絲量に對する經費絲質の改良等に就て大に攻究すべきである。

9 理事者は有給とし中心人物の選任に最も注意すること

日本の産業組合はヨーロッパの産業組合と異つて、理事者の名譽職の點は一見善い様であるが、其實却つて不經濟のやり方であるから、今後は出すべきものは世間並に出して、その代はり組合の仕事に大に骨折つて貰ふことが肝要である。殊に組合製絲の如き農村の經濟に大影響ある仕事には相當の報酬を出さねばならぬ。就中組合製絲事業では中心人物の選任が肝腎で、この中心人物の得られると否とが事業の致命傷と云つてもよいから、適當の中心人物を選んで仕事の大綱を定めた上は、この中心人物に大體を任せる様にする。船頭多くして船山に上つては組合製絲の如き養蠶家の經濟を左右する事業としては一大事である。組合長なり、専務理事なり、組合の中心となつて働く人には年報酬少くとも千圓以上を支出する。千圓以上出して大に働いて貰らふ方が遙に組合の利益である。所謂名譽職もよいが報酬が二百圓や三百圓では、仕事迄名譽職になつて組合として非常に不利益である。丁抹や英國の産業組合が立派な成績を擧げて居る主なる原因の一は理事者が有給で、充分の報酬を得て専心働いて居るためである。自分がマンチエスターの消費組合本部を訪ねた時に理事長が、英國では自己の生活に必要な報酬なしで公の仕事に骨折る人は

ないと云はれたが誠に名言である。

10 組合製絲には政争は禁物

如何なる組合事業でも政争は禁物であるが、殊に組合製絲の様な養蠶家の經濟を左右する仕事にはこの點を大に慎まねばならぬ。組合製絲事業の經過を見ると創立の際には骨が折れるから誰も左迄手出しをするのを嫌ふが、愈々成績が擧がつてくるとソロ／＼野心家が出てこれを掻き廻はさうとするのは全く困りものである。就中政黨的の争が禁物で、このために事業の衰退を招いた例は少くない。

11 問屋の選擇を充分にすること

如何はしい問屋ほど運動が上手とは世の中も困まつたものであるが、組合製絲としてはこの問屋の選擇が肝腎で、絲を賣るには成行賣りなり、成行賣りの豫約なりそれでよいが、唯この問屋を定めるには慎重の注意を要する。何分金の嵩む仕事であり、十年或は二十年に一回だまされると飛んだ目に遭ふから吳々も注意すべきである。而して問屋の數は少くも二つ以上にすることが肝要で一問屋では競争もないし、又萬一の心配もあり、萬一の際組合に對する責任もあるから二

問屋以上にする。組合製絲は上手に賣るなどと云ふ心配よりも先づ確かな問屋を見付けるのが肝要、唯大きい古い店のみが善い店でないことは又頭に入れてほしい。

12 組合製絲には聯合會が必要

前述の様に善い問屋の選出上にも又絲を平均に賣る上にも、相當生産額がまとまらないでは相場にムラが多く平均賣りが出來ないから、どうしても個々の組合を聯合し聯合會を作る必要がある。例へば碓氷社、甘樂社、下仁田社、龍水社、伊那社、埼玉社尾三社の如きは其實例である。斯くて聯合會を組織し、製絲技術改良上、資金の融通上、生絲の販賣上是非共聯合會の共同的大なる力を俟たねばならぬ。この意味から更に必要なのは全國を一丸とする大聯合會の必要で、自分は數年幹以來長野、群馬、埼玉、愛知等の諸縣の聯合會と相談し幹旋の勞を執つた所が先年群馬縣高崎市に於ける組合製絲大會で始めて此大聯合の一步たる組合製絲協會の成立を告げ現に横濱で大に活動してゐるのは斯界のため大に喜ぶべきことである。

四、營業製絲と組合製絲の比較

以上組合製絲の利益や經營法等に就て述べたが、千百の美辭巧言よりも一の事實が強い證據で

あるから、茲には結論として長野縣に於ける營業製絲と組合製絲の製絲の能率と費用の比較を御目につけよう。左表は毎年六月から翌年五月迄一箇年間の成績で同縣下の組合製絲六十八組合の平均と營業製絲の九十七箇所との比較で、長野縣廳が調査して昭和元年十一月の大日本蠶絲會報に出て居る。詳細は同會報を御覽願ひたい。

	一釜當一日の繰絲量	製絲百斤の費用
大正十三年度	組合製絲 百二十九匁七分	四百二圓九錢
	營業製絲 百六匁九分	四百五十八圓七十六錢
大正十二年度	組合製絲 百二十匁	四百二十八圓六十八錢
	營業製絲 九十八匁	四百五十七圓三十三錢

繰絲量に於て組合製絲は約二割二分營業製絲に比べて能率が高いし、百斤當りの製絲費用は五分乃至一割二分強少いのである。此調査は長野縣の養蠶課の調査だから最も公平と云つてよい。御承知の通り長野縣は片倉を始め日本第一の製絲國で、信州系の絲は全國輸出の六割を占め、名實共に我國製絲界の霸王であり、殊に製絲經濟の點に於ては他府縣の製絲家の遠く及ばない所である。

他府縣の營業製絲が多く失敗して、信州系の製絲家の成功する所以は實に此の製絲經濟の上手な點にある。然も此の日本一の製絲縣である長野縣で營業製絲が前述した様に組合製絲に比らべて大に費用及能率の點に於て劣ると云ふのは、如何に組合製絲が農村の振興上は勿論養蠶家の利益であると云ふことが明瞭である。其理由は外でもない、組合製絲は蠶種が比較的統一されて居るかから繭も一樣であり、工女も組合員の子で共通の利害關係にあり衛生上もよいから、絲の解舒も善く、又繭の買入費用や工女の募集費もいらぬし、尙ほ營業稅、所得稅等の税金もないから能率も進み費用のかゝらないのは當然である。自分の知つて居る愛知縣の上奈良館と云ふ組合製絲の隣りに營業製絲があつて、不思議の事に大變兩者仲よくやつて居るが自分が其組合を訪ねた時の營業製絲の主人もやつて来て色々快談したが、其主人の話に「將來はどうしても農村では組合製絲に限ります。營業製絲も片倉の様な大きいのは兎に角百釜や二百釜の個人製絲では、相場の波が荒いし一時に資金はいるし到底長くやつてゆけません。これに反して組合製絲は多數の養蠶家の團結で繭には値段があるではなし、加工し得た金を分配すればよいのですから全く氣丈夫。之に税金にしても自分の所の計算によると大正十三年度に上奈良館は營業製絲なら一万二千圓位拂

はねばならぬ勘定なものにも一文もいらぬ有様ですから全く大したものです。こゝ十年経たない中に愛知縣の營業製絲の大半は廢業するか組合製絲に譲るか其運命は定まつてゐます」と、熱心顔に溢れて話された。此は獨り愛知縣のみでない。製絲界の霸王たる信州系の有力者の中にも現在の様な養蠶家と製絲家と對立する營業製絲の組織では到底將來はいけない。少くとも兩者の協調する様な組織にしないでは、營業製絲は行きたゝないと悲鳴をあげて居る位である。製絲界の事情に最も精通せる是等有力者の云ふ將來の活路たる養蠶家製絲家の協調とは抑々何であるかと云ふに、要するに其最も理想的の組織は實に養蠶家自身の團結による組合製絲に外ならない。組合製絲こそ誠に養蠶家製絲家の一心同體とも稱すべきもので、兩者の協調を説く彼等の聲は疑もなく組合製絲が大にしては國家經濟の上に、小にしては養蠶家自身の爲めに最も理想的の組織たることを認めたものである。

五、組合製絲十訓

最後に組合製絲經營の參考として組合製絲十訓を掲げて見よう。

- 一、中心人物の選任に最も注意し相當の報酬を惜まぬこと
- 二、工男工女には組合員の子女を選び、努めて優遇し併せて教養に努むること
- 三、設備に虚榮は禁物たること
- 四、製絲經濟其他工場の經營に就ては營業製絲に劣らざる様特に研究すること
- 五、釜數の増加は慎重に供繭量を考慮し、漸進主義を執り釜數は寧ろ稍々不足するをよしとす
- 六、委託主義により買取主義は絶對になさざること
- 七、成行賣を勵行し先賣は嚴禁し、問屋は組合製絲全國聯合會を原則とすること
- 八、貸付は供繭時價の八割以内たること
- 九、政争の渦中に投ずることは嚴禁たること
- 一〇、經營は急がず焦せらず十年平均主義を執ること

第四節 營業製絲家の大合同

ヨーロッパ大戦では獨佛の戦線は無慮千六百万の大軍が對陣した。現今我國の製絲家の様に五十釜や百釜乃至三百釜程度の製絲家がウヨ／＼してゐては、廣重の繪卷物に見る封建時代の戦争

も同様、頗る時代遅れで大同團結をモットーとする熾烈なる國際貿易市場の競争には、不利のみを蒙るのは理の當然である。組織なく統一なき亂軍の状態だから、絲價の騰落即ちいざ戦争となると目もあてられない我利の戦争を起す。絲價下落の際蠶絲中央會の生産短縮乃至賣止め決議の如き、暮夜竊かに問屋の門を叩いて抜け駆けの功名をする連中が多いので、一言にして云へば統一組織ない烏合の衆だから、結論としては絲價を崩すのは誰あらず製絲家自身で、如何にして生絲を安く賣るかの競争を彼等は同志でやつて居る有様である。

必然の結論として製絲家の大合同は目下の急務で、政府は銀行の合併を慫慂壓迫する以上の熱を以て製絲家の合同を勧誘すべきである。而して其單位は一萬釜以上とし、個人又は會社か或は交水社、依田社の如き産業組合による合同もよい。即ち少くとも現在の紡績程度の數に減じて組織を鞏固にする。而して他方組合製絲は地方の状況により、各町村郡或は府縣を單位として、百釜以上を單位として作らせ、各府縣又は郡を單位とする聯合會を作つて検査格付をし、更に全國大聯合會によつて直接輸出をする。例へばニューヨークのウールウオースの九百七十尺の最上階に大日本組合製絲聯合會の出張所を置き、ビルディングの頂端に高く組合製絲旗を翻し、東の方口

ツキー山を越えて太平洋の彼方遙に故國を望み、西の方大西洋の怒濤を越えて遙にヨーロッパを見る位の元氣で、琴平参りや松島詣での産業組合の視察旅行は止めて、一年に二回位團體で生絲賣行の状況視察を兼ねてアメリカ、ヨーロッパを視察して、シベリア鐵道で序に支那を見ながら歸ること位は組合製絲全國大聯合會の力で容易に出来る時代が望ましい。

如斯營業製絲の大合同と組合製絲の大聯合會が出来れば、操短も賣止めも極めて容易であるし、低利資金の一億二億の供給も團體に信用があるから便利迅速に行はれる。臨時閣議に於て政府が絲價維持のために低利資金一億圓融通の決議をしたと國際電報がピンと響けば、其一電だけで實際の融通はせなくともニューヨーク市場は反撥するに違ひない。今日では低利資金を貸したくも貸しうる組織と信用とがないから、共倒れでアメリカの云ふ通りより詮方がない。足下を見すかされた軍隊と同様で敗北に定まつて居る。

單に生絲の輸出上のみならず、製絲經濟の上に合理的の研究乃至經營も出来て引いて養蠶飼育の生産費を軽減することも大に可能となる。蠶絲の如き國家的産業であり、殊に對外輸出の霸王として國際場裡に立つ産業に對しては、政府は懇切なる指導を加ふるのは勿論宜しく、場合によ

つては大なる壓力を加へても大合同を計り強力なる團體を作らせる必要がある。

第五節 國家の施設

其主なるものとしては第一に優良蠶種、飼育術及製絲技術の根本的研究で此等は勿論民間の製絲家、蠶種家等の研究も必要であるが學者、技師の長期に亘る根本的研究が一層肝要で、此種の研究は營利を超越した國家的事業であるから、經費を惜まずどしどし研究せねばならぬ。而して現在の分散的研究所よりも更に費用を投じて総合的の一大研究所を作る要がある。

第二に輸出生絲は府縣の米穀検査の様に、國家が横濱神戸に設備の完全な検査所を設けて統一的の絲格を決定し、民間製絲家の商標は認めるが格付は國家事業とすべきである。現在日本には二千有餘の各製絲家勝手の商標があつて、此れに國家の検査が整備してゐないから全く亂脈で、従つて問屋輸出商が勝手な商標、製絲家名を作つて、ニューヨークには自分の實見しただけでも日本にない製絲家や商標がいくらかもある。絲格の決定單一化は最も必要で、同一國內の生絲なら多くとも五六等の階級があれば充分、其格付は丁抹の様に123の萬國共通のアラビヤ數字とすれば最も明瞭簡單で、誤魔化しがきかなくなり信用も自ら高くなる。斯くして不正製絲家を根本的に退治してほしい。

第三は低利資金の融通であるが此れは前に述べた通り、生絲の如き國家的産業、國際的重要貿易品に對しては預金部の低利資金を迅速豊富に貸付して、相手國の相場攪亂を防がねばならぬ。製絲家の大合同が出来、組合製絲の大聯合が成立し、組織と統制だに出来れば資金の融通の如きは一舉手一投足の勞で、生絲の融通資金を一種の危険視する現在の金融業者の思想の如きは寧ろ滑稽である。

第六節 生絲のヨーロッパ進出

現在の如くアメリカ専門の生絲輸出は商略上から見ても、一朝太平洋の制海權に危機を感じる際を考へても策の得たるものでない。アメリカと人種を同うし嗜好を等しうするヨーロッパに生絲の進出を圖るは當今の急務である。而してヨーロッパに生絲の進出を計るには二の條件を必要とする。一は絲價を出来るだけ安くすることで、ヨーロッパ人はイギリスを除き大部分は富の程

度がアメリカより遙に低く購買力が少いから、ヨーロッパ向の生絲は出来るだけ安價とせねばならぬ。人絹のみがアメリカと異りヨーロッパを風靡して居る主たる理由は、何も彼等が生絲が嫌ひなのではなく、價格の高すぎるためで、價格さへ安ければヨーロッパに於ける生絲の需要は眞に怖るべきものがある。今日の所生絲の市場はヨーロッパに最も開拓の餘地がある。

第二はヨーロッパ人向きの生絲の研究が必要で、充分彼の地の嗜好を根本的に研究せねばならぬ。由來生絲と云へばアメリカ專問の從來の政策は大に考慮の餘地がある。シベリア鐵道を利用する生絲のヨーロッパ進出は國策上重大の關係がある。日本として日本海の制海權は太平洋の制海權より遙に容易であり、ヨーロッパを経てアメリカへの生絲の轉送は有事の日に考へうるコースである。

第七節 對人絹並綿絲と價格の競争

如斯吾等の理想は現代に於て空想と一笑に附されるかも知れないが、電送寫眞や飛行機の太平洋西兩洋の横斷が實現さるゝ今日である。夢でもなければ空想でもない。前述せる如く科學の研

究により生絲の生産費の遞減は決して空想でない。以上絲價半減論は可能であり、生絲の効用と人間の嗜好欲望との點を相對的に考へるならば、人絹や進んで綿絲と優に積極的に競争が出来るに違ひない。而して日本の農業の現状より見て生絲價格の遞減は國策上の問題である。我國の如き農家一戸一町一反と云ふ世界無類の極小耕地をしか有しない國として、其生産額が全國普遍的なる點を考慮して、蠶絲業程收約的に利益の多い産業は他に比類がない。同一の面積から擧げうる利益は米麥の比では勿論なく、然も前述の如く原料で賣らずに加工しうる點から見て、生絲になり織物となる勞力の利用上蠶絲程のものは他にない。而して日本は氣候風土の上から見て蠶絲業に最も適し、且つ又比較的蠶絲業の發達しない西部日本即中國、四國、九州の各地は長野、群馬、埼玉地方より遙に養蠶の好適地で、殊に麥刈り田植との勞力の具合は非常によく、五月雨前に春蠶の上簇する點などは理想的である。

加之養蠶製絲がヨーロッパ、アメリカに發達せざる理由は二つある。一は養蠶には機械の使用出來ない點で、機械文明の彼の地には採算がとれない。第二は勞力の需要烈しく殊に彼等に禁物である夜業を必要とするため、勞銀の高い勞働問題の八釜しいアメリカ、ヨーロッパに蠶絲業は

當分絶望である。イタリー、フランスの蠶絲業はスペイン、イタリーの米作と同様單にヨーロッパにも米や生絲が出来るると云ふにすぎない程度である。

工業的農業と収約農業が耕地極小の日本の農村及農業として好むにせよ、好まざるにせよ進むべき唯一の進路であるとするならば、蠶絲業の研究は産業國家として第一に考慮すべき重大問題である。

第八節 天然絹絲と人造絹絲の將來

人造絹絲と天然絹絲の將來如何と云ふことは、日本に於ける農村問題中の最も重大なる現實問題の一である。近頃人造絹絲の著しい發達につれ、天然絹絲との優劣論から進んで、天然絹絲の運命如何と云ふことに就ては、世間に心配する者も少くない。若し一部世論の如く、特に海外に於ける需要國——アメリカ、イギリス、ドイツ等——の希望する如く、人造絹絲が遂に天然絹絲を驅逐するものとするれば、これは確に獨り養蠶を飼育して居る農村のみならず、日本の産業界の致命的大問題である。云ふまでもなく、生絲及絹物の輸出は我國總輸出の六割を占めて居る。この生絲

貿易が人造絹絲に壓倒され驅逐されたとしたら、日本は如何にして——現在に於ても常に巨額の輸入超過を見て居るのだから——貿易のバランスをとるだらうか。又我農村は殆んど我國唯一の工業的農業とも稱すべき養蠶製絲が人造絹絲に其領域を奪はるゝとしたら、僅農家一戸當り一町歩しか有しない小面積の農業國として、養蠶に代る様な収入の多い農業を果して營みうるだらうか。「歐米視察の際日本の農家が一戸當り一町歩平均と話したら」日本人は一町歩で何うして食つて居るかと質問し、いくら説明しても納得出来ない位の極小農國、實の所養蠶の収入が斯々と説明して辛くも稍々首を傾ける有様。その玉手箱の養蠶が近い將來には「人造絹絲の發達で君駄目ですよ」と歐米人に云はれると全く以て弱らされる。

然らば天然絹絲の將來はしかく悲觀すべきものであらうか。下に述ぶる様な幾多の理由に依つて決してしかく悲觀すべきものでなく、否寧ろ時勢の進運に應ずる様な改良即ち生産費の低減と技術上の進歩を計つて行くならば、天然絹絲の前途は相當に有望であると思ふ。

天然と人造 第一の理由は天然と人造との優劣論である。茲に云ふ優劣論は生絲の品質とか技術上とかの見地から云ふのではない。成程現在に於ては品質上から云へば、天然絹絲が耐火力や光

澤や色々の點で人造絹絲に優つて居るのは勿論であるが、然し過去に於ける人智の進歩から見ると、此等の技術的の長所が何時迄保有出来るかは頗る疑問で、人造絹絲側が必死と研究改良を加ふるの結果は前に述べた缺點の如きは充分に改良し、或は進んで天然絹絲の有しない技術的長所を加へるかも知れないから、この點に就ての優劣論は畢竟水掛論にすぎない。

僕の云はうとするのは一般的に天然物と自然物に對して、人間が價値の判斷の上に如何なる考を持つて居るか云ふ點で、物の價値は要するに主として需要供給の關係から立つものである。早い話が今日眞珠について見ると御木本等の養殖眞珠が非常に精巧になつた結果、殆んど天然眞珠と養殖眞珠とは區別がつかん位、假に區別がつくにした所で普通一般人から云へば、養殖眞珠が品質上何も天然眞珠に劣ると云ふのでなく、唯價格が其所に非常の相違のあるのは要するに、一方は天然であり一方は養殖であると云ふ點に歸するだけである。即ち單に天然だと云ふので購買者が多額の金を支拂ひ、養殖だからと云ふことで、安くなければ買はないのであるのだから、近頃は商賣人に云はせてもネクタイピンや指環などの區別は、全く用ゆる人の地位に依つて區別するより仕方がないと云ふ譯。ブルチョア階級ならば——得てそらいふ階級にも贗物も多いが——

まがひものでも本物と見られ、プロならばその反對と云ふ様な價値判斷の世の中、更に又此頃伯林や巴里に行けばルビーやエナメルなどは一匙幾くらと云ふ有様。これで眞贋の區別はほとんどつき難いと云ふ。而して一は單に天然であるが故に百倍も高く、一は單に人造であるが故に値がないと云ふのは誠に馬鹿氣きつた事だけでも、現在の事實であるから仕方がない。従つて人造絹絲が如何に精巧に發達しても——假に天然絹絲を凌ぐ様な勢力になつても——天然絹絲を全く驅逐するなどは思ひもよらぬこと。其所に天然絹絲と人造絹絲との間に嚴然たる區別が存在し、單に天然であるからと云ふことだけで、天然絹絲が優越的地位を占め、却て人造絹絲が發達すればする程、普及すればする程、天然絹絲の優越性は明かになること恰も寶石の場合と同様に思ふ。一言にして云へば人造と天然とは何うしても本質的にそこに差別があり、人間のこの差別的意識が天然物の價値をつけ、更に優越性を欲する人間の本能から天然物を珍重する。従つて價格が高い。

人間の心理 第二に今度は絹織物を着る人間の嗜好性から見ると、元來人間が絹を着るのは絹が木綿よりも着心地がよいし、體裁もよいと云ふ點は勿論あるが、主たる理由は絹が木綿よりも價格が高いと云ふ點にある。若し絹が木綿と同様若くば木綿以下の價格になり、従つて猫も杓子も

絹ばかり着る様になつたらどうだらう、或は價格の高い木綿を却つて珍重するに違ひない。早い例がダイヤモンドを見給へ。数が少くて高いから珍重するのぢアないか。ダイヤモンドが硝子のまがひものゝ様にべら棒に安かつたら誰が珍重する。而して硝子のまがひ物と何れだけの區別がある？

要するに人造絹絲が盛んに製造されて安くさへなれば、天然絹絲は賣れなくなると云ふ者は人間心理を誤解した議論だ。自分に云はしむれば人造絹絲が盛んに製造されて安くなれば却つて天然絹絲は金持階級には勿論、あらゆる人間に珍重されて、需要は増せばとて衰へるものでない。其理由の一は前述した天然たると、其二は人間心理の作用と、其三は人造絹絲の低廉なるために、あらゆる階級に普及すると共に、一度人造絹絲を使用した連中は更に高價な天然絹絲を欲する様になるのは、人情の自然で結局人造絹絲は天然絹絲の媒介物、即ち橋渡しと云ふ役をつとめるからである。結局人造絹絲は一方から見ると天然絹絲の領域を蠶食する様に見へるが、高い、廣い、長い眼から見ると媒介役をつとめるのである。

天然絹絲の改良すべき點 第三には天然絹絲が人造絹絲に對し優越的地位を占めるに必要な條

件だ。いくら天然がよいからと云つて出來うべき改良も加へないで袖手傍觀して居つては時代に遅れる。

先づ其條件を述べる前に一つの疑問がある。アメリカはあれほど生絲の需要があるに拘はらず、あんな廣い耕地を持つて豪い農業國であり乍ら、何故養蠶をやらないか。これには大に理由がある。凡そ農業の中で米作と養蠶ほど澤山の勞力を要するものはない。近代農業は出來うる限り機械を應用し人力を省き、生産費を節減するのが特色で、以て經濟的に勝利を得た所以であるが、米作殊に養蠶は今日迄の研究では機械力を使用する範圍が極めて狭く、大部分は人力を應用し、然も勞働時間制のやかましい今日、養蠶は殆んど終夜勞働だから時間以外の勞働は二倍賃銀の世の中、到底勞賃の高い、勞働條件の進んだ國に養蠶は行はれない。これがアメリカに生絲の需要が最も多く、然も養蠶の行はれぬ主要の原因である。米作は養蠶ほどでもないが、矢張り機械力の使用が少く、人力が多くかゝるから、勞賃の安い國か、氣候の暑い國か、肥料地代等の極めて安い所でなければ行はれない。即ち養蠶や米作に勞賃の安い東洋諸國に大部分、伊太利、西班牙等に少しばかり行はるゝにすぎない、近頃アメリカに米作が行はれるがこれは養蠶ほど勞力を要し

ないのと、氣候や地代肥料等が有利なる爲である。

この點から云ふと、天然絹絲が將來益々高價になると、アメリカにも養蠶が行はれることとなる。即ち絲價が生産を償つて利益さへあれば何も日本や支那の生絲を買ふ必要はなく、アメリカ自ら、或は歐洲自ら、養蠶を飼育すればよいのである。更に又絲價が些程高くなるとも飼育法の研究の結果、人力を省いて機械力を使用する等の方法によつて生産費を節約する方法が発見出来れば、同様にアメリカや歐洲で養蠶を盛んにやるに違ひない。唯ヨーロッパの一番困ることは日本と違つて桑葉のないために所謂秋蠶が出来ないで、年一回丈の養蠶である。これはヨーロッパの養蠶國の致命傷である。故に我國の天然絹絲をして優越の地位を保持させるに必要な條件は、飼育術及製絲技術の研究によつて、出来る限り生産費の節約を計るにある。我國の天然絹絲の絲價が早晚來るべき労働條件の改善其他によつて今後益々高くなるとすれば、そこに二つの危険がある。一つは人造絹絲の代用範圍の擴張と、一つはアメリカ及ヨーロッパの養蠶飼育の勃興である。生産費の節減には勿論色々ある。蠶種の改良、飼育術の研究、桑園の改善、肥料の研究、製絲の加工販賣等に亘つて誠に廣汎であるが、其中最も肝要で手取早い方法は、農民自身の爲めに農民の力

による産業組合製絲の發達である。所謂組合製絲の發達は丁抹の如く中間商人を排斥して工業的農業たらしめ、農業の利益を全部農民に得さしめる方法として理想的のものである。生産費節減も生絲信用も従つて絲價の向上も總てこの組合製絲によつて達成せられるは前述した通である。

人造絹絲の將來 第四は人造絹絲の將來である。人造絹絲は今後益々改良せられて、安價なる生絲として益々普及し民衆化するに違ひない。唯これが如何なる方面に發展するかと問題で、勿論天然絹絲も油斷は出来ないが、之は前述する通り人造絹絲の刺戟によつて功罪半すると見てよからうが、現在の勢ひで行くと一番侵蝕さるゝのは寧ろ價格の點から競争的地位にある綿絲ではあるまいか。人造絹絲の競争は將來に於ける大問題であらう。一方に天然絹絲の綿類に比して遙に優越したものとすると、人造絹絲が今後益々綿絲の範圍を侵蝕するのは自然ではあるまいか。斯くして絹絲の民衆化となれば人造絹絲の媒介役がある天然絹絲の將來は益々有望である。歐米を旅行して最も驚く事の一つは日本における想像などゝ違つて絹絲の使用の範圍の實に廣いことゝ、其民衆化の豪いことである。日常絹物を使用するのは贅澤と思ふのは畢竟日本人の生活程度が低いからだ。

第九章 組織網の缺陷

水路なくして灌漑するの類

腸チブスは當然 我國の農業の大缺陷は高天ヶ原農業の餘勢で生産方面には個人的に農民もいろ／＼苦心するが、購買、販賣、生産品の加工、資金の貯蓄利用等の組織網に就ては外國の模倣一點張りで殆んど見るべきものがない。心臓から新しい血液は滾々として送られるが此を運ぶ血管が充分整つてゐない様のもので、危険此上もない。折角の滋養物も腸に行くつかり、窒息されて袋道の様のもので、所謂腸チブスになるのは當然。下劑をかけるにしても腸が到る所^{いた}で居るのだから生命そのものを失ふ心配がある。生産方面は兎に角、工業的農業に進むにはレールたり水路たるこの組織網が必要。どうしても産業組合や農會等を充分に發達させて、肥料や飼料の購買、生産物の加工販賣から、資金の貯蓄融通等は全部産業組合でして貰つて農民は唯生産だけに従事すれば善い様に、産業組合による組織を發達させることが急務である。

丁抹とイギリスの農業の優劣 イギリスの農政家アッシュレーが丁抹とイギリスの農業を比較して、生産の技術其他の能率に就てはイギリスは決して丁抹に劣らないが、農業に最も大切な組織の點になると誠に天地の差があると、世の中ではイギリスの農業は極めて遅れて居ると思つて居る人々が多い様であるが、これは大なる誤解で、耕地は成程少く過半の土地は荒地として觀られずにあるが、生産の技術方面や經營に就ては、流石に世界に名だゝるヂヨンブルだけに進歩したもので、國際労働事務局のリツデル博士も生産技術、農具の進歩、家畜の飼養等に就てはヨーロッパの第一流國に伍して決して耻しくないと言はれた。

然し乍らイギリスでは都市の消費組合は非常に發達してゐるが、農業に最も必要な組織網即ち農村の産業組合の發達に就ては誠に微々たるもので、到底丁抹に遠く及ぶ所でなく、此がイギリスの農業をして今日の如く衰頹させた主因の一である。此アッシュレーの批評は獨り英國にのみ適用せらるゝばかりでなく、我國の農業の現状に對しても最も適切な警告と云つてよい。

丁抹の研究者として有名なライダーハガードも其著「丁抹の農村及其教訓」中に丁抹では生産品が市場に出るに平均二十パーセント位だが、英國では平均百パーセントを要すると、組織の完

否のために農民の蒙る損害は如斯大きい。

産業組合の危機 産業組合が中産階級以下の經濟機關として、最も理想的なことは今日世界の
大勢である。特に農村の經濟機關としてこれ程有効のものはない。否寧ろ農村開發の動力は産業
組合と云つて過言でない。丁抹の農村は産業組合萬能である。購買販賣信用は固より病院も學校
さへも産業組合でやつてゐる。小農の大本山として有名なランゲ氏の經營してゐるアスコブの小
農々學校も産業組合組織である。濠洲やアメリカにまで販路のある世界に有名なロスキルの種子
販賣所も産業組合である。丁抹の農村は産業組合の組織網が交通網の如く整然として普及してゐ
る。産業組合の發達即ち農村の繁榮と斷じて差支ない。

日本の農村に於ても亦同様である。日本の丁抹と稱せらるゝ愛知縣の碧海郡の農業の發達は主
として産業組合の普及に負ふて居る。現在我國の農村でも疲弊して居る所には産業組合がないが、
あつても睡眠組合に違ひない。如斯産業組合の力は偉大であるが、これは産業組合の健全なる發
達をした場合の話で、如何に榮養物でも若し誤つて腐敗したものを食べたなら其害毒は又怖るべき
ものであると同様、産業組合も一度び腐敗したら、其効果の偉大なるだけそれだけ、其影響も亦

實に戦慄すべきものがある。蓋し産業組合は中産階級以下の經濟機關であるから、尙又組合員は
普遍的に農民を網羅して居るから、而して組合員の殆んど全部は組合の幹部を信頼し盲目的に全
部を任せて居る現状であるから、其損失の及ぶ範圍は極めて廣く、然も各組合員の經濟は比較的
小さいものだから、他の經濟社會の破綻と異つて其打撃は徹底的に來る。且又信頼が大きい丈失
望も亦大きいのは當然である、怖るべきは産業組合の破綻で、政府が貯蓄銀行破綻を非常に警戒
するが、産業組合の破綻は寧ろ夫れ以上である。

産業組合の破綻の影響は前述の如く極めて重大であるが、今日我國の産業組合の現状はどうで
あるか。よく噴火山上でダンスすると云ふ批評があるが、産業組合に對する政府並に府縣當局の態
度はこれに類するものがありはしないだらうか。吾等が本論の題目として産業組合の危機と云ふ
のは決して事を好む奇矯の言でなくして、眞相透徹せる識者の言と斷言して憚らないのである。
恐らく農林省當局もこの事實を知つて居る。又産業組合中央會の幹部も這般の消息を熟知して居
る。知つて而してこれを救濟すべき果斷の處置に出でないのは抑も如何なる理由であるかと云へ
ば、一は過去の責任を恐れ、一は將來に對する萬全の對策と事を斷ずる勇氣がないため、唯病狀

を怖れて見て見ぬ振りをして一日遁れの有様である。吾等は決して彼等を全然悪意とは断ぜぬ。些少の善意を有して、あれやこれやと施設を講じたくはあるが、大臣に對して其真相を徹底的に訴ふるの勇氣はない。其真相を説かずして對策を講ぜよと云ふのだから一蹴されるのは當然の話で、今年辛うじて議會を通過した府縣の産業組合の當事者の若干を國費とする案の如きは彼等の煩悶の表現である。これをしも緊縮豫算の名目の下に削除した濱口内閣は、茲にも現在の産業組合に對し全然無理解を表明したもので其罪惡たる頗る大と云はねばならぬ。

危機の原因 今日我國の産業組合が危機に瀕せる理由は何であるかと云ふに

1 政府並府縣監督の怠慢

我國の産業組合を今日の危機に瀕せしめた大半の責任は、確に監督官廳そのものにある。元來産業組合は政府縣當局の獎勵に依つて設立され、組合員の多くは前述せる如く官廳を信賴して官廳が監督してくれるのだから間違ひはない。自家の金庫に金を入れて置くよりも寧ろ安全である位に考へて居るもので年々の組合の總會の如きも全然形式的で、組合の監督は擧げて當局に一任してゐる。而して農林省及府縣には夫々専門の監督官が居るけれども、この農林省の監督の如き

は二階は愚か丸ビルの七階からの目薬位で、又地方に出張しても眞剣に監督する公的精神の所有者は果して幾人あるか疑問で、地方に出張すれば府縣當局や組合理事者もよくないが遠路御苦勞と云ふ調子で、結局觀光と御馳走の中毒で監督官自らが組合を腐敗させる動機を作つてしまふ。

次に府縣知事、内務部長以下はどうであるかと云へば、産業組合主事以下には眞面目に指導監督する人間も多少あるが、第一肝腎の知事部長に監督など、云ふ頭のある人間は寥々曉星の如しで、總會に訓示を讀んで御馳走になる時に始めて産業組合の存在意識を明瞭にする位で、産業組合の監督指導につき適切なる具體案を講究する人間が幾人あるか。あれば参考の爲めに御聞きしたい位である。主事以下の監督者中にも公的精神の所有者は先づ多いとは云へぬ。

それに又知事以下首脳部がさうであるから、彼等が眞面目に監督すると勢ひ組合の幹部には縣會議員其他の有力者が多いから、知事、部長邊に小言が來て排斥運動でもやりかねないから、臭いものには蓋をしるで大概生半にけりをつける。知つて而して知らざる風を装ひ、やらんと欲してやる能はずと云ふのが彼等の偽らざる告白である。若し知事、部長に誠意があり、確乎たる度胸があるならば、要するに地方有力者の反對などは左程のものでない。彼等に確信なく先手をうつ

の用意と明がないからひきずられるので、この點は新聞紙始め所謂識者が地方有力者の力を買ひ被ぶりすぎて居ると同時に、彼等を一概に悪者に見すぎて居る。元來地方の有力者は些程壓迫力のあるものでなく又決して悪者でない。唯知事以下首脳部に施設と誠意と更に大切な確信がないから、事情を知らない彼等にひきずられるので、當局者に適切な具體案があり、所謂タイムリー・ヒツトの明と、先手を打つの果斷さへあれば彼等は寧ろ従順なる羊の如きものである。

これは決して自分の誇張でも何でも無い。論より證據、愛知縣の一農務課長として又大分縣の一學務課長としてさへ、政争の最も烈しいと云はれる兩縣の有志は黨派を論ぜず自分の施設に賛成して、勸業學務の上に空前の施設をさせて居り、然も自分は有力者から何等の掣肘を受けて居らぬ。若し強ひて操縦と云ふ言葉が必要であるならば、有力者から操縦されたことは何もなく、寧ろ自分が操縦したと云ふのが實際で、五年十年後今日でも兩縣の有力者は喜んで歡迎してくれるのでもわかるではないか。最近の樺太や香川の如きは一層明瞭で地方の有力者はよく理解し聲援こそすれ寸毫も壓迫などを蒙つて居らんし、愉快に自己の意の儘にやつたつもりである。

要するに黨人の跋扈とか何とか云ふのは、首腦者の人物如何による。確信あり能力ある人間ならば適切なる施設をする程縣民はついて來るのである。一言にして云へばゴム球だ。弱いからへこまれるのであり強ければハネかへすだけである。

2 組合理事者の怠慢と横暴

組合理事者中には單に名義丈の名譽職のものが少くない。従つて一、二の理事が専ら組合活動の衝に當るのであるが、この中心人物中にも怠慢の人が少くない。結局下の事務員任せにする組合が少くない。この事務員任せにする組合は、若し事務員が正しくない人間か、或は怠慢であれば組合に自然損害を與へる。故に組合の失態を起す場合は

(イ) 組合の中心たる理事者の怠慢若くは横暴

(ロ) 事務員の怠慢若くは横暴

の二つの場合で組合の専務理事者の怠慢及事務員の怠慢の場合は、積極的に組合に損害をかける。悪意の人間がある場合は組合の經營當を得ずして不良貸付、肥料購入の失敗、販賣事業の不成績、餘裕金保管の失敗等であるが、理事者及事務員の横暴となると法令違反の貸付、投資、横領等で、著しい例は理事者關係の事業への投資及縁故者への情實貸付、甚しいのになると組合の資金で株

を始め、儲かつた時は自己の懐に入れ、損失の時は組合に負擔させる惡徳漢も少くない。

此の場合組合の他の理事者又は監事が熱心ならば、此等の損失を未然に又は少額の中に發見出来るが、彼等が怠慢の場合には公々然如斯不正事が行はれるのである、斯かる状況は恐らく世人の豫想以上に多く、其被害も決して些少でなく若し其真相が暴露さるゝならば、由々しい大事が全国的に起ると懸念さるゝのである。若し今日各府縣當局が一齊に管下の産業組合を監査するならば蓋し思ひ半にすぐるものがあるに違ひない。農林當局の言を藉りても産業組合に最も熱心にして理解ある自分が云ふのだから決して人騒がせの言でないことを諒して貰ひたい。

改善策 危機は既に迫まつて居るが、此が救済策はないかと云ふに對症療法として先づ左の如き費用のかゝらぬ方法を實行したい

1 一齊監査

各府縣の産業組合主事以下を全動員して、一郡市毎に少くとも二週間前に豫告を發して郡内の組合全部を監査する、一組合に對して吏員二名を派して、一日で監査すれば一郡を凡そ五日乃至一週間で全部監査し得るから、監査後一週日以内に適當の所に理事者全部を招集して、知事又は

内務部長より講評を行ひ適切なる注意を與へ、詳細に就ては文書で注意する。又不良組合に對しては縣廳に召喚し善後の解決案を作る。必要に應じて理事の解囑を命令する。この場合知事、部長の講評は眞剣で適切でなければならぬ。從來の様な屬官任せの形式的講評ならせぬ方がよく却つて熱心な課長、主事にやらせる。而して如斯知事又は内務部長は内務大臣は直に免官とする。吾等は最早如斯形式的官僚を一日も放任する餘裕は持たぬのである。

かくすれば大抵一縣内の産業組合を一年内に全部監督指導が出來、この方法の利益は從來の方法では一年は愚か一巡に數年かゝるのみならず、行く所には何回も行つて、行かぬ所は數年に一度も行かぬ様な不公平の指導監督に陥る弊がある。又一齊監査ならば吏員も自由に上司の命として、如何に理事者が有力なる組合でも監査出來る。組合の理事者も他の組合との比較となり講評されるから競争的にもなり非常に緊張する。

自分は此の方法を大正十年に大分縣の小學校に行つて豫想外の成績を得たので、大正十一年から愛知縣の産業組合に行ひ、昭和三年から香川縣の産業組合及町村役場の事務監査に實施して豫期以上の効果を擧げたから責任を以て推獎する、しかしして次の郡は施行前二週日までは何郡に行

くか秘密にして置くと、自然全縣下の郡が緊張する、此の方法は獨り産業組合のみならず郡制廢止後、市町村役場及學校其他の組合に特に有効である。

2 理事者の名譽職全廢

名譽職程名がよくて然し不經濟的のものは世の中に少いだらう。名譽職とは與ふべきものをケチにして、最後に與ふべきもの、數倍若くは數十倍を餘儀なく支拂ふもの也と定義して間違ひない。生活即政治の世の中に何たる皮肉の然も時代錯誤の制度であらう。自分が先年マンチエスタ一のコーポレーションシテイの支配人を訪問した際「英國では自己の生活の保障なくして公共事業に盡す人はありません」と、産業組合理事者の俸給の高い辯護をされたが誠に名言であると思ふ。世の中は「與へて取れである」。與ふべきものをケチにするから數倍の損失を蒙るのである。日本の名譽職は肝腎の仕事まで名譽職にして、一度び失態を醸すと本人は勿論他の團體員まで、平素正當の支給をしないのだからまあ止むを得ないと、辯護せざるを得なくなり泣き寝入りとなるのが常態である。

今日の急務は理事者の數を少くして、殊に専務理事者と専務監事には正當の報酬を支給して其代はり専心働いて貰ふことが、結局に於て組合の利益たることは一點の疑ひもない。獨り産業組合のみならず町村長も同様である。日本のあらゆる社會から最早名譽職の制度を撤廢するのが何より急務である。

3 餘裕金の保管は中央金庫か數個の銀行を選ばしむること

今日の如く農村に適當な事業の起らない我國では、産業組合の預金が貸付金より遙に多くなり、従つて所謂餘裕金の處置に困するに至るのは理の當然である。信用組合で最も危険なのはこの餘裕金の處分で、個々の組合は固より聯合會の失敗は多く此點より起因する。

餘裕金の處分は産業組合中央金庫及地方の銀行預金か有價證券への投資である。産業組合の中の中央金庫が今日の様に微々として振はない現況では、府縣の聯合會や個々の組合が預金を送らないのは理由もあるし、尙金利の關係から地方銀行に靡くのは好ましくない傾向ではあるが、現在の如く利鞘を唯一の商賣とする狀況では蓋し止むを得ないことであらう。而して此銀行への預金が問題で自然情實關係になり易いのと今一つは利率の關係で——第二流以下の銀行程利率が高い——第二流以下の銀行へ預け勝となる。

此銀行の選擇は最も慎重を要すべき點で、一銀行に集中し然も其銀行の選擇を誤まつたゝめにひどい目にあつた實例は澤山にある。故に府縣の監督としては信用ある數個の銀行を選んで平等に預金せしむべきである。此點は嚴重に監督せねばならぬ。

有價證券の投資は公債か政府の保證ある社債に限定すべきで、公債は利廻りの關係上自然社債に限局される。府縣の農工債券もよからう。兎に角株券は相場の高低が社債に比して烈しいから産業組合投資の目的物としては望ましくない。

4 組合の中心人物の選任に注意すること

何事も人物が中心であるが、産業組合の如き多數の團體員を包含して公共的性質のものには、特に中心人物の詮衡に留意し、監督官廳としては其中心人物の人格、性行及家庭生活の状況に充分目をひからせることが必要である。この中心人物さへしつかりして居り誠意の人物であれば、組合の經營を安心出来るのである。

最後に政府及府縣當局に熱心に希望する點は、産業組合の破綻は直接農村の破綻であるから其監督には最全の注意をなし、以て組合員の期待に添ふ様にすることが何よりも急務で、いろく

のこま／＼した施設をするよりも、産業組合の發達に全力を注ぐことが即ち農村を振興せしむる捷徑であるから、一定の計畫の下に此が監督指導を徹底させて貰ひたものである。

丁抹の驚くべき組織綱 丁抹の産業組合は名實共に世界一であるが、今日の發達をした原因は前述した十九世紀の中頃新大陸の農産物の大壓迫を蒙つた際農業方針を一變して、家畜農業を主とし普通農業を従とした大英斷の賜で、この新農業政策を成功させ所謂工業的農業を完成するために産業組合が死活の苦しみの中から産れ出て今日の様に發達したのである。この點は丁抹の産業組合が世界で最もしつかりした根底を持つて居る理由である。即ち丁抹はヨーロッパは勿論世界で小作農の最も少い國で僅に農家の七パーセント半であつて、九十二パーセント半は自作農である。然も大農が少く小中農が多いから農村金融を始め生産、販賣、購買の各方面に亘つて産業組合の力を要すること多大である。其理由は大農は小中農に比べて産業組合の助力を俟たないで、此等機能を或程度迄達し得られるから、従て各國に於て大農の多い地方には産業組合は發達しない。産業組合は資力の乏しい力の少ない小中農の最も有効な農業經營上の武器である。

而して又産業組合の發達は小作農の多い地方にも不成績である。有名なヘラルド・フェーバーが

「丁抹農業に於ける産業組合」中に於て産業組合が丁抹の農村に發達し、英國の農村に振はない理由として、兩國に於ける土地分配の相違と社會的教育狀況の相違とを擧げたのは誠に名言である。丁抹では大農は僅に總農業地の九分の一を所有するにすぎないし、小農は同じく九分の一の土地を所有して、農家戸數の約三分二を占めてゐる。自作農は實に前に述べた様に、總農家戸數の九二・五%を有して居るに拘はらず、英國の自作農家は僅に十三分の一を占めるにすぎない。尙ほ丁抹の農民は極めて愛農心に富んで居り、然も其上に産業組合の搖籃と云はれてゐる國民高等學校の教育がある。丁抹産業組合の發達は誠に偶然ではない。

丁抹の産業組合の特色は 第一に眞の必要即ち死活問題から出發してゐること。

第二に自治的に發達したこと

第三に丁抹獨特の組織を持つて居つて、従つて形式を避けて實際的であること

第四に組合員の訓練が充分であること

第五に各種産業組合の連絡がよく發達して有機的であること

第六に經濟的必要から出發して、他の諸國の様に理想的乃至慈善的目的を加味してゐないこと

第七に産業組合に人物の多いこと

第八に宗教や政治的運動と連絡を持つてゐない、而して何人の加入も絶対に自由な中立的のものであること

第九にコントロール組合の發達してゐること

最後に各種の組合は大概獨立して兼營組合の少いこと等である。

丁抹に於ける産業組合發達の内容に就ては已に詳しく説明したから、茲には世界に有名なコントロール組合、消費組合及信用組合に就て簡単に述べよう。

コントロール組合 コントロール組合と云ふのは乳牛の乳量と乳質と飼料の關係を調べて、飼料の費用が最も少い、然も質のよい乳を最も多量に搾取し得る乳牛を發見する組合で、組合に巡廻検査技師があつて組合員の家を定期に巡廻して、飼料と乳量、乳質を検査して、一番善い成績の牛を發見し、この牛を繁殖させて各組合員に分配する組織で、云はゞ經濟的能率品評會である。

丁抹の牛酪業が今日の様に發達したのは全くコントロール組合の力である。ヘラルド・ファーバーが前述の著書の中に於て「凡そ有畜農業に關係した仕事で、丁抹農民の努力によつて創造

し、發達せしめられた各種産業組合は色々あるが、總明と經濟的價値とに於てコントロール組合に如くものはない。」と喝破した様に、驚くべき効果を奏して左の如く増加した。

	面積	乳牛數	牛乳	バター
一八八二年	七〇 ^{エーカー}	八	二八〇 ^{ガロン}	一一〇 ^{ポンド}
一九一九年	同	一一	五五〇	二〇〇

如斯コントロール組合の力によつて、一農家の生産したバターの量は八百八十ポンドから二千ポンドに増加した。尙ほ組合が成立してから、試験の結果、一方に於て一ポンドのバターの生産費が僅に貳拾五錢に過ぎないものがあるのに、他の農家は一圓四拾錢かゝつたものすらあるのを發見した。如何に知らずくの間不經濟の飼養をして居るかゞわかる。コントロール組合の目的は不斷の試験によつて乳の量と、質と食物との關係及更に最も勝れたる質のバターを産出し得る乳牛を發見して、牛酪農業を經濟的にしようと云ふのである。コントロール組合の數は八百八十九で、組合員二万三千六百四十人、乳牛三十二万九千頭であり、現在益々發達の有様である。

丁抹消費組合 丁抹の消費組合の特徴は實際的と云ふ點である。一八八六年に始めて組織されて現今千八百組合に増加し、賣上高は一億八千七百四十万クローンで、組合員の數は人口十人に

對し約一人の割合である。英國は十五人、獨逸は二十九人の割合から見れば、如何に發達して居るかを知らるに足りよう。丁抹消費組合の特質は左の如くである。

- 一、賣價は市價によること
- 二、現金賣買
- 三、剩餘金の配當は組合員の購入額に比例すること
- 四、組合の責任は連帶
- 五、何人も組合員たることは自由
- 六、一組合員、一票主義
- 七、組合事業の執行機關は總會に於て選ばれた理事中で、監事は理事と兼ねることは出來ない一般商人との關係を顧慮して、丁抹では消費組合に二種ある。單に組合員のみ取引の範圍を限つて居ると、組合員以外の何人にも取引し得るものとある。前者は商人でないから免許を要しないが、後者は普通の商人と同様に免許を要する。従つて前者の取引は組合員に限られるばかりでなく利益の配當も同様であつて、債務に對する責任は連帶である。而して免許を受けた消費組

合は三分ノ一に達してゐる。英獨の消費組合は全然此等の制限がなく取引自由である。

ほんとうの信用組合 丁抹の信用組合こそほんとうの信用組合である。此組織はドイツのランドシャフテンと同じで、獨逸に始まつてスカンデネビヤ諸國及東部バルチックの諸國に發達した一種特有の不動産金融機關である。丁抹の農業が一八六〇年代から、僅に二、三十年間に非常な發達をしたのは、主として此の信用組合から資金の供給があつたためである。今丁抹に於ける一九〇九年の統計を見ると信用組合に入つて居る農家戸數は十六万四千戸で七千八百七十万磅の資金の融通をなし、一戸當り四百八十磅即ち五千七百圓以上の巨額に達し、此等の資金は我國の農村の様に生計資金に用ゐられるのではなくて、農場、農舎の購入擴張、家畜肥料、農具の購入、加工場の設立等の生産資金に投資されるのである。この一種特別な信用組合の力なくては丁抹の農業は決して今日の盛況を見る事は出来なかつた。今其組織を述べると、信用組合法により組合を作らうとするものは、先づ自己の所有する土地、家屋等の財産を擧げて抵當として組合に提供し、組合は組合員から提供したる全財産を信用財産とする。而して組合員が資金を組合に借りようと思ふときは組合は前述の様に提供したる該組合員の財産の五分ノ三までを限度として、年四分利附

の（金融市場の状況により異なる）證書を交付する。此證書を受取つた組合員は銀行の手を経或は單獨で金融市場に之を賣つて、資金を調達する。此を賣却するには國債乃至爲替相場と同じ様に毎日コーペンハーゲン或はロンドンの取引所に相場は公表され、新聞紙は之を掲載するから、極めて安全容易である。政府は又此に對して公金の放資をも許容する。何故に組合の證券が如斯信用があるかと云ふと、組合は組合員の全財産を財産とするから、破産の危険は殆んどなく、組合員は各別に又全體として連帶責任である。自分のコーペンハーゲンに滞在中新聞紙に出たこの證券の相場は四分利付で八十二圓、第二擔保のものは八十圓、小農信用組合のは利子につき政府の保證があるから八十三圓であつた。證券を購入した債權者は組合から利子と元金の償還とを得る。組合員は又組合に對して利子と元金を年賦で償却する。其信用價格は略ぼ丁抹の國債と同様で最も安全な放資物として歓迎され、償還期限は六十五年である。而して資金の融通を受けたる組合員は組合に對して準備金經費として融通資金の二%を一時又は二ヶ年内に納付する。尙組合の經費として半期に若干宛及償却金として融通金の二分ノ一%を納付する。組合は此等資金を以て有利なる場合には證券を購入の上償却し、或は抽籤によつて償還をする、證書は最低五十圓で印紙

を免税する。組合は年々バランスシートを又四ヶ月毎にバランスの状況を内務省に報告する義務がある。組合は全く自治的で普通産業組合と異なることはなく、稀に證券の所有者に對して總會に於て議決権を與ふる組合がある、組合員の財産の評価は重大事項で、此は法令により定められて、二人の永久評價委員が其の行政区域内に於て政府から任命され、組合の役員はこの評價に基いて融通すべき限度を定める。財産登録及登録税の如き又證券發行に要する僅少の費用の如きは組合員の負擔である。

尙ほ此外に小農のために特別の信用組合のあることは前述した通りである。兎に角丁抹の信用組合にて組合員の信用に依つて資金の調達が出来るので、日本の様に預金組合とは全く性質が異つて居る、唯丁抹の信用組合の様な實際的な便利のものを作るには、日本も民度が今少し進まねばならぬ。

水路を作れ 如何に灌漑用水が豊富でも水路がなくては灌漑は出来ぬ。結局手近な田に水が溢れて大困まり、然も一方には旱天で鎮守様に雨乞ひをすると云ふ大騒ぎ。到底灌漑水の一様に行き渡る筈がない。先づ農村振興の第一義は此の組織網を有機的に作るにある。

其改善策としては

- 1 眞の必要から發した自治的のものにすること
- 2 後述する様な生きた農村教育を施して民度を向上させること
- 3 以上の二項の力により組合員の自覺と訓練とを計ること
- 4 理事者の名譽職は廢して少くとも専務理事を有給とすること

名譽職制度は名は立派だが現情では仕事まで名譽職となつて、少しばかりの俸給を惜しむために組合は能率が上らず、不始末は出来るし其損害は多大である。政治は即生活の世の中であるから與ふべきものは與へて仕事を充分にして貰ふことが何の位利益であるか知れない。何か不始末が起つても名譽職であるために充分に責任も問へないし、直に逃げ支度とくるから結局泣寝入りに終る。もう虚偽の衣や御體裁は止めにして、實社會の根底の上にし、つかりした土臺を築かねば駄目である。

- 5 生産加工品の検査を嚴重にし、數字の格付をすること
- 6 會計検査は官廳で年一回嚴重にやること

會計の整理は最も必要で會計の整理出來て居る所は仕事もよい、會計の検査は團體監督の扇の要たり心臓への注射である。

第十章 有畜農業の普及

片輪の荷車 日本の農業が高天ヶ原農業の批評を受ける一半の原因は畜産の振はないため、畜産のない農業は片輪の荷車も同様、到底片輪で荷車が走れる氣遣ひはない。精々ヨチ、歩くのが關の山である。勞力の調節も資金の運轉乃至は肥料の點から見ても畜産なき農業の經營は算盤のとれるものでない。

ヨーロッパ農業の強味 は實にこの畜産の發達して居るためである。これは食糧の關係もあるが又畜産の盛んな爲めに肉類を食べる様にもなつたのだが、兎に角畜産が盛んであるから、前述した工業的農業となり、農業の利益が我國に比らべて甚だ多いのである。穀作一方であるならば到底ヨーロッパの農民は今日の生活は出來ないのである。畜産をやるから、家族の餘剩勞力も大變利用出來て老人や婦人は勿論子供も相當役に立つて、子供の時から農業にも親しむし、一年中収入もあつて勞力の調節も出来る。農家としては成るべく支出を少くするのが經營の第一義であるから、金肥を日本の一割五分位ですむ丁抹の農業は非常な強味で、然も土地のためには非常によい。

資金も家畜農業をやれば度々運轉出来るし、日本の様に一時に金を取る農業は收支の關係が解らぬから奢侈に流れて、結局翌年の収入を目當てに生活する様になる。愛知縣の調査でも精農と稱せられる農業經營の上手な人々は悉く畜産を相當にやつて居る。

有畜農業は何故必要か 農業經營の革新即ち原始的單一農業を改革して、多角形農業たらしむることの必要なる所以は叙説を俟たない。而してこの多角形農業をして更に進んで丁抹ドイツ流の工業的農業たらしむることの急務なる所以は既に度々説明した。

この多角形農業の中で日本として方今最も急務なるものは、蓋し有畜農業の獎勵に如くものはあるまい。嘗て世界に於ける農政學者の權威たるドイツのゼーリング老教授を訪問した際、有畜農業の殆んどない日本の農業經營の話をした所が眼をみはつてそれは片輪農業であると笑はれた。現在我國の農業の最大缺陷の一は實に有畜農業の微々たる點にある。

有畜農業とは近頃の術語であるが、即ち農業經營の中に畜産——日本としては主として乳牛、役牛、養豚、養鶏の飼養——を加味することで米麥園藝養蠶中心の農業經營に畜産を主要分子として加ふることである。有畜農業が農業經營に特に日本として必要なる所以を述べると、

第一肥料問題である。經濟的に見ても地力維持の上から見ても、金肥萬能の日本の農業はあらゆる缺陷を含んでゐる。日本程世界の農業國中て假令集約農業の國であるとは云へ金肥を多額に使用する國はない。先年丁抹其他ヨーロッパ各國の農業を視察した際の調査によるも、丁抹は一ヘクターに金肥は僅に十五圓乃至十八圓位で日本の十分ノ一以下である。肥料の大部分は堆肥其他の自給肥料で、金肥は加里其他の化學肥料を然も原料として購入しこれを配合するのである。我國では水田には十圓乃至十五圓桑園にも少くも十圓位の金肥は普通で、然も其最大缺陷は第一耕地の土壤の性分を調査しないで、且又肥料そのものも原料購入でなく、不正肥料の跋扈する曖昧の配合肥料であるから其性分から既に疑はしい。恰も醫師の診察なしで善い加減の田舎の賣藥を買ふと同様で、否更に肥料知識が最も少い農民だから賣藥所か盲人が肥料らしいものをつかまされると同然である。云ふまでもなく名醫の眞價は診斷にある。診斷さへ適中すれば藥の調合は醫師よりも藥劑師が確かである。醫師の價値は診斷であるが不幸にして日本の農民は、耕地診斷なしで然も舊幕時代の賣藥式の肥料を施肥して居るのである。習慣とは云へ、その不經濟亂暴さ加減は實に驚くべきものである。

更に又此金肥萬能の結果は農業に最も大切な地力増進の上から見て非常に危険を招來すること
 で金肥萬能の結果は地力の消耗を來し、作物に對して種々の病害を與へるのである。米作に非常な
 損害を與ふる稻熱病は固より桑樹、園藝等の病害は主として金肥萬能の結果である。即ち健全な
 る作物を栽培するには固より抵抗性の強い種類を用ふ必要はあるけれども、推肥其他の自給肥料
 の増加従つて金肥の減少は目下の急務である。

要するに方今の急務は出来るだけ金肥を節約して自給肥料を増加するにある。第六章に於て生
 産費半減を主唱したが有畜農業の奨励だけでも金肥の半減乃至三分の一減の如きは眞に易々たる
 ものである。然も其結果は地力を増進するから生産費の節減だけでなく收穫を増加する利益も莫
 大である。日本の如き耕地の狭小なる國——ヨーロッパの小農國たる丁抹の十一分の一——で必
 然的に集約農業を餘儀なくさるゝ農業國としては、地力の消耗程怖るべきものはなく、今日の如
 き金肥萬能を將來長く繼續するならば其收穫高は非常に減少する時が來るに違ひないから由々し
 い國家問題である。

第二に農家の餘剩努力の利用上併せて収入の不斷的增加の上に有畜農業は極めて必要である。

米麥中心乃至養蠶中心の農業經營では忙しい時は大晦日と盆が一時に來たと同様、目の廻る程忙
 しいに反して農閑の時になると一日の仕事を十日に延ばして働く様な不經濟の結果になり、され
 ばと云つてこの餘剩努力は市場に賣却するには餘りに不規則的であり、且つ又努力を他に賣るこ
 とは普通農家としては獨立性を欲するから、極端に嫌ふもので結局閑つぶしとなり、結果は却つて
 小人閑居して不善をなすの誓へで、賭博、遊興等農村に忌むべき惡習をはびこらせる。かせぐに
 追付く貧乏なしで忙しいことが何より人間には必要であるから、適當の副業は今日の農村として
 は大旱に雲霓の類である。

牛豚鶏の飼養の如きはこの餘剩努力に最も適當で專業には危険が多いが、副業としては理想的
 である。例へば愛知縣、千葉縣、香川縣に盛んである養鶏にしても二十羽乃至五十羽位の飼育が最
 も適切で、これには老人子供の手で澤山である。牛豚にしても同様で、米麥養蠶の餘剩努力で出來
 るだけ飼育すればよい。牛乳や牛豚鶏肉や卵だけでもなく、更に進んで組合組織で加工事業を營
 めば利益は益々増加する。然も此等の収入は米麥、養蠶と異つて日々継続的で農家の經濟を潤ほ
 す力は大きいものである。先年自分が愛知縣在職の際農家として利益の多い精農家を十戸表彰し

たことがあるが、全國に有名なる板倉源太郎氏を始め何れも畜産を相當營まぬものはなく、即ち畜産を營まぬ農家は精農家たる資格なしと云ふに一致した。今日の農家經濟としての金科玉條は出来る丈支出を少くして収入の増加を計るにあるが、農業生産費の大部分は勞力と肥料の二つで此二つは共に畜産に依つて節約出来るのである。

第三に勞力の節約である

勞力の節約が生産費軽減の主要部分を占むることは言を俟たない。而して勞力の節約は農具の使用と共同作用と茲に述べんとする畜力の利用である。田畑の耕耘にトラクターを使用する代りに日本の現在としては牛耕、馬耕が適當で肥料、收穫物の運搬上は勿論、脱穀、糶摺其他に動力として畜力の利用は多々ある。

誤れる畜産奨励の方針 以上三點から見ても有畜農業が如何に我國の農業の開発に必要であるかは明瞭となつた。然るに今日迄多少部分的に有畜農業は行はれて居たが誠に微々たるもので、然も従來政府當局は勿論民間の畜産界でも畜産の奨励方針が根本的に誤つて居つたから、折角奨励に多額の費用を投じて其効果たるや見るべきものがなかつた。

従來政府其他畜産界の奨励方針は畜産と農業との關係に深い考慮を拂はないで、單に畜産を畜産として極めて狭い限界の下に奨励して居つた。即ち畜産の奨励方針として牛馬豚雞等の優良種を作るに汲々として、たとへば種畜場と云へば多額の費用を投じて優良種の生産にのみ没頭して居つた。成程優良種の生産はよい事には違ひないが、抑々優良種を生産するのは生産そのものが目的でなく、要するに農業に利用するには優良種の生産が必要であると云ふ目的でなく手段たることを明瞭に知らなかつた。牛馬豚雞の優良種を作るのは手段であつて農業と云ふ大目的のあることを明確に意識して居なかつた。従つて其奨励方針が幾分觀賞的で經濟的でなく、實際農業界の要求にピッタリと合はなかつた。例へば種畜場などでも單に種畜の生産のみでなく一方に飼養家畜に相當する農作物も栽培して農業の經營をし、肥料の利用畜力の應用等經濟的の試験をすれば茲に始めて種畜場の効果も表はれ農業の經濟試験も出来るのである。如何に畜産を奨励しても經濟上の利益が明かでないれば少數の道樂的の人は別として到底廣く普及するものでない。而して經濟上の利益を明かにする最上の方法は畜産を農業方面に利用即ち有畜農業の實際を示すにあることは前述した通りである。

此意味から云ふと政府及府縣の種畜場や農事試験場も大多數は落第で、畜産の眞意義を諒解した施設をして居ない。現に種畜場と云へば交通の最も不便な山間避地で農業の經營などは眼中に無く參觀者を求むる意思は殆んどない、僅に家畜用の^草草位を栽培する程度である。夫れ故種畜場長や畜産關係の技師に自然農業の頭が空である。

従つて牛豚や養鶏の品評會でも一二の府縣を除き在來我國で行はれてゐるものは乳牛や役牛や豚や鶏を數日一箇所に集めて、其形體色澤等の外形を調査して居る最も幼稚な原始的の品評會であつた。有畜農業の發達してゐる丁抹やドイツでは、世界に有名なコントロール組合があつて乳牛や乳牛検査官があつて、各農家に居る出品牛を一々巡回して乳の品質分量を調査し、更に飼料をも調べて善い品質の牛乳を最も多量に搾取出來、然も飼料を最も經濟的に使用する牛を一等賞とする。又肥育牛も同様で共同の衡器場があつて、五日乃至一週間毎に各農家の牛の體重を茲で衡り尙飼料の調査もして一年の終りに其成績を發表する。尙鶏は一年中同一場所に雄一羽雌三羽位を出品させて産卵の數と飼料とを調査し、品質のよい卵を最も多く産んで然も飼料の最も經濟的の鶏を一等賞とする。豚に就ても肥育牛と同様である。如斯經濟的能率試験をして其優良種を播殖して

各農家に分配するのである。日本の現在の多の品評會に比して霄壤の差があると云はねばならぬ。

有畜農業の實例—愛知縣種畜場 大正十三年自分は農村問題の視察に外遊する前、農業の最も進歩して居る愛知縣ですら、非常なる批難を浴びつゝ、有畜農業實行の爲めに、岡崎市外の交通最も便利なる所に種畜場を設け、陸軍省から當時酸性土壤のため殆んど放擲された七十町歩の土地を貰つて、先づ十町歩許り開墾して所謂有畜農業を斷行した。當時愛知縣會は農務課長たる自分をアメリカに歸化させたらなぞ云ふ嘲罵を以て迎へたが、二年目には次第に諒解し、今日では山崎延吉君の言葉を藉りて云へば、日本一の種畜場乃至試験場として、一年平均二萬五千人以上の參觀者が全國から殺到して居るし、農林省でも昨冬の議會では其効果を認めて全國に有畜農業を大々的に奨励するために、十八萬圓の補助費を計上し議會も通過したが、不幸にして濱口内閣の緊縮政策の結果削除された。自分は濱口内閣の緊縮政策、殊に農村關係のそれに就ては、國家の爲めに大なる異論を有するものであるが、此有畜農業奨励費十八萬圓を削除したことに依つて、町田農相が如何に我國農村及農業の現状に通じない素人であり、又濱口内閣の農村政策が矢張り巨費を投じて然も結局御祭り騒ぎに終るものであることを斷定しうる好個の試金石であらうと思

ふ。成る程十八萬圓は十八億の豫算にしては、眞に微々たるものであるが、カーライルの所謂路傍に聳ゆる亭々たる天を摩する大樹には行人は賛歎敬仰するが、落葉の蔭に埋もれて居る椎の實に眼をつける者は少い。然し何ぞ知らん、彼の亭々たる巨樹も落葉の蔭に埋もれて居る椎の實ならんとは。有畜農業の奨励は我國の農業及農村を救ふ一大警策であり、最も適確の振興策であるが、金額の少いために落葉の蔭の椎の實位にしか觀察出來ない盲目の農林大臣を有することは、蓋し日本の最大不幸の一と云はねばならぬ。十八萬圓の金は眞に微々たるものであるが、他日日本の農村及農業を動かす原動力たることを發見したならば、濱口首相及町田農相は始めて其眞價を暴露するであらう。氣の毒であり誠に悲しいことである。

岡崎市(現在市に編入せらる)美合町にある種畜場は、名古屋豊橋間を通ずる急行電車愛知電鐵の美合停留場の傍で、面積七十町歩、三河方面に特有な全部酸性土壤の未墾地であつたが、今日は參木場長及加藤主任技師の七年に亘る獻身的努力の賜で約二十九町歩を開墾し、種畜場の堆肥と養雞の産卵能率試験場の堆肥とを利用して、愛知縣有数の沃畑に仕上げてしまつた。桑園の如きは愛知縣は愚か日本一と稱せられてゐる。作物の内容は米麥、蔬菜、果樹、竹林、牧草で、蔬菜は

大根、かぼちや、茄子、きうり、西瓜、ねぎ、馬鈴薯、甘培、うど、ふき、トマト等あらゆるものを栽培し、促成栽培も盛んにやる。果樹は梅、桃、葡萄、梨等で以前には小笹の籬で、殆んど顧みられぬ所から有畜農業の御蔭で、他の熟畑より品種のよい作物が然も多量に収穫されてゐる。

尙其組織は農學校卒業生其他の農村の滿十六歳以上の青年を約十七八名講習生として收容し學課は雨天の際にやる。主として實業本位の教育をして勞力の不足の時には普通人夫の外、臨時講習生を募集して多い時は百名以上も集まつてくる。愛知縣で眞面目の講習生の最もよく集まり最もよく働くのは、此種畜場で、講習と云へば、多くは講演中心であるが茲は實習本位勤勞中心である。百聞は一見に如かず、百見は一行に如かず、遺棄されて全く顧みられなかつた荒蕪地が數年にして稀に見る熟地になつた事は、大學教授の百の講演よりも速に而して力強く、農民の心を捕へて居る。全國數萬の技術者や農學校の先生が口を酸くして説くよりも、先づ自己の手に豆をこしらへて實地に見せることが何より捷徑である。愛知縣の種畜場は何物よりも最も雄辯に技術者の努力と學問の効果を、農村及農民に向つて力強く示して居るではないか。吾等は既に既に講壇學派の抽象論に食傷してゐる。吾等の求むるものは具體案である。實行である。

自分の百の説明よりも有畜農業の効果を如實に知らうと思ふ諸君は岡崎市の種畜場に行き、先づ場内を一巡し、然る後温顔の偉丈夫參木場長と、汗と膏の結晶たる實行の人加藤技師の腹の底から湧き出づる實驗談を聴き給へ。虚偽の舞臺にダンスする國務大臣とか、所謂世間的名士に遇ふことは出来ないが、そこに始めて自己の天職にいそしむ眞の人間を發見するであらう。

誤れる反對論 茲でも楯の両面を見る必要がある。有畜農業の有力なる反對論は、歐米の如き肉食國ならいざ知らず、日本の如き米食國では斯くの如く畜産を奨励しても生産物の處分に困るではないか。現に今日でもバター、コンデンス・ミルクやリマベークン等の賣口に窮して居ると。

現状は確に論者の云ふ通りであり、一應は尤もの議論であるが、今日畜産の生産物の賣行きに困窮する理由は、畜産品そのものが日本人の嗜好に向かないと云ふのでは全然なく、其主因は實に生産物處分の組織が全く無茶のために、生産者は非常に安く賣つて生産費を割らんとして居るに拘はらず、消費者に減法高く賣られるのである。

議論より實例が早い。愛知縣で知多郡の農家搾取組合では牛乳を一合一錢五厘乃至二錢で大量賣拂ひをするのに、五里隔つて然も交通機關の完備してゐる名古屋市では、一合九錢乃至十錢で

然も其牛乳には若干の水が混ぜられてゐると云ふ話である。豚肉は愛知縣下の農家は百匁骨ぐるみの値段ではあるが、十錢乃至十三錢で賣却してゐるのに、名古屋では百匁八十錢以上である。骨や皮をぬいて五分止まりとしても、あまりに法外の高値ではないか。一合一錢五厘乃至二錢の牛乳を九錢乃至十錢で買ひ、百匁二十錢乃至廿六錢の豚肉を八十錢乃至一圓で買ひ、又買はねばならぬ國民は誠に不幸なる哉である。日本人は牛乳や牛豚肉が嫌ひなのではない。今日も會食、明日は披露と、帝國ホテルや東京會館で洋食に飽きてゐる上流社會の人間は格別、論より證據、西洋料理は田舎の大多數の人士に對しては時たまの御馳走ではないか。嫌ひ所か大好きなのである。ねぎや菜葉や馬鈴薯のみ食べてゐる人間に、牛肉や豚肉や鶏肉を一日一人前三十匁宛も交せて食べさせて見給へ。榮養カロリーはどうか知らぬが、直に鼓腹擊壤の愛すべき人間に變るではないか。よく田舎の勝手口に五匁の牛乳瓶などを見るが、日本人は牛乳を食物でなく藥品と間違へて、飲むのでなく嘗めて居る。一日に牛乳の二合や三合位農民でも飲む様にならなければ、丁抹の農民の如く活力と希望がないのが當然である。

牛乳を一合四錢に、牛、豚、鶏肉を百匁四十錢以下に賣る様になれば、畜産の需要は今日の何倍

になるのも瞬く暇である。要するに野菜を食べるのも魚を食べるのも財布の問題である。價格さへ安ければいくらでも賣れる。先づ先決問題として日本人に肉食が不適當なり嫌ひなりと斷言しうる營養學者が何處にある。西洋人も東洋人も同じく生物學上の人類である。牛や馬の様な草食動物ぢやない。今後畜産の大量生産をすれば一方前述する耕地の改良となり、生産費の軽減となつて、農民及消費者が利する外、畜産品も自然に價格が今日の二分の一、三分の一になるから大に普及するのは當然である。従つて問題は販賣組織の革新である。水路なくして灌漑は出來ないが今日の有様は水路なくレールなき有様である。最も有効と信ずる愚案は左の通りである。

販賣機關の革新 各府縣の畜産聯合會が其府縣の主要都市に畜産物の販賣機關を設けて、牛乳、生肉、鶏卵及加工品の販賣をする。政府並に府縣は從來の細々しい、云はゞ富士山の頂から鹽を振りまく様な補助を止めても、此販賣幹施事業に思ひきつて成功する迄徹底的に補助する。同時に警察當局はボテフリや、屠殺業者其他の從來の販賣業者の出刃庖丁等の脅威手段を徹底的に取締る。斯くして從來の販賣業者と徹底的に販賣の競争をして、正當價格まで彼等の價格を引下げさせる。即ち彼等の撲滅が決して目的でなく、彼等及消費者の覺醒が目的だから、寧ろ將來組合

機關の勉強の上にも兩者の對立は必要である。

先づ六大都市から始めるのは手取早い。三越、松坂屋、松屋等の一室を借りてやるのもよし、公設市場や適當の建物を利用してやる。然し此には眞劍な所謂志士の氣魄のある組合の中心人物が先決問題なると、當局者の有形無形の同情と、警察當局の奮發が絶對的要件である。ナポレオンの戦法と同様に、此一點に主力を集中すれば、畜産の奨勵、有畜農業の普及は、電氣のスキツチをひねると同様、大道成つて天下全しである。

此販賣機關には屠殺場及加工場が必要である。從來の缺陷は此屠殺が日本ではヨーロッパと異つて、非常に面倒の爲めに、中間商人に不本意乍らしてやらせるのであるから、此際屠殺法を改正して畜産組合の如き公共團體には簡易に許す様にせねばならぬ。

當局者さへ決心すれば案ずるより産むが安い。自分は香川縣で先頃辭職する間際に、高松市の牛乳の販賣を縣下十七の農家搾取組合を聯合させて、縣畜産組合聯合會と共同の下に、從來牛乳の販賣の大部分を占めてゐた畜産會社を買收して牛乳の廉賣を始めさせたが、自分の理想の具體化として成功の確信は勿論あつてやつたことで、日本では恐らく最初の試みであらう。

第十一章 農村教育の革新

第一節 迂遠なる教育の現情

冗の多い教育 日本の教育は上は大學より下は小學校に至る迄、制度と形式は整つてゐるが、其内容はと云ふと、佛作つて魂入れずの感がないでもない。明治維新の際外國の文物に大變遅れて居ると云ふので、一も二もなく外國の模倣で堅めた制度。當座は明治文明の促進に大變有効であつたが、維新以來六十年、何時迄も外國の眞似をしたそのまゝではソ、ロ、ク、蟲が湧いてくる。日本の國民性に合つた日本獨得の教育制度を作らねばならぬ。今少し内面的にウント突込んだ調査をする必要がある。早い話が現在の小學校でも六ヶ年の簡程を八ヶ年に延長したいと大騒ぎで居るが、元來義務教育の延長には吾等も大賛成であるけれども、現在の様な内容のものを、之まま八ヶ年に延長するのは大に考へもの。現在の六ヶ年制度の下にあれだけの教材を教へてゐるが今少し方法を研究し教員が眞劍になつたら、四ヶ年位で大丈夫教へられるし、第一現在の教材が

何故必要であるか、六ヶ年に何故教へねばならぬかと云ふ根本的問題に至つては、全國何萬かの小學教員もはつきりした解答は出來まいし、又出來ないのが當り前。一教室に六七十人も入れてが、やゝ騒いで居る教育は、ヨーロッパでは見られない。丁抹や獨逸でも一教室に精々三十人以下、丁抹では農村の小學校は隔日通學、都市は二部教授、併し教員は午前午后別人の組織、之で世界一程度が進んで居ると云ふから、毎日毎日時間許り長く學校に居ることが、必ずしも教育の能率を上げる所以でないことが諒解出來よう。大學にしても専門學校にしても同様、殊に一番多數の學生の居る法科の如き、何の爲めの教育かまつたく解らない有様。兎に角日本の教育は確に世界一冗と云つて差支あるまい。

學問と免狀は同一か 日本では學問——免狀の方程式がたつが、學問と免狀は果して同一だらうか。日本は又恐ろしい學問萬能の國で、所謂學問——眞の學問では斷じてない——をすれば急に豪くなるし、學問をせねばどんなに才能があつても、大底は椽の下したずみの下積にされる。學問と云ふものゝ價値は五本の指の中の一で、全部ではない。學問などを左程豪がる社會は形式の社會で學問よりも身體や經驗が、ズツト、値打のあることを知らせるのが日本の急務。今後の社會は勿論

學校でも學問の眞の値打と共に、第一左程値打のないことを國民に教ゆるのが肝要である。

所が更に滑稽のは學問と免狀とを同一に考へることで、従つて又免狀萬能、免狀があれば馬鹿でも戯たむけでも關門を通るから此免狀を得るために大騒ぎ、日本で試験の際徹夜して勉強するのも免狀中心の學問だからで、學問は免狀を貰ふまで必要、免狀を貰へば其翌日から忘れても構はぬと云ふから一時の積み込み勉強が流行する譯。

卒業式は學問に對する告別式か 従つて學校を卒業して免狀を貰へば、學問は忘れても構はないし、第一日本では普通、學校が學問の最後で學校を出てから日本人位讀書せぬ者は珍らしい。ヨーロッパやアメリカでは學校は學問の準備所で、在學中は身體を鍛錬し研究の方法を教はり、卒業后愈々實社會に入つて學問が必要になつた時研究する。これこそ眞の生きた學問である。日本の教育は此と正反對で、學校の卒業は學問の墳墓であり、卒業式は學問に對する告別式である。併し學問の必要なのは在學中であるか或は社會であるか、此位のこととは三尺の童子でも解らうが日本では此矛盾が平氣で行はれて居る。學校を卒業すればもう勉強は濟んだと思ふから従つて、日本人は大成しないで四五十ではや若朽になる人間が多いのである。

第二節 私立學校の價值

私立學校の獎勵が唯一の對症法 現今の教育を通じて最も著しい所謂致命的の病根は何所にあるかと云ふに、官公立萬能の教育たる點にある。我國維新前の教育は英、米、丁抹の今日の如く、官公立學校は僅で、其多くは私塾乃至寺小舎の所謂私立學校であつた。徳川三百年の鎖國政策のため、泰西の文明から非常に遅くれたので、之に追つくには舊制度を根本的に破壊して、新組織の下にやるに限ると云ふので、深く教育の眞義など研究するの追なく、獨逸流の國家教育に眞似て、私塾寺小舎教育の長所を顧みないで、玉石共に灼くの憾みがあつた。

勿論物の革新の際にはその位の勢ひでやるのは一面から見て必要であり、又確に明治教育の効果は偉大なものであつたが、藥でも長い間服用すると中毒を起すと同様、明治教育の必要も一定期間の事で、最早日露戰爭を轉機として、現在では利益よりも寧ろ弊害に苦しむと云ふのが公平の議論である。現今教育の弊害は何人も認むる如く形式劃一一點張り、成程制度や外面の形式から見れば日本は世界で恐らく最も整つた教育國の一であるが、其内容實質から云ふと文明國として日本の教育位貧弱のものは少からう。

教育は人格相互の感化である以上制度や設備の形式よりも何より教師の人格と素養が第一である。然るに現今我國の教師の大多數は教師を職業としてゐる人々で、志願的に自ら趣味生命としてやつて居る人は少い。現今の制度の下に於て教育を趣味生命としてやれと云ふのは抑々云ふ者の罪で、俸給のためにやつてゐるのが當り前で、寧ろ根本は制度の缺陷、公立學校萬能たるにある。

今日何人か現今の官吏たる教育者中から彼の廣瀬淡窓や吉田松陰や乃至ペスタロツチやグルンドピキヒの如き大教育家を求めうると云ふものがあらうか。教育は人格相互の感化で、其眞髓は所謂インスピレーションにある。官公立の教師に絶対にインスピレーションがないなどは勿論暴論であるが、少くとも官公立の教師と私立の教師と孰れが趣味の下にぞつこん命をぶちこんで教育するにやりよいかは説明するまでもない。

論より證據現在の官公立學校に教育に最も大切な校風があるかと云ふに、二年や三年で甚だしいのは一年位で、校長の更迭する學校に校風などの出來よう筈はないし、又文部大臣とか局長とか府縣では知事とか内務部長とか學務部長とか色々の監督があつて、各々顔の違ふ様に意見も異なるし、ソレに困つた事には後任者は得て前任者の施設を非難破壊し易いから、若し校長が眞面目

に自己の主義方針の下に教育をやつたら、第一代の監督者はよいが第二代第三代の監督者の代になると、きつと異論が出て却つて主義方針のある校長などやり悪く、結局意見の衝突から長い者や批評家には卷かれるで轉任の餘儀なきに至る。

解らぬ監督者を諒解させる位骨の折れる事はなく、骨が折れて効果が擧がらないから、現時教育の風潮は事勿れ主義でその日暮しで、御茶を獨す者の多いのは誠に困つた事であるが、止むを得ない事と思ふ。教育の如き精神的事業に従ふものが其日暮しときたら——他の官公吏の如き受け身ですむもの、或は民衆の自覺で進むものはよいが——其弊害や實に怖るべきもので、國家の將來は誠に危い。

師範教育の改善や、軍事教育の普及や社會教育、補習教育、成人教育の施設や、或は義務教育の年限延長や、各種の改善策を各方面から聞くけれども、未だ現代教育の病根に即した根本的革新策を聞かないのは至極遺憾で、如何に經費を投じ如何に制度の改正を行つても、其源が清まらないでは百年河清の類で、何時になつても駄目な教育をせねばならぬ。若し現在の儘で行つたならば恐らく日本の教育は經濟的に破産するときが來るに違ひない。

此經濟を救ひ更に最も大切である教育の眞價を擧ぐる上に一番得策であるのが、この私立學校の獎勵で、私立學校の獎勵をなし、或程度まで私立學校を増加しないでは、日本の教育は到底救ふ事が出来ない。我國教育革新の絶對要件は私立學校の設置獎勵にある。即ち我國の中等學校以上の四分の一乃至三分の一位を此際大英斷を以て私立學校に移管讓與し、教員級の三分の一乃至四分の一を學校の種類に應じて、なほ恩給退隱料は勿論、教育の如き國家的事業に對しては、公私の區別なく國庫又は府縣より補助する事とする。

教育の内容から云へば私立學校が教育の本質上最善である事は前に述べた。經濟の點から云へば、建築費にしても現在の國立は三割以上、府縣立は二割以上、市町村立は一割以上、普通民間の建築に比し請負金が高いのは公然の秘密で、現在の様に八釜しい會計規則で入札、證據金、請負保證金を出して期限が遅るば違約金をとられ、色々手數と暇を潰さねばならぬ様な官公廳の建築では割高になるのは已むを得ないにしても、役所の金だから高くとも個人や營利會社程苦情を云ふ人がない。

且又官公立學校の建築や設備は自然國家や府縣の費用だから、冗費が多く體裁や形式本位で、恐らく官公立學校の二分の一の費用があれば私立學校ならば同數の生徒を收容し、同等の効果を擧げてゆける。建築も國庫或は府縣から二分の一位の補助があれば、必要に應じて現今よりも速かに學校が増加しゆく。要するに經費の點からいへば、經常費は官公立學校の一分で、私立の三校を維持出来るし、臨時費は矢張り三分の一の費用を與ふれば、私立は一校作るに違ひないから大なる行政整理となる。

私立學校になれば校長其他教師の努力により特色も出來、研究も自由獨立で思ふ存分にやれ、自然各自の校風も樹立する。物事は或程度まで自由を認め思ふ存分にやらせる所に獨創の考へも湧き、暢び／＼發達するもので、殊に教育の如き精神的の仕事は尙更で、あちらこちらで意見をつけられては、本人に大切な意氣がなくなり結局換骨脱體のものになる。

小學校は義務教育だから官公立が大多數なのは已むを得ないとしても、亦私立學校の獎勵は大に必要で、國民教育の如き普遍的民衆的のものを公立の一定の鑄型の中に入れるなどは、誠に好ましくない事で、今少し自由に廣く色々の方法で行はせたい。現今の小學教育の六年の課程に教ゆべき教材の範圍等でも、何も深い根柢があつて定めたのではなく、即ち國民教育の本質から立論し

たものではない。唯現在の教育者は傳統的に盲信して、其根本などを考ふる人物はなく、又過去の立案者は獨逸などの型を真似たにすぎない。國定教科書が四五の人の力になり、日進月歩の世の中に五年でも十年でも同じものを平気で使つてゐる現状だから、萬事硬化するのは無理はない。

なほ丁抹では農村の小學校は隔日授業で、都市は大底二部教授である、隔日授業だから教室教師は半分で日本丈の用を辨ずる。尤も兒童數は一學級二十五名平均で教員住宅は校舎内にある。然も丁抹の民度は世界一の稱あるは定評で、國民教育の進歩は到底日本の比でない。毎日一教室に五十人以上も入れて同じ事を繰返し／＼教育するのが果して得策であるかどうか。

此等の事も私立學校とし自由にすれば、自然私立公立兩方の刺戟で研究がとうに出来るのである。茲に吾々は私立學校の獎勵を主唱すると云つても、官公立學校の絶滅を期するものでなく、兩者の並存競争を最も必要なりと言ふもので、斯くして始めて生氣潑瀾たる各自特色ある教育が行はれる。又經費も大いに節約出来ると思ふものである。今日は既に民間にも相當の人材が遊んでゐるし寧ろ事なきに苦しんでゐる有様であるから、教育の如きことをやらせたら一舉兩得である。此點から資格の如きは大に自由にすべきで、師範教育の價值、附屬師範あたりの短期の授業の練習

を重く見るのは大間違で、要するに教授法などは人の問題で自ら發見せらるべきものである。

要するに私立學校の獎勵は行詰まれる現今の教育を救ひ、更始一新の發達をなさしむる唯一の療法である。現今の官公立萬能の教育の如く從來のしきたりを盲目的に信奉しないで、教育の内容制度を根本的に研究し、立直しをやるにはどうしても私立學校でなくては出来ない。即ち現代教育の革新は私立學校の獎勵を前提とする。一切の改善は此をスタートとして進むべきである。私立學校の實際的効果については、歐米各國に澤山あるが、其最も著しい例として、且我國農村教育の上から至大の價值のあるのは、丁抹の國民高等學校で此に就ては次に説明しよう。百説は一の生きた實例に如かない。我國現今の補習教育等と丁抹の國民高等學校の効果を比較すれば縣立學校と私立學校とが教育上何れが優つて居るかは充分に知ることが出来る。

第三節 丁抹の國民高等學校

世界に有名な丁抹の國民高等學校の組織を説くと、八十何校かある學校は悉く私立學校であつて、國家は最近漸く教員俸給の約三分ノ一を補助し、而して臨時費たる建築費設備費等は有志の

寄附金に俟つて、經常費は主として生徒の授業料を以て之に充て、教師に資格なく、従つて教師は教育に興味を有する地方の有力者や教育の経験者であつて、校長及幹部は前國務大臣代議士等地方有力者が多い。元來丁抹では、代議士は其選舉區に生活しなければ、其當選が困難であるから彼等は多く郷黨にあつて、國民高等學校の教師なり、或は産業組合等の理事者たるを常として居る。此等の點は我國の官尊民卑の陋風と異つて丁抹の美風であり、且つ強味である。一國の健全なる發達は斯くの如くして出来るのである。

教師の資格 一定の學校卒業者でなければ教ゆることが出来ないと言ふ我國の制度は餘りに窮屈であつて、大いに考慮を要する。眞に自發的に教育をなさうとする熱だにあれば、教授法の如きはおのづか自から工夫せられるし、一言にして云ふと教師其人の精神熱力が根本である。近々一年間然も一年の全部でない附屬小學校教授の経験が、左様に人間の教育に有効だとは想像するを得ない。寧ろ我國師範教育の缺點は、志願者の素質にある。即ち師範入學者が憲法發布前の如く貧乏な士族の子弟が教育と云ふ美名の下に勇んで集つた尊い意氣を有する志願者が、段々其跡を絶つたのにある。明治教育の成功は制度に負ふ所が大であるけれ共、胸の中に火の様な熱烈なる意氣を

持つてゐた此等教育者の素質が偉大であつたゝめである。丁抹では國民高等學校の教師は社會に於ける生活の尊い経験者である。

學生の資格 國民高等學校の學生は小學校卒業後、數年の社會生活を経て、又最も懷疑心の盛な満十八才以上二十五才以下の年齢で、心の中に人生や社會に就て色々の疑問の生じた社會生活の経験者である。自分は丁抹國民高等學校を訪問し、アンデル・ヴェデル氏やロンデ氏に遇つて、彼等の熱烈で然かも信念のある抱負を聞いた時には、そゞろに我國の維新前の私塾を思つて、吉田松陰や廣瀬淡窓等の事業を想ひ起さざるを得なかつた。學生の年齢は國民高等學校の最も重要視する點で、小學校卒業後數年の社會生活により種々の疑問を懷き、内心から教育の必要を痛感したる満十八才乃至二十五才迄である。我國に頻りに奨励せられる小學校卒業後直に補習學校に強制的に入學せしむるのと全く類を異にする。

學期と學資 學期は一年二期に分れて、男子は十一月第一月曜日から三月末日迄、約五ヶ月、女子は五月第一月曜日より七月末日迄約三ヶ月、授業料は男子全期四百クロンで、一ヶ月八十クロン平均、月々により異なる。女子は二百クロンで一ヶ月平均七拾クロンである。(一クロン

ンは我國約四十五錢)此等の學資金は實に彼等の小學校卒業後數ヶ年間の勞働により、所謂汗膏により得られたもので、由來丁抹に於ては農家の子弟が小學校卒業後農業實習の爲め、多く他の農家に赴いて、數年勞働するを常とし、其間得たる貯蓄により國民高等學校に入學する。「丁抹の農村及其教訓」を以て有名な英國のライダー・ハガードが一期四百クラウン(百八十圓位)の自費を以て、農民の子弟の八割が國民高等學校に入學するとは英國國民の到底想像し得ない所であると。世界一の金持の英國ですら至難の話である。而して國民高等學校は全然通學區域がなく、學生は自己の敬慕する學校と教師を選んで笈を負ふて遊學する。好學の同志が全國から集まつて互に磨きあふ。純眞の青年が相語り、相交るから個人の修養に便するばかりでなく、國民的團結の上に益することは偉大である。學生は學校に宿泊するか、教師の宅に寄寓する。寄宿舍、校舍共に堅牢で趣味に富み、我國の寄宿舍乃至校舍の様な殺風景のものでない。三ヶ月乃至五ヶ月の學校生活は眞に家庭の様に、教師夫妻は其慈父母の様である。課目は歴史地理、丁抹語、文學、體操、唱歌、數學等で教科書は用ゐない。所謂、講義で質問應答をする。即ち生きた言葉である。試験もなく卒業期もなく、自分の必要によつて入學したのだから自分から疑問を解決したと思ふ時、即ち學生の卒業

したと信する時に卒業する。小學校教科の復習が主であつて、歴史は丁抹及世界歴史である。歴史及文學、體操は最も重んずる。小學校教科の復習と聞いて不思議に思ふ人もあらうが、此點は實驗上最も大切で、殆んど小學校の教育を忘れた時に更に改めて生きた復習を成すのである。我國でも高等小學校の二程度程度の教科書に精通するものがあれば、此は立派な紳士である。六ツケ敷い原理や知識の教育でない。精神から精神への教育である。勤勉で總明な農民を作るのが目的である。國家的生活乃至社會的生活に必要な人間の教育で決して農業教育ではない。一室に集まつて師弟が一所に古今の興亡や、偉人の不滅の事業を語つて、世界の文學特にビョルンソン其の他の北歐文學の氣粹を教へ、勉強の後では有名な瑞典式體操によつて、身體を練り共同訓練を體得する。各校に必ず我國の雨天體操場に似て更に堅牢で完備したる體操場を持つて居る。我國では體操は一の義務と云ふよりも、寧ろ學生に對し興味のない刑罰の感があるけれ共、瑞典丁抹にあつては國民の體操を好む事驚くばかりで、自分がストックホルムの體操學校を訪問した際の如き、恰度女子の授業中であつたが其の體操の立派で動作の敏捷活潑なのは、到底日本人の相像出来ない程である。尙朝早く食事前、或は夜市民が老少の區別なく、小學校や此等學校の體操場に來て喜んで體操を

なすさうである。我國の青少年の所謂寒稽古としての柔道や劍道をするのと同じ様な熱心には感心した。體操は彼等に執つてはスポーツである、斯くてこそ始めて體育の目的を達せられる。我國の様に強制的授業で學生に少しの趣味を體操にもたない狀況と雲泥の差である。スカンジナビヤに遊んで男女老幼を問はず、國民の體格が非常によく然も整然として、殊に女子老人の姿勢の立派であつて、所謂腰曲りや、前ごみみの人間の少ないのは感服した。斯様にして國民高等學校の鼻祖グランドビキヒの所謂神の心と磐の様な堅い確信とによつて、土地に生れて土地に死ぬ農民の生活に人間生活の價値と幸福とを教ゆるのである。一言にして云ふと人格修養の道場である。體操と唱歌とは必須科目で、ダンス、唱歌、音樂は彼等の最も喜ぶ所で全國から集まつた青年が一所に生活し、一所に踊り、一所に遊び、知らず／＼の間に共鳴するのである。彼等青年が敬慕する教師から、即ち尊い社會生活の經驗者から生きた歴史と人生とを學んで、夜は體操によつて身體を練ると共に心身の邪氣を拂ひとる。青年の心をそゝる様な愛國の詩歌や雄大な北歐の自然とおたかみ温味のある、粗撲な農民の生活を謡つてゐる、スカンジナビアの民謡を一齊に歌ふ時に、純潔な彼等の心の絲に觸れるものは抑々何であらう。

國民高等學校の鼻祖グランドビキヒ は平民主義であつて、又同時に熱烈な愛國者である。國家主義者である彼は豫言者とも云ふべき敬虔な牧師で、又信念のある政治家であり、スカンジナビヤ文學の崇拜者である。而して當時内外の形勢はどうかと云ふに、内には劃時代的の憲法制定のため憲政擁護の激しい争があり、外には新大陸から農業の壓迫に次いで獨逸からシレスビキヒを奮はれる、所謂内憂外患交々至ると云ふ騒ぎであつた。此間にあつて彼の様な人格者に依つて創立された國民高等學校の教育が、農業が職業として最も神聖のものであることを教へ、丁抹の農民に對して自由獨立の新しい精神と星の如く輝く希望の世界とを教へたのは當然である。

第四節 自給自足の農學校

現在の農學校の缺陷 新しい農學校の眼から見れば從來の舊式農學校は悉く落第である。上は農科大學から下は中等程度の農學校より農業補習學校に至るまで。こんな時代後れな、不經濟的な然も實際に役立たない舊式農學校は速かに廢校して、此新しい農學校に改造すれば、日本の農村及農家は何の位救はれるかしのれない。

舊式農學校の缺點を述べると際限がないが、一言にして云へば結論の方から行く方が早い。即ち現在の農學校の戦士が、學校を卒業した後、農村及農家の爲めに、趣味と熱愛を以て一生懸命働くかと云ふに、自家に歸つて喜んで農業をする者は十中の一、二で、大半は鋤や鍬や肥桶をかつぐよりも洋服を着た月給取が希望、國とか府縣とか、郡とか市町村とか或は農會とかの技術員から小學校の代用教員か専科訓導。此等の月給取も喜んで農村及農民の爲めになど云ふ大抱負の下になるかと云ふに、學校を出て見ると、家に歸つての肥桶かつぎは嫌だから、先づ月給取が一番手取早く、糊口をつなぐに樂だからと云ふ位の、まあ別にこれと云ふ考もなく、飛び込む者がその中の又大多數。何の事はない。三年なり六年なり、あたら大切な青年時代を高い學資を使つて、其結果實際の百姓が嫌になるために農學校を卒業すると云ふ具合。生活、生活、經濟、經濟、と叫んで居る現代のせちがらい世の中にこんな不生産的な没意義的な世の中の實際からかけ離れた農學校を、平氣で經營して居るのは世界廣しと雖も先づ日本位のもの。誠に慨はしい次第である。何故生徒の入學が中等程度の學校中一番少いだらうと校長や地方の有志が慨くのは、慨く方が抑々無理な話。

農村教育不振の原因 然らば其原因は如何。此病氣はもはや賣藥療法ではいかん。對症療法でなくてはならぬ。充分に之を診斷して須らく大英斷を以て外科的療法を施す必要がある。先づ第一此頃農學校に入る生徒から解剖臺にのせて見る。譬て見れば患者が醫師に罹るのは、何處か悪い所があつて、夫を癒して貰ふために通ふので、何處も悪い所ない無病息災の人間が、田舎でもあの醫者の家は建物ペンキ塗りで、窓掛けの具合から先生は勿論の事、白いエプロンを着たあの看護婦の姿が意氣であるなど云ふ考へで、高い藥價料を拂つて通ふ暇人はなく、みんな夫々止むに止まれぬ苦しみがあり、つまり目的があつて醫者にかゝるのである。

然るに現今農學校に通ふ生徒を見ると——勿論全部とは云はない——中には相當の秀才で心から希望して入るものもあるが、半は農業が好きで農學校に入つたのではなく、中等程度の學校を例にとつて見れば、一家の總領であり、他所に出られては困まるから、農學校に入るれば無難であるとか、中學校の競争試験に合格出来ない頭だとあきらめさせて農學校に送り込むか、又は家で遊ばせて居つても一つには世間體もあるし、悪い方でも走つては困まると云ふ様な災難除けのつもりで入れて見る。或は又近い所に格好の學校はない、農學校に入れて置けば百姓はやらな

くも、何か爲めになるだらうなど、云ふ色々の考で、農學校に入つて來ると云ふよりも、入れられる者が大部分、即ち本人本位よりも寧ろ親本位、家本位従つて此等の人々には教育に最も肝腎な生徒に燃ゆるが如き好學心や志望信念と云ふものがない。一つ一生懸命農業をやるために俺は農學校に入るのだと云ふ熱烈な希望がない。自ら求めよ、然らば與へられんである。キリストの如き大聖人でも自ら求めざるものは救ひ難しとあきらめられて居る。キリストならざる現今の農學校の先生達に到底此熱なき希望なき生徒を充分に教ゆることの出來ないのは火を睹るよりも明かである。

更に又此は農學校に入る生徒の罪であるかと云ふに斷じてさうでない。従つて現在農學校を卒業して技師や技手や色々の月給取りになつて居る諸君の罪でも勿論ない。然らば父兄の罪であるかと云へば固より子弟を入學させたに就て些少の責任がないでもないが、此等の大責任を負はせるには餘りにひどすぎる。要するに此等の責任の大部分は教育制度の罪であつて畢竟過去代々の文政當局者が盲目で、無能で、形式一天張りに唯容器さへ作れば人間が教育出來ると思つた大誤謬の結果である。又之を平氣で受け容れて居つた社會に責任のあることも勿論である。過去や傳

統を責めて居つても詮方がない。吾等の社會は將來にある。新らしい建設にある。

新らしい農學校の組織 は左の如くである

- 一、私立學校たること
- 二、教師は彼の丁抹國民高等學校の創設者たるグルンドピキツヒの如く、農業及農村の發達は一國興隆の土臺であると云ふ確固たる信念を懷き、農民を愛し、農村の心強い味方であると同時に農業の實際に卓越した手腕を有すること。教員資格の如きは敢て問ふ所でなく、免狀の所有者たることを要しない。

三、生徒は年齢滿十六歳以上三十歳以下、農業の實際につき三ヶ年以上の經驗を持つこと

四、年限は原則として二箇年、但し本人の希望により何年にても構はない。定員は五十人乃至七十人位

五、教育の内容は普通農業を主として家畜農業を従とすること

六、教育の方針は實習を主とし學理は従とし、教師の住宅は校内に設け、生徒は全部寄宿舎に收容し、教師生徒を合して一大家族として農業の經濟的經營をなすこと。従つて實習面積は此等家

族の勞力を基本とし少くも十町歩以上たること

三三二

七、經費、學校の建築費設備費は篤志家の寄附にまつこと。國家、府縣其他の公共團體の補助を妨げず、實習地は借地すること。而して經常費一切即ち教師の俸給生徒の食費、修繕費、消料品費等は實習利益により支辨すること。經常費の不足したる際は第一に教員の俸給を之に應じて削減すること。此等經常費を支辨して餘りある時は積立金となし、不時の費用に備ふこと。生徒より授業料は徴收しない。

八、無試験、無免狀、無資格、無冠の農民を作ること

九、先づ一郡一校位。但し學校の區域なく生徒の希望により全國より集まること

十、文部省府縣等の形式的教育家の干渉より出來得る限り獨立し、視學等の視察は見學又は補助費——若しあらば——の下調べ等のためになすこと

十一、教育は學校内に止まらず學校は農民及農村の中心機關たり、俱樂部たり大本山たること。新しい農學校の内容は先づこんなもの、以下少しく説明を加へよう。

私立學校たること 日本の教育の根本的病因が官公立教育萬能にあり、之を救ふ方法は了抹其

他の歐米先進國の如く、私立學校の獎勵のあることは前述した。従つて新しい農學校は勿論私立學校たることを理想とする。殊に此種の革新的學校を従來の傳統に囚はれた形式一點張りの役人や、位や官等で人間の價値を計る官立公學校に任せることは全然不同意。到底校長職員に任せて思ふ存分信する通りにやらせることは出來ないから、凡て革新的の仕事は萬事が其人のオリヂナリテイーから出た所に生命がある。決して妥協や取引の産物でない。廣々とした天まで伸びうる青天井の下に、神よりも自ら信じて疑はざる自己の理想を、極天極地の大勇猛心を以て打通す所に、モーゼがあり、ルーテルがあり、グルンドビキヒがあり、吉田松陰がある。

教師の資格 教師は役所の辭令でばん／＼と動かし得るやうな、傭兵ではいけない。亭々として天に聳ゆる松の如く、どつしりとした地盤を持つて居る、學校即ち教師、教師即ち學校と云ふ具合で、其教師が學校である位の人物。一校の主人たる校長は農民を愛し、農村の強い味方であり、平民主義者で同時に熱烈なる愛國者であり、豫言者の如き敬虔なる牧師であつて又スカンヂナビアの文學を好み、所謂熱心なるロマンチストであつたグルンドビキヒの如き人物が理想。同時に農業の實際に通じて、口先丈の先生でなく實際に掛けても生徒の信服しうる様な先生でありたい。

三三三

一言にして云へば實踐躬行主義、寧ろ身を以て衆を率ゆる人でありたい。唯俸給の爲めのみ働く人でなく、自己の使命とし、趣味として心身を打込んで仕事に生きる人間。此學校で子弟を教へることが我國農村改革の大なる手段で、一步一步宛遅くともしつかりと自己の理想を築くと云ふ抱負と意氣で進みたい。其代はり現今文部省や府縣の云ふ様な免狀や資格はなくつて結構。實力主義で眞劍にやる人ならば上等、エマーソンではないが、眼の見えない人間には、未開國には、免狀や資格など云ふ形式が一番大切だが、新しい學校では紙に等しい免狀や資格などは一向通用しない。自由な解放的な所に意義がある。

新しい學校では單に農業のみでなく、色々の公民教育、社會教育を施す所であるから、教師は勿論農業方面に限らない。特に相當の識見ある地方の人士が自發的に参加することは最も望ましい。代議士であらうが宗教家であらうが、軍人であらうが前大臣であらうが其何人たるを論じてない。

こゝにいふ教師を擧げてくると論者の中には果してそんな人が此世の中にあるかと云はれるかも知れないが、勿論大有りで世の中には斯様の人は相當あるが唯本人が目醒めないから、自己の持つて居る價値を自ら知らない丈である。早い話が現今の農學校や役人の中にも、かゝる人は勿論あ

るので、唯彼等が目醒めないで現在に執着し現在の情けない没理想な、自分の眞の價値を捨て、居る。つまりん仕事より外には自分は出來ないとあきらめて居るからで、若し一念發起して自己に徹底したら、内心に潜んで居る勇猛心と理想の炎とを以て新しい農學校の先生たりうる事は決して難事でない。唯努力と修養と忍耐とが必要で、その代り其所に安心の境地があり永住の天地がある。借問す。現在の技師技手並に教員諸君、諸君に果して自己の良心を偽らざる安心の境地と天地が何所にあるか。起て諸君今の中である。新しい農學校は、新しい農村の建設は、諸君の眼前に横はつて居る。其他社會各方面に如斯人々があることを保證する。

年限は原則として二箇年、然し本人の希望で何年でも構はない。卒業したか、しないかは入學の必要を感じて入つて來た本人が一番よく知つて居るのだから、一切本人に任せ、従つて試験もなく、卒業證書もなく、尙ほ落第などは考へられざることである。卒業證書のない代りに人間を作つて歸る。學問と知識と免狀とは全然別物であること、學問や知識は日本人の普通迷信して居る様に些程豪いものでないことを體得させるのも新しい農學校の任務の一つ。

生徒の入學年齢 生徒は滿十六歳以上、小學校卒業後農業の實際の經驗を積んで農業上は勿論、

あらゆる社會生活に就て内心から教育の必要を感じた時に入學させる。現在の農學校の様に農業に志望あるかないか、解らぬ中に夢我夢中で收容するのは大違ひ。十六歳以下の人は斷じて入れない。全く本人の自由意志による。今日の補習學校の様に無理に強制的に入學させる様な没教育の事は絶対にしない。強制教育は國民普通教育即ち小學教育を最後とする。近頃の文部省や政黨の云ふ補習教育を義務教育とするなどは人間と器械と取り違へた議論で、自由なる所に教育の價値もあり、人間の本質もある。笑ふべき役人のおせつかいで、義務教育にしたら青年が皆喜んで勉強するなど考へたら天下は至極泰平無事である。

希望せざる人間を學校に入れるから、希望して入つた者までそば杖を食ふ、所謂グレンシャムの法則通り、悪貨は良貨を驅逐するで、眞の教育はとて、出来ない。従つて學校教育の眞價を下げ、て益々不評判を招くばかり、希望する人丈け入れて此を眞に仕上げたら世間の信用も殖えるし、堅實に永久に教育が普及發達し、國家の希望する様な時代が来る早道である。丁抹の國民高等學校の或校長がグランドピキヒを訪ねて、色々生生の御言葉の様に自分の學校はやつて居るが、どうも思はしい成績が擧がらないで困ると相談したら、グランドピキヒは即座に君の學校は學校を

盛んにしたいばかりに、十八歳以下の生徒を入學させはしないか。若しそういふことをしたら、此學校は決してうまく行くものでない。年齢の制限が第一要件だと話したら、グランドピキヒの想像の如く、十八歳以下の子供を入れて置いたために成績が上らないので、其後は之を改めて大變よくなつたと云ふ話がある。三十歳の制限はあまり年齢の違ふ人間を入れるのは教育上よくないためである。

教育の内容 教育の内容は普通農業を主とし家畜農業を従とする。此點は行き詰つた現今の我國の農村及農業を改革して經濟的にも思想的にも成りたせるには、現在の單一的原始農業を革新して、出来る丈農業を工業化し、生産費の節減、勞力の調節利用、収入の増加等の見地から所謂工業的農業たらしむることが唯一の振興策であるから、此工業化のために、出来る限り家畜農業を奨励する。自給肥料により地力を養ひ、世界一多く費す金肥を節約する上にも——丁抹は一町歩十八圓位の金肥、日本は百二十圓以上——家畜農業は必要である。苟くも新しい農學校を建設する以上は將來日本の農業の進むべき理想を目標とせねばならぬから、家畜農業を従とし、種々の家畜の加工品の製作も教へる。

茲で一つ勸めたい事は、愛知縣などには不良土と稱して粘土質の土地が多く、折角開墾しても經濟上引合はないと云つて放擲して置く處が澤山にあるから、新しい農學校は此等の地方に打建て、厩肥を利用して此不良土を熟地とする、誠に一舉兩得の方法で、百町歩や二百町歩位各方面に遊んでゐる。此學校の普通農業の範圍は其土地により異なる。米作、畑作、養蠶等も加へて、要するに其地方の農家として合理的經營をするために、勞力自給肥料等を考へて四季を通じて最も經濟的經營をすることが肝要である。

教育の内容は勿論實習が主で、學問は雨天の際なり、日中の適當の時間や夜分などに教へる。教室に限つた事はない。農場などは最も結構である。從來の非實際的な農業教育の弊害に陥らない様に萬事實際を主とする。従つて教師は學校内に住宅を作り、生徒は寄宿舎に收容し、教師生徒一大家族として農業を經營する。耕地面積は大體一人五反歩位、家畜農業即ち牛、豚、養鶏を飼育するし、畜力、器械力は出来る丈應用する大農經營である。

しかして此學校は單に技術や經營方法を教ゆるばかりでなく、將來の我國農村に必要な人間を作るのだから、人間の教育を主眼とし、前に述べた校長教師の感化力により農業及農村に對し不

動の信念あり熱愛ある人間を養成する。

經費は自給自足 經費は建築費、設備費等の臨時費は篤志家の寄附金により、國家府縣等の公共團體の補助は拒みはしないが、元來自治的のものであるから、現今の地方有志の様に何でも補助と云ふ具合に官權頼りに仕事をするは禁物で、自治獨立が新しい農學校のモットーである。此等の團體が其價値を認めて補助するならば斷るのは餘り大人氣ないから受ける。經常費は實習地の收入で支辨する。此が新しい農學校の特色で經濟を無視した農業教育は何等の權威がないからである。

此等の事は丁抹の實驗によつて充分に立派にやつてゆける。最新の科學を應用し立派な便利な農具を使つて、然も頭のある先生の指導の下に強健なる生徒の體力を只で使つて、經濟がとれないなどは耻しい話。そんな農業教育で何うして實際効果がある。小作料も勿論拂ふし、教師の俸給、旅費生徒の寄宿料費其他一切の經常費を支拂つて、普通の年には必らず利益があるから、積立金として不時の災に備へる。若し經營當を得ないで失敗した時には、教員の俸給を第一に削減し、次いで生徒に應分の金を出させる等の事をして、經常費は絶対に他の補助を仰いではならぬ。

其代り豫期以上の利益があつた時には一定の積立金を除いて、教師に分配し又生徒にも賞與を出す。生徒の授業料は勿論ない。

新しい農學校は先づ一郡一校程度に作る、地方の状況に依つて次第に増加もする。學校は私立學校だから區域はなく、日本中から教師や學校の評判を聞いて集まつて来る、所謂笈を負うて窓の塾に遊ぶと云ふ具合である。此が生徒や學校の刺戟になつて、又全國から色々な人が集まると云ふ所に妙味がある。

教權の確立 文部省其他從來の様に督學官、視學官とか視學とか況んや知事などの干渉は絶対に排斥する。丁抹の様に補助費の下調べや、自己の修養研究のためならば、邪魔でない限り歡迎する。各自己の主義の下に心身を打込んでやつて居るのだから、其場限りの觀察位の批評は御免蒙る。主義の下にやる仕事に干渉は無用で、立場と抱負が相違して居る仕事に善惡のあらう筈がない。此點は特に日本では絶對要件である。先づ教師を自由にし、教權の確立が教育の出發點である。

農業の大本山 學校は唯に學校内の教育丈では満足しない、卒業生を通じて農村及農民の中心

機關であり、俱樂部であること。恰も丁抹オーデンスの小農農學校が小農のための社交俱樂部であり、大本山である様にしたい。確固不動の基礎を作つてあらゆる農民運動の中心であつてほしい。之が爲めにはどうしても彼等自身の汗と膏で作つた自己の學校たる事を要する。丁抹の農學校や國民高等學校等の如く彼等農民の力により農民のために作られた學校でなければ、眞の生きた切實の教育は出來ない。自己の膏血で作つた所に眞の生命がある。

新しい學校の内容は先づ前述の通り、設置の費用は充分調べた譯ではないが、其やり方で色々あらうから三萬乃至五萬でよからう。江湖の富豪諸君、日本の農村改革の根本たる此新しい農學校の設置に生きた金を投じられては如何か。百世に残る意義ある仕事は必ずや出來るに違ひない。

第五節 香川縣立榎井農事講習所

自給自足の農學校の實例として、自分が香川縣内務部長時代に設立した榎井農事講習所の組織を紹介しよう。講習所は琴平町の隣村で有名な琴平神社より僅に十町の距離で琴平急行電鐵榎井驛から二町である。

設立の目的は大體前述した新しい農學校の綱領通りで、土に親む農村の中堅青年の養成にあつて、農學校としなかつたのは、文部省令に依ると授業時間入學資格其他が窮屈で厄介だから、比較的組織の自由な講習所としたゞけで純然たる教育機關である。本講習所の臨時費は一切寄附金に仰ぎ、經常費は生産物の賣却代で、縣費からは文字通り一文の補助をも仰がない正直正銘の自給自足である。

設立の経緯 當初地元町村では乙種程度の農學校を希望して居つたが、從來ありふれた農學校では誠に無意義であるから、昭和三年十二月の通常縣會に追加豫算として提案し、臨時費四萬圓は一切地元寄附とし、經常費は生産物の賣上代により支辨し、唯初年度の運轉資金として三千圓縣より年利五分で借入れた。縣會は色々の議論もあつたが、内務部長たる自分の熱心を酌んで大多數で賛成されたが、自給自足の成果に就ては殆んど役人の仕事にそんな信頼は置けぬと云ふのが眞の腹であつた。尙地元九ヶ町村の町村長始め有志も内務部長の理想位で最初は相手にせなかつたが、殊に實習地七町五反の借入は、香川縣の如き小作農の多い所で耕地面積の狭い所では、到底不可能事として此計畫は結局實行不能に終ると見て居つた。然し一月三日以來約一ヶ月間の、

自分初め廳員の努力で、幸に實習地十二町五反歩を借入れ出來たので、漸く地方民も乗り氣になつた。其間自分は朝の十時から夜の十二時過まで小作農七十人許りを、約一週間連続して説得すること一週日に亘り、流石頑強の小作農も自分の誠意に動かされて、甘土料段當三百圓から二百五十圓のものを二割引で承諾してくれた。

建築は二月四日に入札して四月十二日に完成すると云ふ香川縣開闢以來のレコード破り、其方は地元の請負人十五名を内務部長室に召集し、工事を四班に分けて期限内に完成した者には表彰状の外銀盃三ツ組を授與すると云ふ懸賞法で請負はせ、然も工費は從來の三割引で請負はせたが、美事に期限には落成して四月二十日新校舎で開所式を舉行した。

建築物の種類 敷地は六反歩餘で地均しは土地の消防夫の寄附行爲五日間に竣功した。建物は

- 一、教室兼事務室（臨時寄宿舎）三十五坪
- 二、農舎兼養蠶室 一棟
- 三、牛舎 一棟 五頭分
- 四、豚舎 一棟 三十頭分

- 五、雞舎 三棟 二千羽分
- 六、孵化育雛室 一棟
- 七、貯藏室、收納舎、堆肥舎、肥料舎、煙草乾燥室、雞糞乾燥室、葡萄溫室、蔬菜溫室、消毒室、各一棟
- 八、寄宿舍二階建、食堂、炊事場、浴室百名收容分
- 九、各農場附屬農舎 三棟
- 十、職員住宅四戸分

臨時費は甘土料及建築費、總計七万圓を要したが全部地元寄附及篤志家の寄附によつた。

實習地 實習地は六箇所に分れ、講習所より最遠十五分間の距離で、作物の内容は水田三町七反、桑園一町五反、蔬菜園三町五反、果樹二町五反米國種葉煙草五反、乃至一町歩で年々多少の相違はある。水田は米麥作で米は平均三石以上收穫がある。蔬菜は溫室でトマト、メロン、葡萄、茄子、瓜其他の促成をやり、畑作では西瓜、茄子、瓜、南瓜、大根、白菜、ねぎ、里芋、うどん等養蠶は三期やる。其他副業はかます等の藁細工で場内は四國水力の寄附で、一通りの電化農場の設備はある。

組織 二箇年制度で定員は百名であるが實際は六七十名限度、講習生は十六歳以上の男子で、

初年度は體格検査人物考査の上三十二名を收容し、學歷別は専門學校卒業生二、名農學校卒業生十四名其他十六名、授業は午前五時起床、皇國體操三十分琴平神社驅け足參拜、食事後農場の實習午后六時迄、教室の授業は雨天の際及農閑時に若干やる丈で實習即ち教授である。夜間は擊劍、唱歌、談話會其他隨時名士の講話がある。即ち一種の道場で勤勞本位の人格鍛鍊を本旨とする。

職員は所長一名、蔬菜園藝一名、養鶏一名、養蠶一名外に畜産米麥に臨時講師が二名ある。會計書記一名常農夫四名で、所長は相原言三郎氏で友部國民高等學校の加藤寛治氏の推薦、蔬菜、養鶏、養蠶其他一騎當千の實地家で、所長始め職員の勤勞振りは流石精農家揃ひの香川縣の農民を驚嘆させて居り、講習所は云はゞ一大農家で職員講習生は大家族として苦樂を共にして働き、職員は所内に住宅があり、講習生は寄宿舍がある。食費舎費は一ヶ月拾圓内外である。

販賣の方法は 米麥は検査した上時價により大阪の香川縣販賣斡旋所なり地元商人に賣却し、蠶繭は競賣に附する。野菜は少量の中は講習生が琴平町附近に賣却するが、西瓜、かぼちや等大量になれば高松市の縣農會の二七市場或は大阪市場に出す。元來香川縣は米麥は日本一だが野菜は

消費の半分位移入する縣であるから、大體縣内で賣却出来るし、講習所の生産物は新鮮で品質の評判がよいから賣却は左程困難でない。琴平附近は從來西瓜、白瓜、南瓜は殆んど生産しなかつたのが、講習所で今年試作して然も見事の成績を挙げたから、農民は非常に感心してゐる。鶏卵は種卵として賣却するものは一個廿錢内外で需要があり、食卵は時價で地方又は大阪に移出する。なほ電氣孵化の設備があるから育雛して賣却する。牛は肥育して賣却し、豚は種豚又は食用として賣却する。鶏にせよ、豚にせよ、種類の善いものを購入したから、縣下の養鶏および養豚の改良を目的としてゐる。その他副業の藁製品たる、藎、かます、追々は野菜の加工、即ち大根漬、トマトソース、からし漬、果物の罐詰等もやり、琴平や屋島土産とする計畫である。生産物の販賣に就ては講習生も自ら車をひいて琴平町に賣りに行くし、町民も特に講習所生産のものを歓迎する有様。生産物の處分は農業經營上の重點であるから、講習生にも出来るだけ手傳はせ修行させる方針である。

收支豫算 昭和五年度の豫算は大體左の通り

収入

- 一、蔬菜 五、三〇一圓

- 二、養鶏収入 一四、四五〇圓
- 三、養蠶収入 一、二七〇圓
- 四、米 二、六五五圓
- 五、麥 一、三八六圓
- 六、牛豚収入 三、九三〇圓
- 七、藎 三五〇圓
- 八、叭 一五〇圓
- 九、其他 三七九圓
- 計 二九、八七一圓

支出

- 一、俸給 四、五六四圓
- 二、諸給 三、一〇五圓
- 三、所費 二二、一〇二圓

四、修繕費

一〇〇圓

三四八

計

二九、八七一圓

此外に農林省の補助が七八百圓ある。所費は小作料、肥料、飼料、驅除、藥品、桑葉買入費（桑園植付中桑葉の大部分買入）石灰、石油、電力費等で、桑園果樹園等が未完成のため、二年度は支出の割合に収入は少いので、本講習所の經濟は三ヶ年を経過すれば非常に樂になる。初年二年度は創業の際で、萬事未経験である上に設備を整へつゝ収入を擧げるのだから骨の折れるのは勿論である。

不朽の事業 世の中にはソロバンではないが一位の仕事と千位の仕事とある。本講習所の事業の如きは、實に千位の桁の仕事であつて我國農業教育の革命であり、農村振興の原動力である。所謂志士仁人身を挺して當るべき不朽の大事業と云つてよい。所長相原言三郎氏、養蠶主任野村菊三郎氏、蔬菜主任花田憲太郎氏、養鶏畜産主任兼子久雄氏始め講習生の奮闘努力は實に涙まぐしい程であるが、諸君は眞に千位の桁に居つて活動せらるゝ人々で、永遠に傳はる有意義の仕事せられつゝある者である。

小學校教育の改革 都市の小學校は全部二部教授とし、一教室兒童は三十名以下、教師は午前

午後別人とする。

農村の小學校は尋常三年迄都市と同様に二部教授、尋常四年以上は隔日授業とし、一教室三十人以下、兒童は隔日だが甲乙組交互とし學校は毎日ある。

此組織の詳細の説明は「將來の農村」中の教育の部に詳しく述べよう。

第十二章 地方から中央へ

地方長官公選の具體案

農村はもぬけの殻 日本の様に何でも都會都會と中央集權主義萬能にやる所は珍らしい。従つて農村は次第にもぬけの殻同様になつて、野に遺賢なき所か、猫も杓子も都會へ都會へと走るから、今は寧ろ田舎に遺賢ある様にするのが政治の要となつてきた。頭熱足寒とは此ことで、もはや健康體とは云へぬのである。然し仔細に觀察すると何も田舎に人材がないと云ふのではなく、寧ろ人材たる機會がないと云ふのが適當の批評で、田舎にも實の所いくらでも人材はあるのである。此點は丁抹や瑞典の様に代議士は必ず選舉區に生活するとすれば、政黨内閣となれば自然人物が田舎に出来る譯。日本も現在の様な空理空論に走り勝ちな政治で以つて天下を治めしめることは止めて、代議士は選舉區に住まはせる様にしたら、何の位政治が公明となり實際化せらるゝか知れない。

昭和維新の二大策 昭和維新の大目的は中央より地方への病的政治を改めて、地方より中央への政治たらしめるにある。斯くして始めて國家は健全に發達する。而して此地方より中央への政治を作る二大方法は、第一に普通選舉の斷行で、第二に地方長官の公選である。普通選舉の斷行は已に實行せらるゝことなつたから茲には地方長官の公選に就て述べよう。

地方長官公選の必要 地方長官の公選に就ては既に全國町村長會で決議もし、政黨方面でも政友會は已に政綱に掲げたり、早晚實行せられると思ふが、濱口首相始め民政黨は反對で、議會で、首相の答辯にも反對も反對、絶對反對と宣言して貴族院の頑固老爺の御機嫌を取つて居る。絶對反對が面白い。然し世の中に絶對と云ふ文字はさうやたらに使はれるものぢやなく、四五年の中に絶對的に賛成と云はぬ様に注意なさるがよからう。

現在地方長官公選の必要に就て世上に行はれて居る議論を見ると、多くは現在の府縣行政の不振不徹底から立論して居るものが多い。勿論政治は實際問題だから、此も有力なる原因には相違ないが、自分の地方長官公選を主唱する根據は、此等第二次第三次の理由にのみ依るのでなくして、今少し高所大局から即ち國家發達の根本的原理に其基礎を置くのである。

地方より中央へ 抑々古來より國家の興亡の跡を尋ねて見ると、國家の大改革とか大改造とか云ふ國家興隆の時代は、地方より中央へ勢力が伸びる時で、國力衰微の時代は中央より地方へと天降りの世の中である。此は歴史の明證する所で今更議論の餘地はない。鎌倉幕府江戸幕府の創立にせよ、近くは維新の改革にせよ、地方の勢力が中央を占領したためである、即ち中央が權力を専らにして萬事天降り式となつて、地方の健全なる空氣を國政の上に注入しないから自然と腐敗し、結局地方の勢力のために掃蕩せられたのである。要するに國家の健全なる發達は地方の剛健質實なる空氣が中央を動かす程度に比例すると云つてよい。頭熱足寒は個人のみでなく矢張り國家の深憂である。

維新改革後六十年、中央集權天降り政治の弊に苦む現代に於て最も緊要なる國政の分解作用は、實に此地方より中央への轉換で、此意味に於て普通選舉の斷行と地方長官の公選は焦眉の急務である。普通選舉の實施は國民參政權の擴充徹底として勿論肝要であるが、地方長官の公選は地方自治政の確立徹底と同時に國民參政權の上から見て、決して普通選舉の實施に譲るべきものでない。國民參政權の擴充徹底を期するならば、普通選舉の實施だけでは頗る不充分で、國民の實際政治

の上に一番影響の多い地方の自治政が、地方民自身の手に移らない現状の様な變態的自治では——頭部が官治で足部が自治、然も人間と同様中樞神經は頭部にあるのだから名ばかりの自治である——矢張り實のない參政權に過ぎない。

普選の實施と地方長官の公選は所謂地方より中央への國政大改革の上に現代立憲法治國に於て許されたる最も緊喫の手段である。封建武門の時代ならば現在の支那の様に地方武門の武力による中央政府の掃蕩顛覆であるが、現代は法治による立憲的手段によらねばならぬ。現在の我國の政界を見ると僅かばかりの中央の所謂政治家のみに依つて國政を左右され、然も此等の所謂政治家は中央に蟠居して地方の實情には明かでない或は政黨の幹部となり、或は官僚の府となつて樞密院貴族院等に根城を据ゑて、従つて國家興隆の健全分子たる地方との接觸は充分でない。六十年前彼等の先輩たる西郷大久保木戸等が悲憤慷慨の極、徳川幕府を攻撃した文句其儘が、今日皮肉にも恰度彼等中央の政治家に加へらるべき非難の言葉である。我國現在の政界は將に中央集權の天降り政治を改造して、地方の健全なる分子に依つて變へらるべき秋である、即ち昭和維新の實現は普選の實行と、地方長官の公選による地方中央の轉換であらねばならぬ。唯現在の中央の

政治家や官僚が悲むにせよ或は喜ぶにせよ、此等は當然來るべき國政自然の分解作用である。

普選の實施に依つて地方の健全なる庶民階級から代表者を送り、地方長官公選に依つて市町村長より知事、知事より國務大臣になるに至らば、地方より中央への標語は始めて徹底的に實現せられ、國政の運用は自然となり、地方多數國民の實際に適する政治は行はれ、茲に始めて根底ある國家の健全なる發達は期し得らるゝのである。地方の確固たる根底なくして國家の鞏固なる發達は到底出來ぬ。凡そ物の發達は制度にせよ、事業にせよ、其最も健全なる發達は自治的であらねばならぬ。必要に基づく、生死の必要に迫られて生れたるものでなくては鞏固なる基礎も出來ないし、必要なる訓練も出來なければ永續もしない。中央より地方への現今の政治では萬事摸倣で劃一形式の一天張り、役人には萬事都合がよいかも知れないが、被治者たる國民は痛切に必要を感じもしない仕事を強制せられ、僅に富士山の頂上から鹽を振りまく様な補助金か、まやか、し、で釣られるだけ、直に止めになるのは當然で、法令成つて然も内容具はらずとは此事である。

人材登龍の機關を興へよ 地方長官公選によつて地方より中央への政治が實現せられると同時に、此に依つて得らるゝ國家の利益は地方に鬱滞して伸ぶることの出來なかつた多數の人材が、

地方長官公選の新機運に依つて茲に登龍の機會を興へられ、有力にして衆望ある町村長等はやがて地方長官に公選せられ而して此等全國の地方長官中よりアメリカ合衆國の現在の如く、總理大臣其他の國務大臣が選任せられ、町村長其他の地方に於ける公職が自然重きをなすに至つて町村自治も面目を一新する。又デンマークの現情の如く國務大臣などは何人でもなれる様になり、出でゝは國務大臣たり、歸つては町村長たり國民高等學校長たり、産業組合の理事たりと云ふ具合になる。現にデンマークの現首相スタングは屋根葺職工上りであり、農務大臣は小農階級で文部大臣は婦人である。アスコブ國民高等學校長のアペル氏は前文相である。デンマークの様に國民の民度が高くなつて所謂上下の差が少くなれば大臣などは何人でも務まるし、農民が同じく鋤を動かすにしても天下を治むるの心を以て動かすのと、日本の様に虐げられた卑屈の心を以て田畑に働くのでは、同じ鋤を動かすにしても其力たるや天地の差を生ずる。

鋤で天下は取れぬか 現代の政治を理解する小作人に云はしむれば、關ヶ原の一戦に槍一本で徳川三百年の間手を懐にして一國の大名となれたならば、鋤一本で未開墾地に十數年働いて何故に熟地となした耕地の所有權を得られないかと抗議すると同時に、更に進んで鋤一本で何故に天

下が取れないかと云ふべきである。現在地方には數多の人物なり、人物の卵がある。唯機會を得ないのみで、今日中央の政黨の幹部や官僚の頭目位の人材が地方にないと斷言する者があつたならば事此より滑稽はない。鬱滞せる地方の人材に登龍の機會を與へしむるのは國政の要諦であると共に國家發達の緊喫事である。

地方長官公選の必要なる第二の理由は

地方自治權の確立發達 である。現在の府縣自治制の如きは名は頗る立派であるが、其内容は全然官治と云つてよい。成程府縣に府縣會があつて豫算其他の審議決定をするが、前述せる如く自治體の首長たる知事は官選であり、内務大臣の意の儘に轉免せしめらるゝ浮草稼業である。而して内務大臣は一黨の領袖たり總選舉の際の參謀長たりとするならば、彼等地方長官に果して府縣自治のために一身を犠牲に供して此等中央官治の方針に反對するを得るであらふか。如斯質問は質問そのものが既に大野暮である程世間公知の事實である。而して府縣會には豫算に關する發案權なく、知事不信任の議決權なく、如何に無能不公平の知事であつても自治とは名ばかりで甘んじて戴いて居らねばならぬ。然し一方知事並に内務大臣には非立憲極まる原案執行權並に取消權

があり、彼等の亂暴なる、緊要止むを得ざる程度を越ゆるは勿論、寧ろ近頃は、府縣會などの議決權は一切構まはず、知事或は内務大臣の意志希望に反するてふ不合理なる理由によつて、どしどし、府縣政の最大不祥事たる原案執行を濫用して居る。既に發案權が官選の知事にあり、原案執行權並取消權が知事並に内務大臣にありとすれば、府縣自治と云ふが如きは畢竟名のみであつて、寧ろ七分三分の官治兼自治である。

羊頭を掲げて狗肉を賣る とは誠にこの事である。一年僅に三十日の府縣會であり、毎月開會さるゝ參事會の如きも、現情では手習草紙の半分頃に退校するも同様、寧ろ滑稽の感がないでもない。萬事官僚知事の好都合に出來て居るばかり、従つて府縣會は體の善い諮問機關に過ぎない現情である。若し單に諮問機關にすぎない實情とすれば、朝鮮臺灣の殖民地にも夫々諮問機關があるから、此も自治體と云へよう。府縣會議員が議場で大きな聲で怒鳴つて大向ふ否選舉民の御機嫌を取つて居るが、事情を知らないし、又知らせない様に出來て居るから、多くは流彈で命中率は實に少いものである。

國家の基礎たる地方自治體の發達を眞に圖らうとするならば、地方長官を公選せねば到底其目

的を遂げることは不可能である。地方自治の充分なる發達を期するには千百の講習會や自治思想の普及よりも地方長官の公選が一番捷徑である。地方長官が現在の様に官選であつては地方自治の發展は百年河清を俟つの類で、何時まで経つても生半可な中ぶらりんのものである。其本定まらずんば其末危しで、地方長官を公選にして始めて眞の自治制の第一歩が踏み出されるのである。假に百歩を譲つて或は論者の云ふが如く、地方長官を公選としても他の半面に幾多の弊害があつて當分の中は、所期の目的を達することが出来ないことがあるかも知れないが、地方長官公選と云ふことに依つて先づ何よりも自治制に大切な『地方民の力による、地方民のためにする政治』が確立せられ、地方民の心理に與ふる自治獨立の新精神の價値は實に偉大である。同じ仕事をするにも自分の力によつてするのと、他人の力によつてするのとは、其内容は同じであつても其與ふる効果は雲泥の差である。故に譬へば地方長官公選の結果、論者の云ふ如く其成績が同一であつても其府縣民に與ふる心理的満足と獨立的精神の鼓舞とは非常の相違があり、尙ほ將來自治制の發達すべき芽は斯くして期待出来るけれども、地方長官官選の儘では何時になつても將來の期待は出来ない。ローマは一日にして成らない。地方自治の發達も先づ其基礎より當然の第一石を

置き、確乎たる根底の上に出發せねばならぬ。地方長官の公選に依つて先づ自治制の第一歩を踏み出し、地方民の力による地方民の政治でふ確固たる信念と満足の下に、彼の因循姑息^{つひ}へたる天井の下にひねくれた生活をするのでなくして、極天極地青天井の下に伸び／＼した所謂氣宇濶大の新精神を以て生きて行く方が遙に自治の精神に適するか知れない。

而して地方自治政の發達は國政の基本であり殊に立憲政治の絶對要件である。地方自治政のあやふやな國に立憲政治の發達する筈がないと同時に、地方自治政を設けたる理由の一半は國家の古來やゝもすれば陥り易き中央集權の弊を防ぎ、地方分權の實を擧げんがためである。地方の利害に直面する人々をして地方を治めしむることが、政治の第一要諦であることは言を俟たない。

府縣自治政の安定を圖るため 第三には府縣自治體に獨立性を與へ、府縣行政をして安定^{ステイブル}ならしむるために地方長官を公選にすべきである。現在府縣は自治體として法上獨立の人格であるに拘はらず地方長官が官選なるために、中央政府の干渉を受け易く、爲めに府縣に適切なる特色ある發達をなすことが出来ない。即ち全國劃一に流れ易く、従つて形式に墮する政治が多い。例へば昨年以來の行政財政緊肅の内務大藏兩大臣の訓令の如き、愛知縣や兵庫縣の如き發達の餘地綽

々たる青年縣でも、青森、山梨の如き貧乏縣でも、中央政府の訓令の結果同一に律して所謂玉石共に灼くの弊が頗る多い。此は單に其一例にすぎないが、他に此に類する事實は澤山にある。而して知事が官選であるから、唯自己一身の安全のために中央政府の意を迎ふるに汲々として寧ろ中央政府の希望以上に迎合するから、府縣は到底府縣民の爲めに適切なる政治をなすことが出来ない。此點につき現在地方長官の意氣地のないことは實に夥しいものである。府縣は云はゞ彼等一身の犠牲となるにすぎない。従つて自治々制定の第一の目的である自治體の獨立性は有名無實になつて居る。

地方長官會議は迎合追從會議 自治體の獨立性が地方自治體自身に執つて非常に必要であるのみならず、國家の全體の發達から見ても中央集權が國家發達の基礎を弱むると同様に、中央政府の施設の上にも決して好ましいことでない。現在の地方長官の如き官選知事では唯政府の命に易々諾々と迎合し、當然地方長官として正すべき、又中央政府としても國政の複雑なるために錯誤の結果正してもらいたいことですらも御無理御尤もに承服する結果、片輪びつこの政治になる。例へば毎年行はるゝ地方長官會議の如きも、各地方長官が所信の下に堂々意見を開陳して政府の

蒙を啓くならば始めて會議の要も價値もあるが、現在の如く政府迎合の會議であるならば、畢竟政府の施設を誤まり國民を毒する結果を來すのみである。若し公選後の地方長官會議であるならば府縣、自治體の首長として其地位も重く又獨立自由の位置であるから、時の政府と反對の政黨所屬の知事も少くなからうから、政府も眞劍の態度を以て臨むだらうし、地方長官も是々非々の意見を信ずる所に従つて開陳するに違ひない。地方長官中少くとも三分ノ一位反對意見を述ぶる者があつてこそ始めて公正適切な施設も出来る。世の中が現在の地方長官の大多數の如く、意氣地なしで一から十までの賛成者たり御用黨であるならば、此程危険のことはない。如何なる惡事をし出かすか知れない。反對者は如何なる場合にも必要で、立憲政治の價値も反對黨に負ふ所が多い。而して地方長官公選後の長官會議は勿論自發的に會合し、總理大臣以下を參與員とし、府縣知事の中の一人が議長となつて議事の進行を圖り、一方衆議院に對立して眞に意氣ある民衆政治の代表者であらねばならぬ。此場合國務大臣の如きにおぢ、する舊來の陋習は徹頭徹尾打破せねばならぬ。

地方行政の内幕 更に現在の如き知事が一年か二年で交代し地方政黨員の御機嫌取りに汲々た

る如き状況では、而して地方政黨の領袖の言動がよく中央政府を動かさしめる有様では、地方長官に確固不動の信念の下に眞に府縣民の幸福のために政治をせよと云ふのは求むる者の罪で所謂出來ない相談にすぎない。従つて多くの知事は日和見ひよりみの後性大事ごせうだいじで府縣民の幸福よりも先づ一身の安危が大切、走馬燈の上に鎮座ましましてしつかりした政治をせよと云ふのと同じである。安定せる政治の出來ないのは知事其人の罪も勿論あるが抑々制度の罪が大半と云つてよい。世間の新聞や識者がよく地方長官は嚴正公平たれと云ふ其理想には共鳴するが、如斯注文は畢竟出來ない相談で、直接監督の衝にあたる内務大臣は一黨の參謀長格であり、總理大臣以下の閣僚は視察と稱して常に黨勢擴張に日も足らざる現情に於て、部下として最も忠實なるべきを要求せらるゝ。現行官吏服務規律の下に於て、地方長官たる官吏が如何なる暗示を受くるかは問はずして明かである。彼等も人間である。否な過去の長い卑屈なる官吏生活により感受性の最も敏感なる役人である。總選舉の際に嚴正公平を訓示せる當の内務大臣に嚴正公平を求むると同様、彼等に嚴正公平などを求むるは娼婦に節操を説くの類で滑稽至極と云ふべきである。地方行政が一黨一派に偏し不公平の事が多いのは、要するに人の罪と云ふよりも制度の罪が主因である。

地方府縣の政治を安定ならしめ、眞に府縣民のためにする政治を求むるには地方長官の公選は其絶對要件で、府縣民の多數に依つて推され、確固不動の地位と此事實に基く信念とにより、四ヶ年間地位の安定なる知事に依つて、始めて安定なる府縣自治は期待し得らるゝのである。

公選反對論 人或は現今地方政黨の黨弊を見て公選後の地方行政は更に其深刻の度を加ふべしと云ふものがあるかも知れないが、此は未だ事實の眞想に徹せざる議論で、成程現在地方政治に黨弊の烈しいことは自分も認むるが、事の實際に於ては今日は反對黨の監視が頗る嚴重で且つ巧妙であるために、所謂有色知事や札付知事は却つて偏破の處置がし悪く、公平の事をするにも戦々競々の有様である。此に反して所謂公平知事は兩黨の意を迎へて監視が比輕的緩いから、隨分府縣民の眼をごまかして、大きい不公平の處置をするのが現在の眞想である。従つて今日地方の女人筋では、もはや色彩鮮明なる知事よりも不鮮明の知事を歓迎し、前者は恰もモチの中に手を入れたやうなものでどうすることも出來ないで、却つて公正正當の事件すらも行き悪いのである。公平を装ふ知事を好きに勝手にひき廻はす方がどれ程樂で効果が多いか知れない。

此と同様公選後の知事に對する反對黨の監視は充分嚴重であり、又府縣民の監視も嚴重だから、

決して一黨一派に偏する様な政治は出来るものでないし、心ある知事ならば又政黨ならば再選と地盤が大切だから、こんな無茶な事をして公平なる最も数の多い第三者たる府縣民の怨みを買ふの愚をなさない。永年經驗ある女人の眼から見れば黨勢擴張の一番賢い方法は公平なる政治、民衆の眞の幸福を願ふ政治をなすことである。よく地方で地方民を釣るために利權政治をやるが、此は例へばステーション前の旅館と同様入る迄は手を叩くが、利權を取つてしまへば利に依つて釣つた事は百も承知であるから、さう遠慮の必要もなく又直に去就を定むるのが例、若し利權で長く自黨に盡す者ありとすれば、之は眞に地方の親切からやつた仕事で、利權でも何でもなく當然の政治である。蛇の道は蛇でこんな腹位ちやんと知つて居る。多數の人間の動くのはやはり據る所がなければならぬ。地方長官が公選になれば却つて地方行政は現在より黨弊から救はれて行はれ、論者の心配は畢竟杞憂にすぎ、曖昧な現在のノ、ラ、ク、ラ知事の方がどの位黨弊浸潤の原因を
するか知れない。

電車に反対する俵夫の類 最後に或は現在奉職しつゝある多數の少壯官吏の前途に就て云々する者があるかも知れないが、此は電車の開通を恐れて人力車夫の反対すると同じく、有爲有能の官

吏は地方長官公選となつても均しく其所を得られるし、トコロテン式に地方長官にならなくとも堂々と實力に依つて公選されたならよろしい。現在の地位に嚙りついて、進み行く將來の新しい氣運に反対する如きは少壯官吏の爲めに執らざる所である。

地方長官公選の具體案 地方長官公選の方法には直接法と間接法とある。直接法は當該府縣の選舉權者から直接に知事を選挙すること、理想としては此案が民意の代表と云ふ點から見て最も合理的である。間接選舉法は當該府縣民より、先づ第一に知事を公選すべき代表者を選び、其代表者が更に知事を公選する方法で、理論としては代表者の知事の選舉が必ずしも當該府縣民の意思をその儘に代表すると云へないから、直接法の如く合理的とは云へない。

然し乍ら政治の實際としては理論のみに走る譯に行かない點がある。直接選舉法は理論としては最上だが府縣には此外に公選による府縣會があつて、政治の運用上公選せられたる知事は、出來得る限り此府縣の多數黨と同一黨派でありたい。勿論兩者が同一黨派なることが必ずしも府縣政運用上の絶對要件ではなく、時に兩者の一致せざることが或は却つて府縣政の革新上に善いことがないでもないが、此は例外であつて原則としては兩者相一致することを要する。恰も内閣が

下院の多數黨の首領に依つて組織せらるる如く、小數黨の組織する内閣が例外として憲政上認めらるゝこともあるが、原則は矢張多數黨が組織せねばならぬと同様である。

従つて間接選舉方法としては市町村長の選舉による方法もあらうし、或は特別に代表者を選ぶ方法もあるが、前述の理由により自分は府縣會議員の選舉によるのが一番適切であると信ずる。即ち府縣會議員は府縣民の代表者であり、此代表者に依つて知事を公選する。故に府縣民は府縣會議員の選舉の際に豫め知事公選をも腦裡に入れて選舉することとなる。或は此場合各黨派は豫め自己の黨派の知事候補者を決定公表した上で、府縣會議員の選舉を行つたら善いと云ふ説もあるが、此は當選した議員が必ずしも其豫定候補者に投票せぬ場合も豫想出来るし、第一議員の自由意志を拘束して政治の運用上面白からぬ事態を醸^かす憂があるから知事候補者は豫定せぬ方がよい。

選舉資格被選舉資格 次に選舉資格であるが、男女共に滿二十歳以上で尙ほ府縣に六ヶ月以上定住する者には何人にも選舉權を與へる。缺格者は成る可く範圍を少くして所謂公權剝奪者は之を除く。此點は缺格者は最少限度に止むる意味に於て研究したい。被選舉權は當該府縣に六ヶ月以上定住する滿三十歳以上の男女とし、勿論公權剝奪者は資格がない。當該府縣に定住を要件と

したのは地方民のために、地方民によるの政治を實現せんが爲めで輸入候補者は絶対に排斥する。丁抹やスエーデンは此主義を採用して、地方に人物を多からしむることに成功して居るが、自治體の首長を輸入たらしむる如きは自治制の本義に反する最も大なるものである。更に官吏や上下兩院議員に此資格を與ふべきや否やと云ふに、前述の條件だにあれば勿論よろしい。併し官吏は當選受諾と共に官吏の辭任を要件とする。

任期は四ヶ年とする。辭任を妨げないが、府縣會の任期と一致せしむるために後任者の任期は前任者の任者の殘留任期とする。

解散、原案執行權の要否 此場合府縣會の解散、及原案執行權並取消權の有無に就て考究の要がある。自分は府縣會の解散は原則として反對説で唯國法を破壊する如き萬一の場合を豫想し嚴密なる規定を設け、總理大臣若くは總理大臣の指揮を受けて知事に解散の權能を與へる。然し此は所謂傳家の寶刀であることは忘れてはならぬ。原案執行權は法令に基く費用に就ては認めるが、其他に就ては認めない。現行の所謂取消權に就ても權限超越や違法の議決のみに限り、公益侵害に就ては認めない。而して此原案執行並取消處分に就ては行政訴訟を許さねばならぬ。要するに

府縣を一の自治體と認め府縣に自主獨立の權限を與ふる根本精神を成るべく廣く認めんとするか
らである。論者或は斯くては府縣の發達上阻碍を來し又は國家の發達にも支障を及ぼし、統一的
發動を期する上に不利益と云はれるかも知れないが、自分も其說には大に共鳴するが、從來の實
際政治の經驗から自治權の擴充確立を主唱する意味に於て、又自治にせよ國家の政治にせよ、決
して最高最善を理想としても實現し得らるものでなく、自治體若は國家の大局の上から次善三善
と知りつゝ多數意思による政治を行ふのが所謂自治政乃至立憲政治の實際である。若し理想を云
ふならば、立憲政治や自治政よりも寧ろ茲に立派なる偉大なる政治家が出現して專制政治を布い
た方が國民乃至府縣民の利益であるかも知れないが、かゝる人は百年に一人、千年に一人で長い
各國の歴史の結果少數政治には懲り／＼したから、現在の立憲自治の制度に變はつたのである。
即ち立憲自治制は多數政治、平凡政治、凡庸政治であるのは止むを得ない。唯實際の狀況と大局の
利害から判斷して些少の不便利を凌いでも前述の説をとるのである。

警察權の歸屬 其他の府縣吏員は如何にするかと云ふに、現今の内務部長警察部長級丈は府縣
會の同意を得ることゝし、其他の吏員の任免は知事の權限とする。此場合警察權の問題があるが、
司法警察權は司法省に移して裁判所の管轄として府縣知事から獨立せしめ、府縣の警察權は所謂
行政警察丈とし交通衛生等に重きを置き、例の高等警察は全廢する。選舉の取締の如きは司法警
察に移し、選舉に關しては府縣の警察は全然無關係とする。従つて彼の機密費の如きは全く不用
である。

府縣の財源の獨立 最後に地方長官公選自治權擴充確立の前提要件として府縣經濟の獨立を計
るために、地租並營業稅を地方に移讓する。現在の如き腰溜主義で租稅の原理も何も一向構はぬ
戸數割や地租其他の附加稅や、寄せ集め主義の雜種稅の如き微弱なる財源では到底府縣が自治體
として充分なる活動は出來ぬ。此意味から府縣に獨立したる財源を附與するために、地租營業稅
の地方移讓は必要である。地方長官の公選と共に地方に獨立したる財源を與ふることが必須要件
である。

第十三章 將來の農村

我國農村の改革案に就ては以上異ほ盡したつもりであるから茲には最後に將來の農村として希望を述べて見よう。

一、行政機關

地方民のために、地方民による政治として府縣は勿論地方長官を公選とし、府縣の數は二分の一乃至三分の一に減ずる。交通教育産業各方面の發達した今日維新當時の府縣をこの儘に置くのは無用の事であり、郡役所廢止後の問題は當然府縣の廢合である。

町村は矢張り少くも千戸以上に併合する。千戸以下の農村は相當の文化的發達を遂げしむる單位として小に失する。

名譽職の全廢 町村長は現在の名譽職を廢して有給とする、政治即生活の世の中に名譽職などとして置けば町村長は一部資本階級の壟斷する所となり、今後民衆政治の行はるゝ世の中に人物

を各方面に求むるに極めて不都合である。例へば小作農階級から町村長を求むる場合は勿論、生活の爲めに働く現代の人間としては適材を求むるに不便を感じる。もはや今日は生活の保障なくして何人も公共事業に盡くすことの出来ないのは明かである、今日町村行政の擧らない理由の重要なる一は町村長が名譽職たるが爲めで、相當の報酬を出さないから自然職務に不熱心で、又責める方でも遠慮勝になり、町村長に口實を與ふる事となる。今日は如何なる町村でも町村長に相當の報酬を出し得ない程貧弱な町村はない。僅少の俸給を惜んで莫大の損失を蒙つて居るのが現在の狀況である。

出すべきものを出して活動して貰ふのが能率本位の世の中である。今日の町村長中眞に自治體の主長として充分の責任を盡して居るものが半分あらうか。多くは持廻りか腰掛か他人任せにすぎない。此弊を救ふには有給制度とするが第一肝要である。助役収入役も同様である。即ち現在の市の制度と同様にする。

次には町村吏員の待遇で、其貧弱の程度は言語道斷であるから、此も相當に増額して適當の人材が喜んで働く様にする。少くも月給五十圓平均位にせねばならぬ。

然し此等の改革は同時に人員の整理を條件とし、町村長助役収入役を有給にする以上今少し活動して貰ふのは勿論、町村吏員も遊び半分ではなく、精勵するから人員は現在から三割乃至五割位減じてよ。

斯くして町村の行政組織をして實際本位、能率本位とする。今日は形式や傳統に囚はる時代でな。

民衆本位の政治 行政の方針は從來の稍もすれば資本階級に偏した政治を改めて民衆本位の政治とする。負擔は勿論公平に、事業は町村民の生活本位にして、先づ道路を整へて交通を便利にし、町村民を健康ならしむために衛生設備に力を注ぎ特に傳染病を撲滅する。之には飲用水の改良が一番。下水や便所の設備は是非共衛生的に改良する。生活經濟の方面は後に述べるとして、消防組織を今一層自治的にし火災を防ぐに遺憾なき用意をする。

要するに從來の様に町村長や個人有力者の虚榮のためにする政治はやめて、民衆の生活を愉快にする様に政治をやる。下手な盛り澤山のデパート式の政治は今日の我國に大禁物である。

二、教育機關

小學校 小學校は尋常三年迄は二部教授とし、四年からは隔日授業とし、其代はり一學級三十人を限度とする。二部教授は午前午後教師は勿論別人とする。尋常四年以上を何故隔日授業とするかと云ふに、丁抹の様に農村の子弟は出来る丈農業に手傳はせるため隔日とし、その代はり一學級三十人以下とすれば授業の能率は決して現在に劣らないだけの自信はある、尋常三年以下でも一學級三十人以下とすれば隔日授業で立派に現在丈の成績は擧げらるが、尋常三年以下の子供は餘り農事に手傳はせても効果が少いから。但し農繁の折は出来る丈便宜を計つて農村の小學校は農村らしく經營する。

此利益は三つある。一は兒童を農業に手傳はせ家事の手助けとなると共に、兒童に農業思想を吹き込み、愛農心を涵養せしめる。二には一教室三十人以下になるから教育の能率を高め、個性の發展に注意出來、眞の教育をなすことが出来る。現在の教育の様に、單に教へたと云ふだけの形式教育は毎日通學させても其効果は隔日には及ばない。三には教室職員の上に餘裕が出來、教育費も減少することが出来る。

現在の盲目的傳統的形式的の劃一教育を打破して、教育界に新生命を鼓吹しうる。高等小學校

は勿論同様である。

補習學校 自由主義、強制的に入學させるのは禁物、強制教育は小學教育を最後とする。補習教育の如きものを強制的にするのは教育の本質に反し、決してよい結果の上るものでない。つまり入學したいもの丈入學させる。

教育の内容は公民教育と農業教育で、公民教育は小學校長なり、町村に適任者があれば教員資格などはやかましく云はない。公民教育と云つた所で公民に必要な教育で、何も法的知識のみを授けると云ふのではない。立憲自治體の人間の日常生活に必要な常識教育である。農業教育は實際を主として生徒の家で實習地を一反なり二反なり各耕作させて、桑園を望む者に桑園、稲作を希望する者には稲作を、好む所に従つて野菜其他を栽培させて實際を指導する。學校の授業は實習の閑ひまにやる。農業の教師は實地の經驗あり技能ある人を選ぶ。自然町村技術員等を兼ねる人にならふ。俸給は相當出し、現在の様な薄給の實地に經驗ない人ではいけない。公民教育、農業教育共に少くも一人宛は専任者たることを原則とする。其他兼務教員も待遇を相當にする。學校は通年教授で、唯農繁時は家庭實習を本體とし、一ヶ月に一、二回位召集教授をやる。農閑時は晝

間教授で、夜學は原則とし成るべく避ける。但し農閑時も毎日ではなく隔日授業位で、甲乙兩班とし、學校は毎日授業をする。生徒の多きを競はない。内心から一生懸命に研究したいと云ふ者だけによろ。

尙補習學校の外に農業教育としては一郡に一ヶ所位前述の新しい農學校を建設し、青年の農業教育を施す。

三、産業機關

農業の經營 共同經營を本位とし、各農家は自家勞力の餘剰に應じて、或程度の自作をも營む。前述した通り、日本の農業は耕地が農家一戸當り僅に一町歩で、到底進歩した機械農具を各自整備る様なことは不可能で、自然共同經營により大農經營をやる外に方法がない。然し大農法と云つても歐米の丸呑みでなく、我國の色々の狀況に適した獨特の方法によるべきは勿論である。又我國の農業の大缺陷は原始的單一農業たる點で、歐米の様に工業的農業たらざる點にあるのだから、之を工業的農業たらしむる捷徑は共同經營にある。即ち經濟上から見て日本農業の唯一の活路は此の工業的農業への發展で、従つて將來の農村は是非共此方向に進まねばならぬ。

共同經營の内容 然らば其共同經營の内容は如何にと云ふに、

イ、個々の單位としては、一部落五十戸乃至百戸位を一産業組合として農業の共同經營をする。
 ロ、町村は此等組合を聯合して聯合會を組織する。

而して將來の理想としては町村の耕地の大部分は——自家用野菜家畜養雞の飼養等のために要する些少の面積を除き——組合に提供させて共同經營をするのがあるが、第一歩としては先づ稲作全部の共同經營をやり、此成功と基礎とを俟つて漸次共同經營の範圍を擴張する。従つて畑作は大部分個人經營による、日本の家族主義其他の國情としては、終日組合に出て働けない人々もあり餘剩勞力があるから、一方に自家の農業を営み他方に共同の農業を営むとしたら、當初は却つて經濟的に行くと思ふ。即ち共同經營の範圍を漸次擴張して、其利益が解かるに従ひ、畑作にも及ぼして行く。例へば蠶蠶の如きも、蠶種の製造或は購入、保管及稚蠶飼育等は共同經營とし、又蠶繭の加工販賣等は前述の組合製絲による如きである。

耕地の交換 此には耕地整理と土地の交換とが必要で、共同經營は可成一ヶ所又は數ヶ所に一團宛とし、尙各農家の自作地は成るべく歐米の進歩した農業經營の様に自家の周圍又は近くに一

纏めにする。

各農家の所有面積は前述せる自作農創設の趣旨により一農家二十町歩以下に限定し、小作農は成るべく自作農とする。一農家の耕作面積は共同經營地をも含むは勿論であるが、日本の耕地の現情から見て少くとも一町歩以上、即ち自家の勞力により、自家を支ふるを程度とし、集約的農業を営む。

共同經營は前述の如く稲作本位とし、裏作は勿論含んで綠肥、麥、豆、等の栽培も經濟的に有利なものは機械を應用して大農經營とする。共同經營には事務所、農舎、倉庫等が必要で、出来るならば此事務所は相當の設備をして、組合員の集合所なり俱樂部用のものとし、ラヂオや電話を備へ付けて娛樂の中心機關とする、今後の社會は一家で樂むと云ふよりも、自然一部落なり一町村なり集まつて、雨の日とか、休日とか、夜とかは娛樂を共にすると云ふ風になるから、圖書雜誌新聞等農村に必要な簡易圖書室らしい役目も此所でつとめる。事務室は靴や土足で入れるタキの椅子腰掛の室と、疊で集合などにも役立つ室とを設ける。

農舎は機械農場だから、此に適する様に作り、同時に精米繩、なひ其他に應用するため電力裝置